



RITSUMEIKAN

大学院案内

RITSUMEIKAN GRADUATE SCHOOL GUIDE 2020



立命館大学

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由にに基づき普遍的な価値の創造と人類の諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

Contents

立命館大学大学院 研究科の概要	02	経済学研究科	34
特色あるキャンパス	03	スポーツ健康科学研究科	35
Topic1 大学院生活	05	理工学研究科	36
Topic2 学費	13	情報理工学研究科	37
Topic3 キャリアパス形成支援	15	生命科学研究科	38
Topic4 大学院生の進路・就職	19	薬学研究科	39
Topic5 立命館の研究力	21	経営学研究科	40
Message	23	政策科学研究科	41
各研究科の研究内容一覧	25	テクノロジー・マネジメント研究科	42
法学研究科	27	経営管理研究科[ビジネススクール]	43
社会学研究科	28	人間科学研究科	44
国際関係研究科	29	法務研究科[法科大学院]	45
文学研究科	30	教職研究科[教職大学院]	46
映像研究科	31	立命館大学大学院に関する情報の入手方法	47
言語教育情報研究科	32	各キャンパスへのアクセス	49
先端総合学術研究科	33	超創人財育成プログラム	50

立命館大学大学院 研究科の概要


(2019年3月現在)

衣笠
CAMPUS



	課程	専攻	学位	入学定員
法学研究科 Graduate School of Law	博士課程前期課程	法学専攻	修士(法学)	60名
	博士課程後期課程	法学専攻	博士(法学)	10名
社会学研究科 Graduate School of Sociology	博士課程前期課程	応用社会学専攻	修士(社会学)	60名
	博士課程後期課程	応用社会学専攻	博士(社会学)	15名
国際関係研究科 Graduate School of International Relations	博士課程前期課程	国際関係学専攻	修士(国際関係学)	60名
	博士課程後期課程	国際関係学専攻	博士(国際関係学)	10名
文学研究科 Graduate School of Letters	博士課程前期課程	人文学専攻	修士(文学)	70名
		行動文化情報学専攻	修士(文学)	35名
	博士課程後期課程	人文学専攻	博士(文学)	20名
		行動文化情報学専攻	博士(文学)	15名
映像研究科 Graduate School of Image Arts	修士課程	映像専攻	修士(映像)	10名
言語教育情報研究科 Graduate School of Language Education and Information Science	修士課程	言語教育情報専攻	修士(言語教育情報学)	60名
先端総合学術研究科 Graduate School of Core Ethics and Frontier Sciences	一貫制博士課程	先端総合学術専攻	博士(学術)	30名

びわこくさつ
CAMPUS



経済学研究科 Graduate School of Economics	博士課程前期課程	経済学専攻	修士(経済学)	50名
	博士課程後期課程	経済学専攻	博士(経済学)	5名
スポーツ健康科学研究科 Graduate School of Sport and Health Science	博士課程前期課程	スポーツ健康科学専攻	修士(スポーツ健康科学)	25名
	博士課程後期課程	スポーツ健康科学専攻	博士(スポーツ健康科学)	8名
理工学研究科 Graduate School of Science and Engineering	博士課程前期課程	基礎理工学専攻	修士(理学)修士(工学)	50名
		電子システム専攻	修士(工学)	140名
		機械システム専攻	修士(工学)	140名
		環境都市専攻	修士(工学)	120名
	博士課程後期課程	基礎理工学専攻	博士(理学)博士(工学)	6名
		電子システム専攻	博士(工学)	8名
情報理工学研究科 Graduate School of Information Science and Engineering	博士課程前期課程	情報理工学専攻	修士(工学)	200名
	博士課程後期課程	情報理工学専攻	博士(工学)	15名
生命科学研究科 Graduate School of Life Sciences	博士課程前期課程	生命科学専攻	修士(理学)修士(工学)	150名
	博士課程後期課程	生命科学専攻	博士(理学)博士(工学)	15名
薬学研究科 Graduate School of Pharmacy	修士課程	薬科学専攻	修士(薬科学)	20名 ※
	博士課程	薬学専攻	博士(薬学)	3名

大阪いばらき
CAMPUS



経営学研究科 Graduate School of Business Administration	博士課程前期課程	企業経営専攻	修士(経営学)	60名
	博士課程後期課程	企業経営専攻	博士(経営学)	15名
政策科学研究科 Graduate School of Policy Science	博士課程前期課程	政策科学専攻	修士(政策科学)	40名
	博士課程後期課程	政策科学専攻	博士(政策科学)	15名
テクノロジー・マネジメント研究科 Graduate School of Technology Management	博士課程前期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	修士(技術経営)	70名
	博士課程後期課程	テクノロジー・マネジメント専攻	博士(技術経営)	5名
経営管理研究科[ビジネススクール] Graduate School of Management	専門職学位課程	経営管理専攻	経営修士(専門職)	80名
人間科学研究科 Graduate School of Human Science	博士課程前期課程	人間科学専攻	修士(人間科学)修士(心理学)	65名
	博士課程後期課程	人間科学専攻	博士(人間科学)博士(心理学)	20名

朱雀
CAMPUS



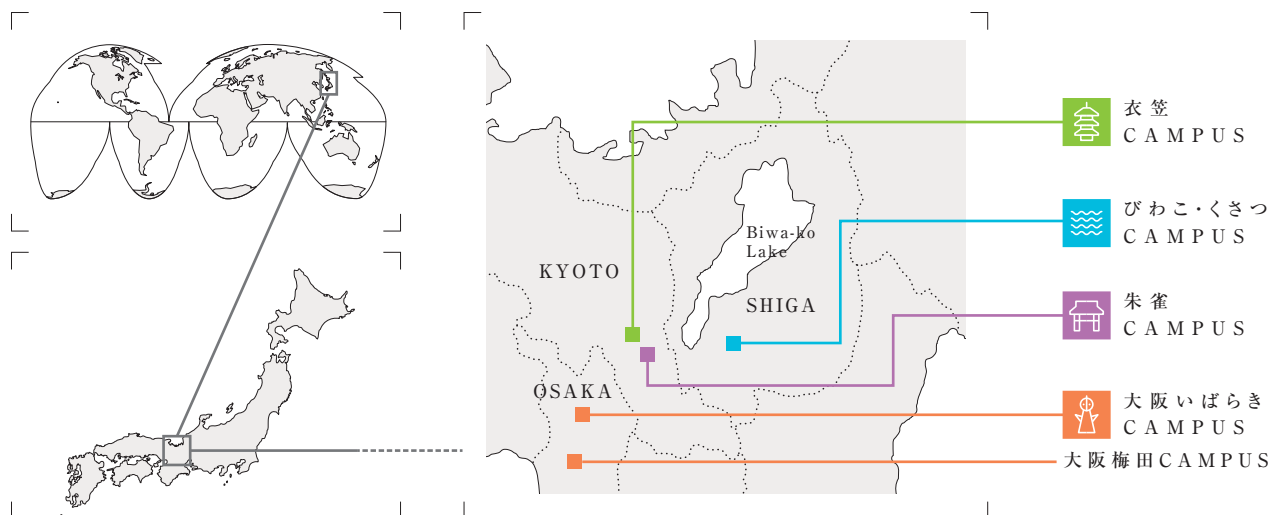
法務研究科[法科大学院] School of Law	専門職学位課程	法曹養成専攻	法務博士(専門職)	70名
教職研究科[教職大学院] Graduate School of Professional Teacher Education	専門職学位課程	実践教育専攻	教職修士(専門職)	35名

- ・* 夜間にも講義を行っています。詳細は各研究科のHPをご覧ください。各研究科事務室までお問合せください。
- ・E 授業を英語でおこなう科目のみで学位取得に必要な単位を取得できる研究科
- ・※ 設置認可申請中。詳細は薬学研究科ホームページをご参照ください。

自分を変える 世界を変える その場所は

地域に根ざし、世界と協働する 教育・研究を支える4つのキャンパス

21世紀の社会が求めるグローバル人材育成のためには、新しい教育プログラム、研究環境の充実が必要となります。国際社会で広く活躍できる人材をこれまで以上に育てていくための新たな環境づくりの一つとして、2015年4月に「大阪いばらきキャンパス」を開設しました。京都、滋賀、大阪というそれぞれに特色あるエリアにキャンパスを設置することで、キャンパス間で相互連携を図り、広く知識と情報の共有を可能にしていきます。また、近年では新しい教育・研究施設の建設も進み、これまで以上に教育・研究の環境充実と高度化を進めていきます。



CHECK IT

グローバル化が進み世界がますます狭くなるなか、将来、あなたのデスクの横に座る人は日本人とは限りません。アメリカの上場企業における管理職は半数が「大学院修了」。諸外国では大学院進学率が上がり、責任ある知的なポジションに求められるグローバルスタンダードは、ドクターやマスターという水準に移行しています。そのような世界で、あなたは、どのように闘っていきますか。

■ 企業管理職等における学歴

	アメリカ上場企業管理職	日本企業役員等
大学院修了	50%	6%
大学卒業	45%	61%
大学卒業未満	5%	33%

【出典】米区分:日本労働研究機構が実施した「大卒ホワイトカラーの雇用管理に関する国際調査(平成9年)」(主査:小池和夫法政大学教授)人事部長、営業部長、経理部長の平均値
日本分:総務省「就業構造状況調査(平成19年度)」従業員5,000人以上企業対象

■ キャンパス紹介



🏠 京都／衣笠CAMPUS

古都・京都の歴史と文化が息づく、
多様な人文社系研究科が集まるキャンパス

古くから日本の中心として、長く厚みのある歴史をもち、多くの文化遺産に囲まれた地、京都。その中でも、古都の名利に囲まれた閑静なエリアに位置し、日本の伝統や文化に触れながら先端の研究を世界へ発信する、伝統と創生のキャンパス。

- 法学研究科 ● 社会学研究科 ● 国際関係研究科 ● 文学研究科 ● 映像研究科
- 言語教育情報研究科 ● 先端総合学術研究科

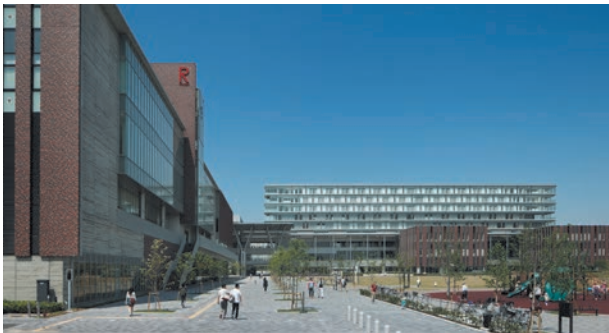


🌊 滋賀／びわこ・くさつCAMPUS

豊かな自然を活かし、国際水準の教育・
研究環境を備えたキャンパス

私立大学最大級の理系教育・研究施設を備えるびわこ・くさつキャンパス（BKC）は、琵琶湖を含む大自然や、企業の研究施設が近くに位置する立地を活かした研究活動を実施しています。世界標準の教育研究、知見、技術を創出し、世界・地域へ発信するイノベティブ・キャンパス。

- 経済学研究科 ● スポーツ健康科学研究科 ● 理工学研究科
- 情報理工学研究科 ● 生命科学研究科 ● 薬学研究科



🏢 大阪／大阪いばらきCAMPUS

商都・大阪で教育・研究のフィールドを
アジアへと広げるキャンパス

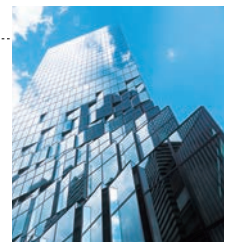
大阪いばらきキャンパス（OIC）は、「アジアのゲートウェイ」として国際的な学びの拠点として位置づけています。また、「商都・大阪」という地域性を活かして、地域・社会と連携した教育・研究を進化させている最新のキャンパス。

- 経営学研究科 ● 政策科学研究科 ● テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科[ビジネススクール] ● 人間科学研究科

■ サテライトキャンパス 大阪梅田CAMPUS 大阪・梅田駅前に位置する、アクセス至便のキャンパス

社会的ネットワークの強化や就職支援に加え、学び・研究の拠点として大学院の授業を展開。多目的に利用できる最新設備を備えています。

- 言語教育情報研究科
- テクノロジー・マネジメント研究科
- 経営管理研究科[ビジネススクール]



🏠 京都／朱雀CAMPUS

京都の歴史・文化と、都市の利便性・
充実の研究設備をあわせもつキャンパス

専門職大学院を抱え、多様な研究スタイルに応える充実した研究設備や自習環境を備えています。古都・京都の中心部に位置し、京都の歴史・文化に触れながら、都市型キャンパスの利便性をあわせもつキャンパス。

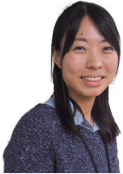

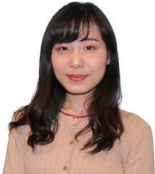



- 法科大学院(法務研究科)
- 教職大学院(教職研究科)

CHECK IT Beyond Borders Plaza (BBP)

衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス、大阪いばらきキャンパスで、語学学習や国際交流を目的とした新たな学習スペースとして2018年に開設されました。BBPでは外国語学習教材の提供、留学相談の実施、国内学生と留学生の交流イベントなど、様々な支援や企画が展開されます。国際交流の拠点としてぜひ活用してください。





大学院における研究活動の流れ

		博士課程前期（修士）課程	博士課程後期課程	専門職学位課程（MBA） [マネジメントプログラムの例]
1年目	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 授業選択 ● 修士論文のテーマを見つける 	<p>CHECK!</p> <p>博士課程後期課程に進学する場合は2年目の秋学期に入学試験を受験する場合があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 基礎科目を中心に履修（春1クォーター・春2クォーター） ● 「フィールドワーク」を受講（夏集中科目）
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 就職活動の準備、情報収集 ● 修士論文のテーマを絞る ● 勉強会への参加 ● 就職活動準備 		<ul style="list-style-type: none"> ● 展開科目を中心に履修（秋1クォーター・秋2クォーター）
2年目	春学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 学会参加、発表 ● 就職活動 ● 修士論文の研究計画書の立案 		<ul style="list-style-type: none"> ● 課題研究レポートのテーマを設定（春1クォーター） ● 課題研究と展開科目を中心に履修（春1クォーター・春2クォーター）
	秋学期	<ul style="list-style-type: none"> ● 中間報告会準備・発表 ● 修士論文の提出 ● 口頭試問、公聴会 ● 修士号取得 		<ul style="list-style-type: none"> ● 課題研究レポートの執筆が佳境に（秋1クォーター） ● 課題研究レポートを提出。口頭試問の準備（秋2クォーター）
3年目	春学期	 <p>言語教育情報研究科／ 2008年度修了 酒井 友里さん ▶ P.07</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文テーマの絞り込み ● 研究会参加 ● ゼミでの研究報告 	
	秋学期	 <p>テクノロジー・マネジメント研究科／ 2017年度修了 水谷 仁さん ▶ P.09</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外リサーチ ● リサーチ資料の整理・分析 ● 論文投稿 	
4年目	春学期	 <p>文学研究科／ 在學生 松本 小夜子さん ▶ P.11</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料収集・資料整理・分析 ● 学会参加、発表 ● 2本目の論文投稿テーマ設定 	 <p>スポーツ健康科学研究科／ 2018年度修了 笠井 信一さん ▶ P.08</p>
	秋学期	 <p>情報理工学研究科／ 在學生 勝又 勇貴さん ▶ P.12</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 資料分析 ● 投稿論文執筆 ● 博士論文執筆 	
5年目	春学期		<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文構想発表会 ● 博士論文執筆 ● 学会参加、発表 	
	秋学期		<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会 ● 博士号取得 	

大学院生がどのように研究や就職活動を行っているかご存知ですか。各課程の例をご紹介します。

※以下は過ごし方の例であり、研究科や個人により異なります。

P.07～12のインタビュー記事は、個人の当時の経験や感想を通して、大学院での生活や雰囲気をご紹介することを旨としており、当該研究科の現在のカリキュラム、プログラム、状況等とは異なる場合があります。
P.25～46の研究科情報や、各研究科のWEBサイト、パンフレット等もあわせてご参照ください。

専門職学位課程 (教職)	専門職学位課程 (法務) [法律未修者の例]	4年制博士課程	一貫制博士課程
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習校・コースの決定 ● 教員採用試験の受験準備 ● 教職専門研修(実習)の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義科目で徹底して各法の基礎を学ぶ ● 実務家教員による「法曹倫理」を受講 ● エクステンションセンター講座を受講(司法試験合格まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究テーマの設定、課題絞り込み ● 研究計画書提出 ● 研究の具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究課題の絞り込み ● 研究指導計画書提出 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
<ul style="list-style-type: none"> ● 教職専門研修報告会 ● コース科目の履修 ● 2年目の長期実習に向けた振り返りと計画作成 	<ul style="list-style-type: none"> ● 演習科目で応用力を身につける ● 基礎法学・隣接科目で視野を広げる ● 夏期短期海外プログラムなどで国際性を磨く 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究中間発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究課題の具体化 ● 論文作成基礎力養成 ● 調査、資料収集、文献研究等
<ul style="list-style-type: none"> ● 教員採用試験の受験準備 ● 教職専門研修の実施と報告会 	<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床科目で法実務の現場(法律相談)を体験 ● 選択科目を受講しながら将来の専門分野を検討 ● 司法試験に出願(修了後に受験*) <p><small>*司法試験の受験時期は関連法案の改正により変更になる場合があります</small></p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究計画の進捗確認・見直し ● 学会参加、発表 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究指導計画書提出 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士予備論文執筆
<ul style="list-style-type: none"> ● 実習の振り返りと理論化を行い、「理論と実践の往還」による学びの成果を教育実践探究論文にまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究中間報告会 ● 投稿論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士予備論文提出、口頭試問 ● 修士課程相当30単位を取得 ● 調査、資料収集、文献研究等 ※修士号取得退学可
<p>CHECK!</p> <p>法学未修者コース：3年 法学既修者コース：2年 の2つのコースがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究計画の見直し、精緻化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究指導計画書提出 ● 学会参加、発表 ● 紀要・学会誌等の論文執筆 ● 調査、資料収集、文献研究等
<p>法学研究科 法学既修者コース/ 2015年度修了 千葉 あすかさん ▶ P.10</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文提出 ● 口頭試問 ● 公聴会(一般公開) ● 博士号取得 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究中間報告会 ● 学会参加、発表 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学会参加、発表 ● 調査、資料収集、文献研究等
	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ● 博士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究指導計画書提出 ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 紀要・学会誌等の論文執筆
	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得 		<ul style="list-style-type: none"> ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得
			<ul style="list-style-type: none"> ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得
			<ul style="list-style-type: none"> ● 調査、資料収集、文献研究等 ● 博士論文提出 ● 口頭試問、公聴会(一般公開) ● 博士号取得

酒井 友里さん(京都市立中学校 英語科教員) 衣笠キャンパス

大学院が、教師としての私の基盤を作りました。

英語を外国語として学習する環境(特に学校での英語の授業内)で、どのような英語がどのくらい使われているかを調査、分析し、日本の英語教育において必要な英語学習環境を提案する研究をしていました。公立中学校の英語の授業も見学・分析しながら、研究を深めました。

私自身の教師としての基盤を作ったのは大学院時代だったと感じています。英語教師として必要な英語力、知識、そしてともに頑張れる存在がいることは今も私自身の大きな支えになっています。学部で卒業する人たちに比べれば、少々遠回りをしているように見えるかもしれませんが、それだけの時間をかける価値はあると思います。そう言えるように、充実した2年間を過ごしてください。



大学院での2年間の過ごし方

1回生		2回生	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
<ul style="list-style-type: none"> 音声学、テストング、第二言語習得論など、英語教育学に関する幅広い講義を受講し、英語教師として必要な知識を習得しました。 リサーチペーパー(修士論文)に向けての研究を進める研究手法の講義を受講しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 交換留学生として、UBC(ブリティッシュコロンビア大学)へ単身留学 *意外かもしれませんが、留学プログラムがある研究科も少なくありません。 	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文作成へ向けてテーマの絞込み 夏に実施される教員採用試験に向けての勉強と準備。面接練習は研究科の仲間と行いました。 	<ul style="list-style-type: none"> リサーチペーパー作成 リサーチペーパー研究発表会(コロキウム)

●TESOLプログラム(夏期休暇)

- 1回生 TESOL資格取得のため、カナダのブリティッシュコロンビア大学(UBC)へ研究科の仲間と短期留学。現地の学生と一緒に資格取得のための夏季集中講座を受講しました。
- 2回生 2年目のTESOLプログラム参加。立命館宇治高校での実地研修にカナダからの留学生とともに参加し、英語の授業を参加者全員で作りました。

*TESOLとは英語ネイティブではない方に英語を教えるための国際的な資格。言語教育情報研究科では海外大学において夏期にプログラムを開講しており、修了者にはCertificateが授与されます。

●ブリティッシュコロンビア大学(UBC)へ交換留学

大学院入学前から応募していた交換留学の制度を利用し、UBCへ単身留学をしました。これが私の人生で初めての留学でした。新しい生活環境、新しい仲間、そして新しい研究分野との出会いは自分自身の視野を広げてくれる大切な経験になりました。1回生の夏期休暇にUBCで受講したものは違う講義を受講し、言語習得に関する見地をさらに深めることができました。特に社会言語学的な視点から見た言語習得理論はとても興味深く、のちのリサーチペーパーにもつながる成果を得ることができました。講義内容は初めてのものが多く、さらに言語は英語ということで、授業についていくのがとても大変でした。自分の言いたいことがうまく英語で表現できず、悔しい思いもたくさんしました。しかし、ここで経験したことは英語教師として、自分の指導方針を指し示す大きな指針となっております。また、この留学では寮生活を送っていたのですが、そこで同じ部屋になったルームメイトとは、今も交流を続けています。



大学院進学の魅力、強みと考えること

●同じ分野に興味のある仲間と、ともに学べること

教育や英語教育学、そして言語習得について、それぞれの想いや志を持った仲間がたくさん周りにいました。その仲間たちとたくさん話をし、意見を交流させました。教師となった今も、仲間たちが頑張っている姿を見て、励まされています。そして教師として尊敬できる、たくさんのお会いすることができました。先生方のようにになりたい、一歩でも近づきたい、と思うことが、今の私の原動力となっています。

●キャリアに生きる、より専門的な知識が自身の強みになること

学部では学ぶことのなかった、より専門的な知識を勉強できたことは教師となった今も大きな強みとなっています。教員採用試験の英語の専門試験では、ライティングやスピーキングのテストを通して、自分自身の英語力が飛躍的に向上していることを実感し、改めて大学院の2年間での自分自身の成長を感じることができました。



書庫(修学館)
図書館にはおいていない書籍や論文を探して、よく書庫を訪れました。

よく利用した施設・好きだった場所

課題をするため、調べ物をするため、そして友人と話をするために、毎日夜遅くまで共同研究室に滞在していました。現在、言語教育情報研究科の共同研究室は、2015年4月にオープンした究論館に移っているようです。すてきですね。



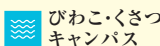
究論館(大学院専用施設)

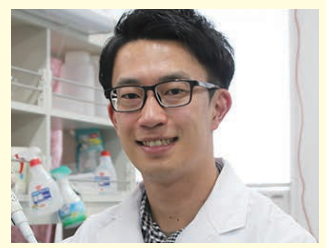
夜の講義が多かったので、講義の前にここで夜ご飯を食べていくのが日常でした。

*写真は、2018年に全面改修された存心館地下食堂「ぞんち」です。



存心館食堂

スポーツ健康科学研究科 博士課程後期課程／2018年度修了
笠井 信一さん(国立スポーツ科学センター JISS) 



好きな研究に打ち込み、学会参加に励んだ5年間。

私の研究テーマは「低酸素環境下におけるスプリントトレーニングの効果」です。これまで低酸素トレーニングは持久性能力の改善を目的に広く実施されてきましたが、近年では無酸素性(スプリント)能力の改善にも注目されています。そこで、球技選手や陸上競技短距離選手を対象に低酸素トレーニングを実施し、その効果を運動パフォーマンスだけでなく様々な生理応答から検討しています。
 大学院の魅力は、疑問に思うことを自ら明らかにできることだと思います。学部生では経験することのできない、一歩踏み込んだ研究・実験を楽しみましょう!

大学院での5年間の過ごし方

博士前期課程		博士後期課程		
1回生	2回生	1回生	2回生	3回生
<ul style="list-style-type: none"> ・国際学会(フロリダ) ・国内学会(長崎、岡山) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際学会(サンディエゴ) ・国内学会(和歌山) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際学会(ボストン・ソウル) ・国内学会(岩手) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術振興会特別研究員(DC2)として採用 ・国際学会(コロラド、滋賀) ・国内学会(愛媛・東京) 東京はシンポジストとして発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際学会(ミネアポリス・パース・チェジュ) ・国内学会(福井、大阪) ・就職活動:11月~12月末

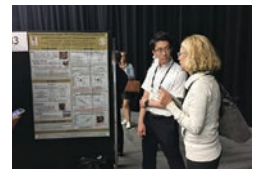
●国立スポーツ科学センターとの共同研究

これまで、アスリートを対象に低酸素環境下でのスプリントトレーニングを実践し、その効果を検証してきました。博士前期課程1回生の時には、国立スポーツ科学センター(JISS)にて5日間連続での低酸素環境下におけるスプリントトレーニングを実施してMR装置を用いて骨格筋内のエネルギー基質の変化を検証しました。さらに、博士後期課程2回生時には、自身の研究(低酸素トレーニングにおけるトレーニング効果の機序を検証)の実施およびインターンで約2ヶ月間JISSにおいて研究を続けていました。自分の研究に没頭できたことはもちろん、日本のトップアスリートに対する研究を間近で見ることができ、よい刺激を受けました。これらの経験を活かし、本学陸上競技部の短距離選手に対するトレーニング指導や体力測定を行っています。選手と一丸となり目標を達成する瞬間が一番の喜びであり、やりがいを感じますね。



●国際学会

博士前期課程1回生から博士後期課程3回生までの5年間、年に1回アメリカスポーツ医学会に参加してきました。自分の研究を発表し、世界の研究者からアドバイスをいただける貴重な経験をさせていただきました。国際学会の研究発表はもちろん英語です。質疑応答も英語。後藤一成先生には日頃から英語での論文執筆やプレゼンテーションのご指導をいただき、この時も口頭発表および質疑応答を繰り返し繰り返し準備して挑みました。自分の思ってもいないような質問がくることもあり、冷や汗が出ることもありましたが、事前準備をしっかりしていたおかげで、何とか英語で回答することができました。国際学会では世界の最新の研究を知ることができます。著名なオーストラリアの研究者と話す機会があった時には、こぞとばかりたくさんの質問をしました。学会の時間内に話を終わらせることができず、翌朝コーヒーに誘っていただき議論を交わしたことはよい思い出です。



大学院進学の魅力、強みと考えること

●大学院の学位が必要なキャリアも選べる

私は国立スポーツ科学センターで勤務し、トップアスリートの競技をサポートすることを目標としていましたが、JISSで働くためには博士号を取得することが必須でした。将来自分がめざすキャリアにどのような学位が必要か、学部生のうちから意識しておくことは大切だと思います。私は目標として描いていたキャリアがあったため、博士後期課程に進みました。継続して研究を進められることは有意義であり、充実した5年間を過ごすことができました。

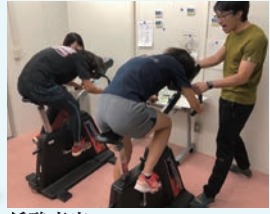
●論理的な思考力が鍛えられる

研究を進めていく中で出てきた問題を、筋道を立てて解決していく論理的な考え方ができるようになりました。このことは研究だけでなく、社会で生きていく上でも重要なスキルだと思います。また、ゼミ生への卒論指導などを通して教育・指導的なスキルの自信もつきました。



よく利用した施設・好きだった場所

立命館大学の低酸素室はアスリートのトレーニングに積極的に利用できるめずらしい施設です。ここでは、最新の知見を基に本学の選手をサポートしていました。立命館大学では陸上競技部の数多くの選手にも協力してもらい、理論と実践の両面からアプローチする研究力が身につきました!




低酸素室

1年間に15~20の研究を研究室内のチーム全員で行っていました。これらの研究の合間にデータ解析や論文執筆を行うなど、忙しい毎日でしたが充実した大学院生生活を送っていました。



研究室のメンバー

水谷 仁さん(日本電産株式会社)  大阪いばらき
キャンパス



理工学部からテクノロジー・マネジメント研究科(MOT)へ進学。

立命館大学理工学部出身の私がMOTへの進学を意識したのは、学部3回生の初め、教養科目として受けた経営学の先生の授業がきっかけでした。入学以降、とにかく大学生活に集中し、いろいろな経験をする中で、自分の性格的な向き・不向きや得意なこと・苦手なこと、やりたいこと・やりたくないことが見えてきていたので、授業を受けたときに「これだ」と気付くことができました。

今から進学を検討する学部生には、授業に加え、低回生のうちから「日本経済新聞」を読んでおくことを強くすすめます。社会の動きを知ることで、周りに流されずに、自分自身で進路を選ぶ力がつきます。

大学院での2年間の過ごし方

1回生		2回生	
通期	夏期休暇中	通期	夏期休暇中
<ul style="list-style-type: none"> 前期:経営基礎学習(理工学部から進学したため) 後期:プラクティカム(長期の企業インターン) 	<ul style="list-style-type: none"> 夏期集中講座 企業研究開始 	<ul style="list-style-type: none"> 前期:就職活動 後期:修士論文執筆 	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文テーマ設定 学部までの専門と異なる学習をするため、テーマ設定は2回生以降になります。

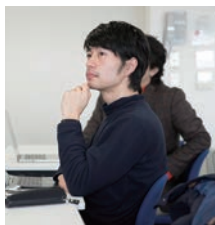
●学部3回生でMOT進学を決意。4回生の過ごし方は…

学部3回生のときにMOTに行こうと決めましたが、それは在籍している理工学部の研究科とは異なる研究科への進学を決めるということでもありました。

そのため理工学部4回生のゼミは、「自身でテーマを設定できる場所」という視点で選択しました。配属された研究室で、指導教員に「水道事業と経営に興味がある」ことを相談したところ、経営の観点も含め、水道事業に明るい研究員を紹介してもらい、MOTへの進学にも繋がる、希望に沿った指導を受けることができました。

●授業中心の日々

大学院生になると、授業よりも一人で研究を進める時間が多くなる印象がありますが、MOTでは経営を基礎から学ぶ必要があったため、授業の時間がしっかり入っていました。授業準備も含めると、かなり密度の濃い毎日をご過ごすことになりました。



そのため、明確な意思を持たずに進んだ人にとっては、厳しい毎日になるかもしれません。逆に、意識を高く持てば、2年間で元の自分の専門知識ともう一つの専門知識の両方を活用する力を実質的に身につけることができると思います。

●プラクティカム

MOTには、インターンシップを発展させた「プラクティカム」があり、実習先企業が抱える課題に学生が取り組む「課題解決型長期実習」が行われています。

私は「プラクティカム」でベンチャー企業のスタートアップに携わり、インバウンド向けアプリを開発し、市場へ出すことに携わりました。そこで行うマーケティングは、自分の足で現場を歩き、ユーザーと同じ視点で「こういう機能があったらいいな」を探るものとなりましたが、実践的で、書面ベースではない泥臭い作業が、良い製品の開発に繋がっていくことを実感できる機会となりました。

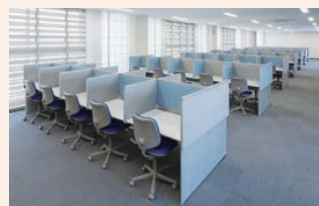
大学院進学の魅力、強みと考えること

●社会人学生が多いこと

大学院では、社会人の割合が増えると思います。MOTでは半分近くが社会人学生なのですが、現役で社会で働いている方のお話を直接聞くことができたのはプラスになりました。学生のうちから働くことを意識できるため、この経験が社会に出るまでのクッション的な要素となり、スムーズに社会人生活に入ることができました。立命館のMOTは民間出身の先生が多く、その点もプラスだったと思います。

●ディスカッションを通じ、伝える力が伸びること

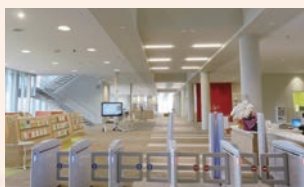
MOTの授業はディスカッションが中心でしたが、決められた時間の中で自分の考えをいかに相手に伝えることができるか、MOTであれば高度で難しい技術をいかにキャッチーで伝わりやすい表現に置き換えるかを常に訓練している状況でした。そのために、時間の制限を意識することが身につきましたし、本をよく読むようになり、TPOで言葉のチョイスもできるようになるなど、就活においても役立ったと実感しています。



共同研究室
研究室の仲間が集まっているので、息抜きの際でもありました。

よく利用した施設・好きだった場所

集中して研究するときは、図書館と決めていました。OICの図書館も利用しましたが、自宅が近いことからBKCの図書館によく通っていました。違うキャンパスの図書館も利用できるのは魅力ですね。



図書館(OICライブラリー)

大学院生専用のcommonsがあります。研究室のメンバーで研究発表の練習をするときなどに利用していました。



リサーチcommons

法務研究科(既修者コース) 専門職学位課程 / 2015年度修了

千葉 あすかさん(弁護士) 朱雀キャンパス

大学院は、多くの人と出会い、関わることのできる場所でした。

司法試験に向け、法律知識の吸収・定着に励みました。また、実際に弁護士・検察官・裁判官として勤務なされている実務家の先生方に教わることを通じて、法曹として働く上で必要な実務感覚等を養いました。法科大学院は、単に知識を得るだけでなく、多くの貴重な経験をする事ができ、また、多くの人と関わる事ができる場所です。大学院での2年間は、本当にあっという間ですので、ぜひ、「自ら学びに行く」という姿勢で、できる限り多くのことを学び、経験してください。その学びや経験が、将来かならず活かしてくるはずです。



大学院での2年間の過ごし方

1回生		2回生	
通期	夏期休暇中	通期	夏期休暇中
<ul style="list-style-type: none"> ・正課授業の予習・復習をベースに、知識のインプットをしました。 ・弁護士ゼミ受講 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題集を解き、知識のアウトプットに力を入れました。 ・弁護士ゼミ受講 	<ul style="list-style-type: none"> ・正課授業の予習復習 ・弁護士ゼミ受講 ・司法試験の過去問を解き始めました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士ゼミ受講 ・エクスターンシップ →弁護士事務所で10日間の実習を受けました。

● 弁護士ゼミ(エクステンションセンター)

実務家として実際に働いていらっしゃる弁護士の先生に、司法試験における答案の書き方等を教わりました。法律知識を学んでも、うまくアウトプットすることができなければ、司法試験の合格は困難です。弁護士ゼミを通じて、知識を無駄にしないアウトプットの方法が身につく、そこから「アウトプットを意識したインプット」もできるようになり、効率的に勉強できるようになりました。間違いなく、私にとっては、司法試験合格に不可欠な存在でした。

弁護士ゼミは修了生の受講も認められているため、修了後も受講を続けていました。大学院を修了し正課授業が無い中、週1回のゼミは答案添削を受ける貴重な場となりましたし、モチベーションの維持にもつながりました。

● 模擬裁判(刑事)

正課授業の一環で、刑事模擬裁判を行いました。それまで刑事裁判の手続について定めた刑事訴訟法の勉強はしてはいましたが、各条文が規定する場面の具体的なイメージはつかめていませんでした。模擬裁判を通じて、起訴から判決までの刑事裁判手続を一通り自分たちで行うことで手続のイメージがで、「この条文はこの場面で意味を有するのか」ということを、身をもって学ぶことができ、基本書の知識も吸収・定着しやすくなったと痛感しました。



● エクスターンシップ

弁護士事務所に実習に行き、書面の起案や判例・文献調査をしました。学部時代に弁護士事務所で受けた実習もとても刺激的で、弁護士に憧れを抱ききっかけとなりましたが、ある程度法律知識が蓄えられた大学院2回生で臨む実習は、全く別物でした。起案に求められるレベルも違いますし、弁護士の職務に対する視点も大きく異なりました。弁護士として働く上で、知識だけ有しているのでは足りないということ、また、知識がなければ通用しないのだということ、自らの経験として実感できた、大変貴重な機会でした。

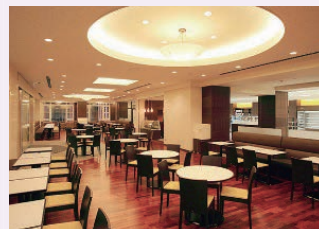
大学院進学の魅力、強みと考えること

● 実務でも通用しうる知識や能力を得られること

知識面では、正課授業における先生とのやり取りで実践的な知識の不足を実感できますし、実務家教員による授業を通じて、実務家の考え方を学ぶこともできます。また、同じ目標を持った学生たちとの議論を通じて、自分の考えを整理し、相手に伝える能力を養うこともできます。法律知識の勉強は一人でも行えますが、そうした知識や能力の獲得は、独学では難しいのではないかと思います。

● 多くの人と出会えること

司法試験に落ち、自信を喪失して目指すべき道を見失い、一度は法曹になる道をあきらめたこともありますが、そのとき再度受験する勇気と、純粋に「このような弁護士になりたい」という目標をくださったのが、在学時に弁護士ゼミや正課授業でお世話になった先生方でした。先生方と出会っていなければ、今、弁護士として働いている自分は存在しなかったと断言できます。



ラウンジ
学生が多く集まります。息抜きする場になっています。

よく利用した施設・好きだった場所

1人1つの机が割り当てられ、自由に使うことができました。カーテンを引けば、個室のような空間にすることができますので、集中して勉強することができました。修了後も使用することができましたので、とてもありがたかったです。



自習室

法律関係の書籍が豊富に置いてあり、判例・学説調査をするときは大変助かりました。また、机も数多く設置されていますので、気分を変えて図書館で勉強することもありました。



図書館

文学研究科 博士課程前期課程1回生

松本 小夜子さん 衣笠キャンパス

国際的な学びをしたい人々を、支えたい。

イギリス中世文学における女性について研究しています。卒業後は、教育関係の職場で、国際的な学びをしたい人々を支える仕事をしたいです。将来的には博士後期過程への進学も視野にあるので、時間があれば学会に参加するなどして、英文学にも関わりたいです。

教授との距離が近く、鍛えられます。

大学院の授業は基本的に少人数なので、教授との距離が大変近く、とても専門的な議論ができます。受け身ではなく主体的に参加することが求められますが、「その考えは面白い」と教授に言ってもらえた時などは大変嬉しいです。発表やディスカッションが多いので、発想力や伝える力も鍛えられています。



1週間のスケジュール

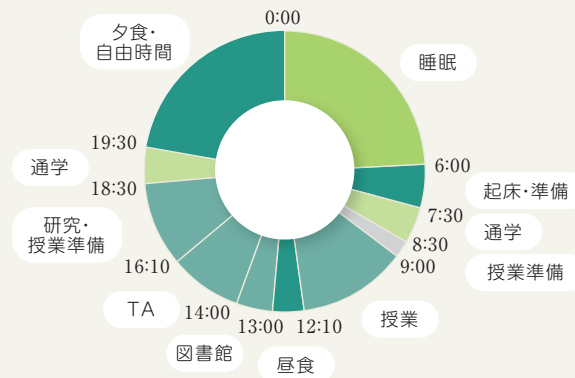
	月	火	水	木	金	土/日
午前	究論館	究論館	授業	TA	授業	基本的には究論館
午後	究論館	TA 研究会	TA	授業	授業 TA	たまには… ・映画鑑賞 ・クッキング ・友人と食事 ・カフェ巡り
夜	18:00までは究論館 それ以降は自宅で読書など、ゆっくり過ごします。					

大学院での2年間の過ごし方

	春semester (4月~9月)	秋semester (10月~3月)
1回生	<ul style="list-style-type: none"> 授業選択 研究計画立案 教育実習 	<ul style="list-style-type: none"> 文献収集/文献研究 学会参加 修士論文アウトライン作成
2回生	<ul style="list-style-type: none"> 単位互換制度で、他大学の授業に参加 就職活動開始 最終論文執筆開始 学会発表 	<ul style="list-style-type: none"> 修士論文執筆→提出(1月末) 口頭試問

国際的な発信力を考え、修士論文は英語で執筆予定。大学院の授業で英語力が鍛えられ、特に対策はしなかったのですが、学部時代には難しかったTOEIC満点取得も遂に達成しました！

ある1日のスケジュール



朝から夕方まで究論館で過ごしています。夜は自宅ですが、忙しいときは自宅でも授業準備や課題作成するなど、大学院生は研究中心の毎日です。大学院生活はあっという間に過ぎていきます。その中で何をやりたいかをしっかりと決めて計画的に行動すれば充実した2年間になると思います！

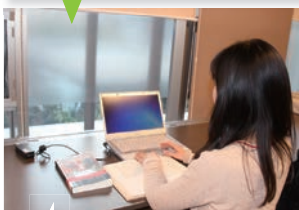
色々な専攻の院生と集まって研究会を開催している様子です。他専攻や他学年の人との関わりが増えました。

授業数が少なくなり、1人で研究をしたり授業の予習をしたりする時間が多くなった分、他の時間はできるだけ人と関わる機会を持つようになっています。他学部の院生もいる研究会に所属したり、先生方と読書会を開いたり、学生団体や大学主催のイベントやセミナーにも参加しています。研究外のことを学べるだけでなく、とても良い気分転換になります。



衣笠キャンパスにある、とても立派な平井嘉一郎記念図書館を利用できるだけでなく、大学院生は関関同立などの他大学の図書館も利用しやすくなります！
※本学と他大学との協定による

Q.いつも過ごしている究論館(大学院専用施設)の様子を紹介してください。



いつでも借りられるノートPC。館内のいろいろなところで利用できます。



一人ひとつある個人ロッカー。参考図書がたくさん置いて便利です！




共有スペースにはキッチンもあるので、勉強の合間に温かい飲み物や食べ物が作れます。



大学院生用の自習室は設備が整っていて、とても集中しやすいです。

情報理工学研究科 博士課程前期課程1回生

勝又 勇貴さん  びわこ・くさつ
キャンパス

人間の代わりに家事をして、人を幸せにするロボットを作りたい!

家庭用ロボットに、自動で場所に関する知識を獲得させることを目的とした研究をしています。将来は、家庭内労働を担うロボットの人工知能開発に携わりたいと考えています。

研究活動を行う上では、先行研究の理解を大切にしています。

研究というのは人類の集合知の外側を目指していくものなので、内側にはどのような知識があるのか、自分の知識を活かせばどの部分に貢献できるのかを理解することが必要だと考えています。

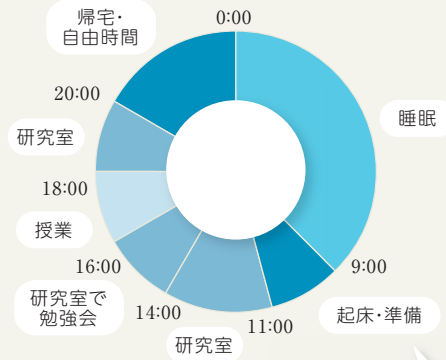
また、どのような実験を行えば自分の提案手法を効果的に見せることができるか考えることに注力しています。



1週間のスケジュール

	月	火	水	木	金	土/日
午前				ゼミ TA		基本的に研究室 気が向いたらどこか遊びに行く (卒業する前に滋賀県を観光しておこうと思って石山寺や草津街あかり、メタセコイア並木などに行きました)
午後	研究室	授業 勉強会	勉強会	研究室	授業 ゼミ	
夜	アルバイト	研究室	アルバイト	研究室	研究室	

ある1日のスケジュール



大学院での2年間の過ごし方

	春semester (4月~9月)	秋semester (10月~3月)
1回生	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の単位取得や研究計画 ・国内学会発表 ・英語論文執筆 ・RoboCup Japan Open ・インバーション・ジャパン ・インターン 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院の単位取得 ・World Robot Summit 2018 (経産省主催の大会) ・HSR Home Chores Challenge (トヨタ自動車主催の大会) ・自分の研究の問題点を解決するための新しい研究 ・就職活動
2回生	<ul style="list-style-type: none"> ・就職活動 ・英語論文執筆 ・RoboCup Japan Open 	<ul style="list-style-type: none"> ・修士論文執筆

大学院で、自分の考えを理論的に説明する力や文章にする力がついたので、就活の面接やエントリーシートで自信が持てるようになりました!

研究分野にかかわる大会に出場、様々な賞をいただきました。今は、2回生でもたくさん出場したいと思っています。

平日の朝以外は、基本的に研究室で過ごしています。日中に集中して研究するため、睡眠時間はしっかりとっています。生活の中心はやはり研究です。

Q.勝又さんの、研究室の様子を教えてください。

学部生の頃は家で課題やテスト勉強などの作業をしていましたが、研究室に配属されてから研究や勉強などは研究室で行うようになりました。ロボットやハイスペックPCなど、高価で自分では用意できないものも研究室では使わせてもらえるので、興味のあることに手が出しやすくなりました。



研究室内の、家庭を再現したスペース

大学院に進むことを考えているのなら、研究室選びが最も大切だと思います。自由にできる方が向いているのか、タスクをたくさん与えられたほうが頑張れるのか、研究に関しては楽な方に進もうとすると上手くいかないと思うので、自分を厳しめに分析して成長できる研究室を選ぶと良いと思います。

Q.研究室以外では、どのように過ごしていますか?



World Robot Summit 2018の様子。奈良先端大学院大学・(株)パナソニックとの合同チームで参加、賞をいただきました。

研究テーマや周りの環境に恵まれ、流行りの人工知能について勉強できたり、学会やコンペティションで色々なところに行けたりするのが楽しいです。



学会会場(鹿児島)

学費について (2019年度入学者適用)

■ 入学金

(単位:円)

区分	名称	金額
入学、転入学	入学金	300,000

※1 以下に該当する本学園出身者からは、入学金を徴収しません。
 (1) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部を卒業した者が、本大学院に入学する場合
 (2) 本大学または立命館アジア太平洋大学の学部から引き続き本大学院に入学する場合
 (3) 本大学または立命館アジア太平洋大学の大学院を修了した者または博士課程に標準修業年限以上在学し、博士論文以外の修了要件を満たし退学した者が、本大学院に入学する場合
 ※2 入学金は入学年度のみ納入していただきます。



■ 2019年度入学者に適用する大学院授業料

注意: ・ 社会的な情勢の急激な変化等、やむを得ない状況への対処として授業料の変更を行うことがあります。
 ・ 学費とあわせて、諸会費を入学年度に納入をお願いをしています。詳細については、入学試験要項を参照してください。

〈4月入学〉

春学期授業料: 4月1日から9月25日の授業料
 秋学期授業料: 9月26日から3月31日の授業料

〈9月入学〉

秋学期授業料: 9月26日から3月31日の授業料
 春学期授業料: 4月1日から9月25日の授業料
 ※9月入学者が入学手続時に納入する授業料は、1年次秋学期授業料のみとなります。

1) 修士課程・区分制博士課程

(1) 修士課程・博士課程前期課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法学研究科、経営学研究科、社会学研究科、政策科学研究科	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
経済学研究科 (MPEDコースを除く)	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
MPEDコース	授業料	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000
文学研究科 人文学専攻	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
文学研究科 行動文化情報学専攻	授業料	385,600	385,600	771,200	385,600	385,600	771,200
国際関係研究科 (GCPを除く)	授業料	375,000	375,000	750,000	375,000	375,000	750,000
GCP	授業料	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000
スポーツ健康科学研究科 人間科学研究科	授業料	425,000	425,000	850,000	425,000	425,000	850,000
言語教育情報研究科	授業料	400,000	400,000	800,000	400,000	400,000	800,000
理工学研究科 (数理科学コースを除く)	授業料	575,000	575,000	1,150,000	575,000	575,000	1,150,000
数理科学コース	授業料	537,500	537,500	1,075,000	537,500	537,500	1,075,000
情報理工学研究科、生命科学研究科	授業料	568,600	568,600	1,137,200	568,600	568,600	1,137,200
テクノロジー・マネジメント研究科	授業料	583,000	583,000	1,166,000	583,000	583,000	1,166,000
映像研究科	授業料	602,400	602,400	1,204,800	602,400	602,400	1,204,800

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。

(2) 博士課程後期課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
全研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で各研究科の修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

2) 一貫制博士課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次			5年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
先端総合学術研究科	授業料	400,000	400,000	800,000	400,000	400,000	800,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

3) 4年制博士課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次			4年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
薬学研究科	授業料	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000	250,000	250,000	500,000

※年次に関わらず、在学期間が標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、標準修業年限を超えた者で修了要件のうち博士論文以外の要件を満たした者の授業料は学期につき100,000円となります。

4) 専門職学位課程

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次			3年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
法務研究科	授業料	653,700	653,700	1,307,400	653,700	653,700	1,307,400	653,700	653,700	1,307,400

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年修了課程においては2年、3年修了課程においては3年)を満たす者に限ります。

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
経営管理研究科	固定授業料	71,700	71,700	143,400	71,700	71,700	143,400
	(単位授業料)	48,000(1単位につき)					

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の固定授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年)を満たす者に限ります。
 ※2021年度より単位授業料制度から固定授業料制度へ移行することを予定しています。

(単位:円)

所属	名称	1年次			2年次		
		春学期	秋学期	(年次計)	春学期	秋学期	(年次計)
教職研究科	授業料	450,000	450,000	900,000	450,000	450,000	900,000

※年次に関わらず、標準修業年限を超えた者の授業料は上記の2分の1となります。ただし、在学期間(2年)を満たす者に限ります。

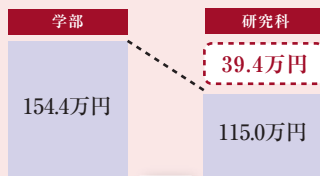
CHECK IT 授業料改定について

— 2017年度入学者より、授業料を減額しました — (博士課程前期課程、修士課程、一貫制博士課程1・2年次)

立命館学園では、大学院改革の推進に向けて施策の具体化を行っています。大学院の位置づけは、研究の高度化や教育・研究の循環のために非常に重要です。大学院生の経済的負担を軽減して、大学院の更なる発展に取り組むために、授業料を減額しています。

◇理系研究科一例 理工学研究科(数理学科コース除く)の場合。入学金・諸会費除く。減額される金額は研究科によって異なります。

本学学位の授業料(1年間)との比較



学部よりも負担は少なくなります
(理工学部 数理学科以外 2017年入学 2年次以降学費と比較)

大学院在学期間(2年間)での授業料比較



2年間で合計 **85万円** 減額しました
(年間42.5万円×2年)

CHECK IT 奨学金・支援制度の利用例(法学研究科の例)

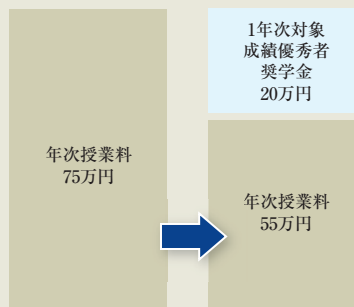
大学院生の多くが本学独自の給付制奨学金や各種研究支援制度を利用しています。以下は2018年度の法学研究科の例です。

博士課程前期課程1回生

■「1年次対象成績優秀者奨学金」を受給した場合
 入学試験成績上位者に支給される「1年次対象成績優秀者奨学金」(20万円給付の場合)を受給した場合、授業料は55万円となります。あわせて各種支援制度を利用することで、さらに経済的負担は軽減されます。

〔外国人留学生の場合〕

在留資格が「留学」でかつ私費外国人留学生であれば、「外国人留学生授業料減免(院生Ⅱ種)」を申請することで、授業料がさらに20%減免されます。



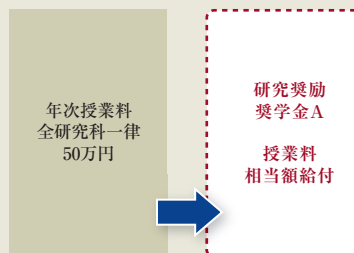
各種支援制度

学会奨学金	
国内学会参加奨励	1万円
国内学会発表奨励	3万円
国外学会発表奨励	10万円
いずれか1回	
研究実践活動補助金	
国内研究実践	1.5~3万円
国外研究実践	2~20万円
TA	3,000円/コマ

博士課程後期課程1回生

■「研究奨励奨学金A」を受給した場合

優秀な研究業績に応じて給付される「研究奨励奨学金」はA給付に該当すれば授業料相当額の奨学金が給付されるため、授業料は実質免除されます。また、各種支援制度も利用することができます。



各種支援制度

学会奨学金	
国内学会発表奨励	3万円×最大2回/年
国外学会発表奨励	10万円×最大2回/年
国際研究活動促進研究費	10~30万円+渡航交通費
TA	3,000円/コマ

奨学金・支援制度は年度や研究科によって異なります。詳細は次ページ以降ご参照ください。

NEXT PAGE

立命館のキャリアパス支援について

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、公務員、民間企業への就職など様々な業界へと広がっています。立命館大学大学院では、全国でも数少ない大学院生の支援に特化した「大学院キャリアパス推進室」を2010年4月に設置して以来、充実した奨学金や各種支援制度を運用し、希望の進路に応じた、大学院生のサポートを行っています。

■ 大学院キャリアパス推進室

大学院修了後に社会の多様な分野で活躍するために必要な情報提供、日本学術振興会特別研究員の申請支援、キャリアパス形成に資する知識・能力養成を支援するセミナーの開催等、本学のキャリアセンターとも連携しながら、様々な支援を行っています。 http://www.ritsumei.ac.jp/ru_gr/g-career/



キャリアセンターと連携した取組み(例)

- 進路・就職ガイダンス・セミナー・ワークショップなど
- 社会で求められる汎用的な能力・態度等を測定する「基礎力測定テスト(PROG)」を無料実施実施後に結果解説会を行い、結果の返却およびフィードバック、希望者には個別キャリア面談を実施するなど、丁寧なサポートを行っています。※人文社系のみ



●めざすキャリアと支援プログラム

	春学期					秋学期					
【全員対象】 大学院生の基礎力アップ	研究倫理 プレセミナー	研究倫理 共通 セミナー		研究とキャリア セミナー			スピーチ スキル アップ セミナー		国際学会 ポスター スキルアップ セミナー		コミュニ ケーション スキルアップ セミナー
		英文 アブスト セミナー	英語プレゼン テーション セミナー	英語論文個別指導& ブルーフリーディングセッションズ				英文 アブストラク トセミナー	英語プレゼン テーション セミナー		
【研究者進学を 目指す方対象】	学振申請 セミナー	研究会活動 支援セミナー			PPF(大学教員 準備セミナー)			研究会活動 支援セミナー			学振申請 セミナー
【対象 目指す方 民間就職を 目指す方】	基礎力測定 テスト		[キャリアセンター主催] 各種講座・イベント					大学院生の ための 成功する就活! セミナー		[キャリアセンター主催] 各種講座・イベント	

※この図は受講の推奨を記載したものです。支援プログラムは学年や目指すキャリアに関わらず参加することができます。

●活用できる補助金・奨学金支援制度

M1	M2	D1	D2	D3
1年次対象 成績優秀者 奨学金	2年次対象 成績優秀者 奨学金		研究奨励奨学金	
			国際的・国内研究活動促進研究費	
			インターンシップ奨学金	
学会奨学金			学会奨学金	
研究実践活動補助金			国外共同研究奨学金	
厚生労働省教育訓練給付制度				博士論文出版助成制度
		研究会活動支援制度		
		英語論文投稿支援制度(院生)		
		留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金		
		キャリアパス支援スタッフ(CPS)		
		ベーススキル向上支援補助制度(CLA講座受講料補助)		
		ティーチング・アシスタント(TA)制度		
		英語団体受験補助制度		

●助成制度活用例

大学院生が研究活動に専念するうえで、課題になるのが経済的な負担です。学術学会に参加してネットワークを広げるにも、自身の研究成果を世界に発信するにも費用がかかり、経済的な負担が生じます。そこで、大学院生がより研究活動に専念できるよう成績優秀者に対する奨学金制度をはじめ、実施する研究活動に応じて助成が受けられる研究助成制度を数多く運用しています。2017年度実績では、院生の4人に1人が何らかの奨学金・研究助成を受け取っており、複数の助成金を受給する院生も年々増えています。今回は、奨学金・研究助成制度の活用例を紹介します。

■ 国際学会への投稿・発表を考えている方が活用できる助成制度

こんな時に活用できます	制度名	支給額
研究成果を英語で発表するには、英語力に不安がある、もう少し学び直したい	ベーススキル向上支援制度* *大学内で行われている言語学習講座(CLA講座)の受講料の全額または一部が補助されます	最大2万円
英語論文が完成したが、投稿する前にネイティブの方に校正・チェックを依頼したい	英語論文投稿支援制度(校正費)	最大3万円
国際学会で発表したいが、論文の投稿費や渡航費の経済的負担が大きい	英語論文投稿支援制度(投稿費) 学会奨学金(国外発表奨励)	最大5万円 一律10万円
最大で合計20万円が給付されます		

この他にも成績優秀者奨学金(修士課程・前期課程向け)や研究奨励奨学金(後期課程向け)といった成績優秀者に対する給付型の奨学金制度も併給できます。

また、「国際学会ポスターデザインセミナー」、「英語プレゼンテーションセミナー」や「英文アブストラクトセミナー」など各種セミナーに参加することで、ノウハウを学べ、研究科を超えた交流ができ、ネットワークを広げることができます。

■ (博士過程後期課程向け)海外で長期間の研究活動を行うことを検討している方が申請できる助成制度

通算15日以上の研究活動で、内容に応じて2つの制度のいずれかに申請できます。(書面審査あり)

こんな時に活用できます	制度名	助成金額*
個人でアレンジした研究活動	国際的研究活動促進研究費	10~30万円+渡航経費(片道4回分)
海外の大学・研究機関との共同研究	国外共同研究奨学金	10~80万円

*渡航先や渡航期間に応じて助成金額が異なります。

■ 他の研究科の方と一緒に共同で研究活動をしてみたい方、研究マネジメント力を磨きたい方

こんな時に活用できます	制度名	支給額
研究テーマの近い方と研究科を超えて一緒に研究活動したい。	学生研究会活動支援制度	最大10万円の経費支援+施設支援

■ 民間就職を目指している方向けのセミナー

キャリアセンターによる進路・就職ガイダンスはじめ【自己理解系企画】、【業界・企業理解系企画】、【OBOG企画】など様々な企画に参加可能です。さらに、キャリアセンターと連携しながら、大学院生に特化した「大学院生のための成功する就活!セミナー」も開催しています。

●大学院生のための成功する就活!セミナー(2018年度の概要)

第1部	思わず人事が会いたくなるエントリーシート書き方講座
第2部	企業人事担当者によるパネルディスカッション~何が違う?同じ?院生と学部生~
第3部	修士2回生内定者パネルディスカッション~修論までに終わらせる就活の仕方~



column

奨学金・助成金受給者の声



島田 佳奈さん
理工学研究科
博士前期課程 2018年度修了

多くの奨学金制度のおかげで、様々な機会に積極的にチャレンジすることができました

立命館の大学院は利用できる奨学金や支援制度が非常に整っていて、成果や活動によって受給できるものが多く、研究活動に対するモチベーションを保ちながら充実した大学院生活を送ることができました。特に、私が受給してよかったと感じている点は、学外の活動への積極的な参加に繋がったことです。大学院に入ってから、学部生の時よりも学外での貴重な機会に恵まれることが多くなりました。各種奨学金や支援制度を活用することで、経済的負担が少なくなり、日本国内の学会やヨーロッパやアジアで開催される国際会議への参加、またアメリカでの研究留学など、世界中で研究活動を行うことができました。このような経験が、私自身を大きく成長させてくれました。自身の成長を実感することができた今、大学院進学をして良かったと感じています。

キャリア支援プログラム・奨学金制度一覧

各プログラム・奨学金等の詳細は、大学院キャリアパス推進室のホームページで確認できます (P.15)

■ 大学院キャリアパス支援プログラム(課外)

目標とするキャリアを実現するためには、大学院での専門分野の研究を追求し、その過程で習得した知識や能力を多様な分野で活用できることが大切です。このプログラムでは、英語のライティングスキルやプレゼンテーション力のような汎用的スキルや、キャリアパス形成に必要な基礎知識を学ぶためのセミナーを開講します。本学院生であれば、どなたでも無料で参加できます。

開催セミナー(2019年度に実施予定のセミナーです)

※開催セミナーのテーマ内容は年度により変更する場合があります。

修士・博士課程前期課程の過ごし方、進路就職などについて知りたい

セミナー名	概要
基礎力測定テスト	文系の大学院生を対象に、自己分析テストおよび分析結果に基づいた個別面談を実施します。
大学院生のための成功する就活!セミナー	修士・博士課程前期課程1回生が入学から半年経過後に、大学院での学びの振り返りを行い、修士論文作成、就職活動、キャリア形成を見据え大学院での学びに関して新たな知見や気づきの獲得を目指します。

コミュニケーション力、プレゼンテーション力、ポスター発表などのスキルを身につけたい

セミナー名	概要
コミュニケーションスキルアップセミナー	学会での他大学院生や先輩大学院生との交流や企業関係者との交流など、さまざまな場面で求められるコミュニケーションツールとしてのマナーを学びます。
スピーチスキルアップセミナー	自分の研究内容や考えを相手に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション技術を習得するためのセミナーです。
国際学会ポスタースキルアップセミナー	学会報告のポスターセッションやパネル展示等で参加者の関心を引くデザイン方法を学ぶセミナーです。
リサーチプロポーザルコンテスト	全大学院生を対象にリサーチプロポーザルコンテストを開催します。申請書は、日本学術振興会特別研究員の申請書式とほぼ同じ項目となっていますので、日本学術振興会特別研究員に申請する前のトレーニングの場としても位置づけています。

研究の進め方、学振*の申請、研究資金の獲得方法などについて知りたい ※日本学術振興会特別研究員

セミナー名	概要
学振申請セミナー	学振への申請に際して、申請書作成のポイント等について学ぶセミナーです。
研究会活動支援セミナー	研究会を企画し、円滑に運営するための方法や、研究会の運営に必要な能力について理解を深めるセミナーです。
研究倫理共通セミナー 研究倫理プレセミナー	研究を進めるにあたって知っておかなければならない行動規範、成果発表の方法などの研究倫理の基本的な内容について学び、研究倫理の基礎知識の習得を目指します。

大学教員を目指したい

セミナー名	概要
PPF(大学教員準備セミナー)	大学で授業を行うにあたり必要となる基礎的なスキルを習得するプログラムです。教育開発推進機構の実践的FDプログラムと連携して実施します。

英語での学会発表、論文作成力などを身につけたい

セミナー名	概要
英語プレゼンテーションセミナー	国際学会における英語の研究発表を念頭に、英語プレゼンテーションでの発表内容の作り方、効果的なプレゼンテーション手法の2つ学べる短期集中型のセミナーです。
英文アブストラクトセミナー	研究成果を国際的に発表するうえで、最初のステップになるのがアブストラクトを英語で作ることです。「日本語のアブストラクトを単純に英訳すればよい」と安易に考える方もいますが、英文アブストにも作り方や英語の表現方法の作法があります。基本的な概念を学び、実際に書いてみることで完成度を高めるセミナーになっています。
英語論文個別指導	英語論文やレポート等について、文法や語彙の弱点、校正方法に関して個別指導を受け助言が得られます。

■ TA(ティーチング・アシスタント)

名称	趣旨	対象	金額	実績
TA (ティーチング・アシスタント)	TAとは本学の授業や教学活動について教員をサポートする大学院生。 本学の教育の質向上および大学院生自身のキャリア形成の一助とすることを目的とする。	本学大学院 在籍者	3,000円 1授業時間(90分)	1,324名 (2016年度)

奨学金・支援制度の概要

※下記は本学独自の奨学金・支援制度であり、返還義務のない給付型の奨学金・支援制度です。
 ※専門職学位課程(教職研究科除く)は研究科独自の奨学金制度があります。詳細は入試要項をご確認ください。
 ※内容は2018年度の概要であり、2019年度に内容が変更となる場合もありますので、詳細については、本学ホームページ、各制度の募集要項等を参照してください。

対象:修士課程、博士課程前期課程、一貫制博士課程(1・2年次)、教職研究科

名称	趣旨	金額	実績
1年次対象 成績優秀者奨学金	入学試験の成績が優秀な者の入学を奨励することを目的として1年次入学者に給付(研究科が指定する入試方式のみ)	10~50万円 (研究科毎に異なる)	337名 (2018年度入学者)
2年次対象 成績優秀者奨学金	1年次の成績が優秀な者の、さらなる学修・研究活動を奨励することを目的として2年次(第3・第4 Semester) 在学者に給付	10~50万円 (研究科毎に異なる)	259名 (2018年度)
学会奨学金 1) 国内学会参加奨励 2) 国内学会発表奨励 3) 国外学会発表奨励	学会への参加および学会での研究成果の発表を奨励し、大学院生の研究活動を支援する※1	国内学会参加奨励(一律1万円) 国内学会発表奨励(一律3万円) 国外学会発表奨励(一律10万円)※2	延べ638名 (2017年度)
研究実践活動補助金	研究科の人材育成目的および学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針にもとづき研究科が実施する国内外の研究実践活動参加者を奨励※1	国内研究実践(1.5~3万円) 国外研究実践(2~20万円)	149名 (2017年度)

※1 教職研究科は対象外 ※2 国費留学生は、各金額を上限に実費精算になります。詳しくは入学試験要項をご確認ください。

対象:博士課程後期課程、一貫制博士課程(3年次以上)、4年制博士課程

名称	趣旨	金額	実績
研究奨励奨学金	優秀な研究業績を有する者のさらなる研究活動を奨励することを目的として給付 S給付は、日本学術振興会特別研究員採用者・面接選考対象者 A・B給付は、各研究科の教育研究上の目的に照らして優れた研究業績を有する者またはあげることが期待できる者	S 給付(授業料相当額) A 給付(授業料相当額) B 給付(授業料の1/2相当額)	120名 (2018年度/ 在学者の 20.0%)
学会奨学金 1) 国内学会発表奨励 2) 国外学会発表奨励	学会での研究成果の発表を奨励し、大学院生の研究活動を支援する	国内学会発表奨励(一律3万円) 国外学会発表奨励(一律10万円)※3	延べ244名 (2017年度)
国際的研究活動促進 研究費	本学大学院生の国際的な研究活動を促進・支援	研究助成金(10~30万円) および海外渡航に要する交通費	36名 (2018年度)
国内研究活動促進 研究費	本学大学院生の国内での研究活動を促進・支援	研究活動期間に応じて給付 5万円~10万円	2名 (2018年度)
インターンシップ奨学金	企業等でのインターンシップ参加を経済的に支援することにより、インターンシップを通じたキャリア形成を支援(給与が支払われるものは対象外)	インターンシップ日数に応じて給付 10万円~20万円	1名 (2016年度)
国外共同研究奨学金	所属研究科の人材育成目的および学位授与、教育課程編成・実施、入学者受け入れの方針にもとづき研究科が実施する国外の共同研究の参加者を奨励	共同研究を行う地域・日数に応じて給付 (20~80万円)	1名 (2018年度)
博士論文出版助成 制度	博士論文の研究成果の公刊を助成促進することを目的とし、本学大学院博士課程後期課程にて博士学位を授与された方々が、当該博士論文を出版する際、その経費の一部を補助	1件あたり100万円上限※4	9名 (2018年度)

※3 日本学術振興会の特別研究員の方と国費留学生は、各金額を上限に実費精算になります。詳しくは入学試験要項をご確認ください。 ※4 人文社系の研究科のみ

対象:全課程

名称	趣旨	金額	実績
大学院留学協定等にもとづく留学プログラムに対する奨学金	協定等にもとづく留学プログラム等により派遣する本学大学院生の学修・研究活動を奨励	派遣期間中に派遣先に納付する学費または本学に納付する入学金を除く学費の1/2相当額 (所属研究科の入学金を除く学費の1/2相当額が上限)	13プログラム (2018年度)
大学院学生 研究会活動支援制度	複数の研究科の大学院生による自主的な研究会活動の促進	1) 経費支援 1研究会当たり年額10万円を上限として、研究会の企画等に関わる費用および講師の招聘に関わる費用を支給 2) 施設支援 学内で研究会活動を行う際に教室を貸与	18団体 (2018年度)
英語論文投稿支援 制度	英語論文による研究成果の国際的な発信を促進することを目的に、校正費と投稿費について補助	英語論文校正費(上限3万円) 英語論文投稿費(上限5万円)	149件 (2018年度)
ベーススキル 向上支援補助制度	社会で実践的な力を発揮するために必要となる基本的な素養(ベーススキル)の確実な修得を奨励することを目的として、その向上を図るために立命館言語習得センター主催の所定の講座を受講する大学院生に対して、受講料の一部を補助する。	上限2万円	35名 (2018年度実績)
大学院生対象 英語団体受験 補助制度	学内で行うTOEFL ITP®テストとTOEIC®L&Rテスト(IP)の団体受験料を補助する。 ※申請は年度1回。TOEFL ITP®テストかTOEIC®L&Rテスト(IP)のいずれかを選択。	TOEFL ITP®テストとTOEIC®L&Rテスト(IP)の受験料 *TOEFL®, TOEIC®はEducational Testing Service(ETS)の登録商標です。 *TOEIC®L&Rテストの「L&R」は、LISTENING AND READINGの短縮形です。	152名 (2018年度実績)

対象:外国人留学生

奨学金種別	減免率	減免期間	対象者
外国人留学生授業料減免(院生I種)	授業料の100%	標準修業年限	在留資格が「留学」かつ私費外国人留学生であること。 対象者は入学試験にて決定
外国人留学生授業料減免(院生II種)	授業料の20%	1年間	在留資格が「留学」かつ私費外国人留学生である場合は全員対象。各自で申請が必要

大学院生の進路・就職について

大学院修了後のキャリアは、大学教員をはじめとする研究者だけでなく、民間企業を中心に様々な業界へと広がっています。

CHECK IT

◇大学院修了生の多くが、納得のできる進路を実現

大学院生就職決定率 **98.7%** (2017年度 修士・博士課程前期課程修了者実績)

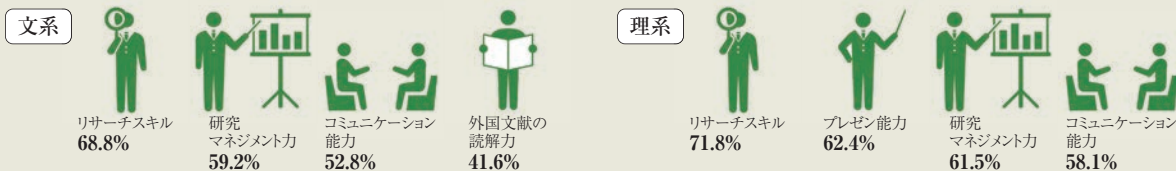
文系	全体	97.6%	理系	全体	99.5%	テクノロジー・ マネジメント研究科 (文理融合)	全体	92.6%
	男子	97.5%		男子	99.2%		男子	94.7%
	女子	97.7%		女子	100.0%		女子	87.5%

■自身の進路(進学先・就職先)について納得できているか(2017年度 卒業・修了者へのアンケートより)

	とても納得している	ある程度納得している
大学院修了生	44.6%	35.0%
学部卒業生	40.8%	38.1%

◇大学院では将来に役立つスキルを身につけられます

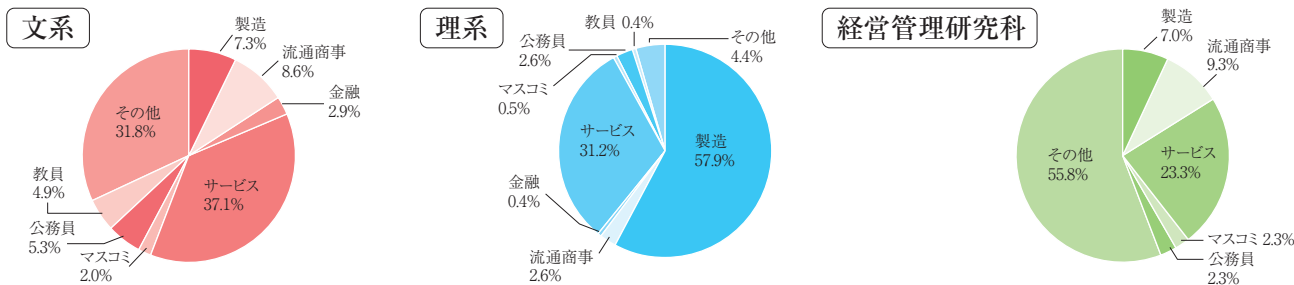
大学院に進学して、以前と比べて成長したと感じること 上位4つのスキル(2017年度 大学院キャリアパス形成支援のためのアンケート調査より)



※修士課程・博士課程前期課程・専門職学位課程一貫性博士課程在籍者の回答
 ※テクノロジー・マネジメント研究科は文系を含む

就職に関する情報

■大学院修了者 業種別進路決定状況 (2017年度 修士課程・博士課程前期課程・専門職学位課程修了者実績)



※テクノロジー・マネジメント研究科は理系を含む。
 ※その他には在学中より引継ぎの就業者、家業従事者、プロ契約、起業、業種不明の者を含む。
 ※業種別比率は小数点以下第二位で四捨五入しているため、合計が100%にならないことがある。

※前期修了者(2017年9月修了者)および早期修了者を含む。
 ※業種分類については、本学独自の指標により分類。

■主な就職先(順不同)

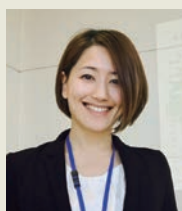
文系:三井住友信託銀行(株)、(株)ニトリ、任天堂(株)、日本電気(株)、日本郵政(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、日本アイ・ビー・エム(株)、デロイト・トーマツコンサルティング合同会社、あずさ(監法)、京都府人事委員会、法務省専門職員 等

理系:東海旅客鉄道(株)、ユニ・チャーム(株)、アクセンチュア(株)、鹿島建設(株)、(株)野村総合研究所、楽天(株)、ヤフー(株)、トヨタ自動車(株)、パナソニック(株)、ソニー、中部電力(株)、独立行政法人都市再生機構、国土交通省、東京都庁 等

文理融合(テクノロジー・マネジメント研究科):エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、キヤノン(株)、塩野義製薬(株)、日本電産(株)、(株)博報堂プロダクツ、三菱電機(株) 等

column

修了生の声



濱崎 千恵さん
 国際関係研究科前期課程
 2009年度修了

自分が選択したことを正解にしていく力がキャリアにも活かしている

現在、商社において新事業の市場開拓に取り組んでいます。市場開拓では、正解が分からない中で物事を選択し、選択したことを正解にしていくことが必要です。大学院在学中は、研究を進める中で課題に直面した時には、先生方に指導を受けつつ、手探りで仮説の修正などをおこない、修士論文を仕上げることができました。この経験から、誰かに設定されたゴールに合わせるのではなく、試行錯誤を重ねて前に進むことを学びました。また、1つのテーマをじっくり研究し、様々な角度から検証する中で、人と違う視点を持ち、意見する力も身につきました。これらの力は今の仕事に活かしていますし、就職活動でも強い武器となり、希望の進路を実現することができました。皆さんも大学院進学を決めたら、ぜひ自分の選んだ道を正解にできるよう頑張ってください。

修了生のキャリアパス(進路・就職)

■法学研究科

法曹・公務員・教員・税理士・公認会計士・民間企業の法務・財務・海外部門、特殊法人への就職など多様化しています。

国家公務員、国税専門官、裁判所職など 民間:金融・製造・税理士法人・会計事務所など 研究職:国公立大学、海外大学など

■国際関係研究科

企業の総合職(主に国際部門)、マスコミ各社(新聞、放送、出版)、シンクタンク、国際機関職員、各国政府系機関へ修了者を輩出しています。

国家公務員・国際協力機構・日本貿易振興機構など 民間:サービス・製造・マスコミなど 研究職:私立大学・国公立大学など

■映像研究科

映像に関わる高い専門性を修得し、広い視野から自らの課題を捉え、多様化する映像関連分野に柔軟に取り組んでいくことの出来る力を身につけます。

民間:マスコミ、サービスなど
進路・就職先詳細は31ページに記載しています。

■先端総合学術研究科

研究者養成の研究科。博士号を取得、研究者として、あるいは現役研究者がさらにキャリアアップし、様々なフィールドで活躍しています。

研究職:大学教員(テニユア教員、任期制教員)、大学・研究機関の研究員、各種学校教員、公務員・団体職員、その他

■スポーツ健康科学研究科

「スポーツ」と「健康」に関する高度な専門性を活かして、幅広いフィールドで活躍しています。

国立の研究機関、スポーツ用品、食品メーカー、教員など。
進路・就職実績は35ページに記載しています。

■情報理工学研究科

IT関連企業をはじめ、製造・マスコミ・金融・公務員などの幅広い業種・職種に就職することが可能です。

国家公務員、教員 民間:サービス・製造など

■薬学研究科

高度な知識や技能を持った薬剤師として医療の現場や行政機関で活躍する人材、企業や大学等の研究者・教員を養成します。

病院・大学病院・製薬企業・公務員・薬局・大学など

■政策科学研究科

行政や研究機関をはじめ、幅広い領域の専門性を活かし、多様な分野で活躍しています。

国家公務員・地方公務員・教員 民間:サービス・金融
研究職:国公立大学、海外大学など

■経営管理研究科

社会人のキャリアアップが多いことが特徴です。就業経験の無い学生は、企業だけでなく多様な分野でリーダーとして活躍しています。

製造・コンサルティング・サービス・監査法人・金融など

■法務研究科

司法試験合格を経て法曹(弁護士・裁判官・検察官)を目指します。それ以外に民間企業(法務部門)や公務員でも活躍の場があります。

弁護士・裁判官・検察官・民間企業(法務部門)・裁判所事務官・国家公務員・地方公務員

■社会学研究科

社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者や高度専門職業人として幅広い分野で活躍しています。

社会福祉協議会・地方公務員・教員 民間:サービス・流通商事など
研究職:私立大学、国公立大学など

■文学研究科

中学・高等学校教員、高度専門職職員、公務員、民間企業社員など、各専修の独自性を活かしたさまざまな職に就き活躍しています。

教員・地方公務員など 民間:サービス・流通商事・マスコミなど
研究職:私立大学・国公立大学など

■言語教育情報研究科

言語に関わる専門的知識を活かして、教育関連を中心に幅広い分野で活躍しています。

国内外の大学教員、中等教育機関の英語教員、日本語教員など。国際交流基金、国際協力機構などの団体。サービス・製造・流通等の民間企業など。

■経済学研究科

大学教員等の研究者の道を目指す大学院生のほか、企業や公務員、税理士事務所などに就職する大学院生も増えています。

地方公務員など 民間:税理士法人・金融・サービスなど

■理工学研究科

高度な専門知識・技術を活かして、多くの卒業生が「研究・設計・開発職」に従事しています。

民間:製造・サービス・流通商事など
進路・就職実績は36ページに記載しています。

■生命科学研究科

化学、エネルギー、環境、食料、情報、医療、健康分野といった幅広い分野で活躍しています。

民間:製造・サービス・流通商事など
進路・就職実績は38ページに記載しています。

■経営学研究科

大学教員・シンクタンクなどの研究者や、公認会計士などで活躍しています。

民間:監査法人・税理士法人・サービス・流通商事・製造など

■テクノロジー・マネジメント研究科

サービス・製造ほか職種を問わず、新規事業の立ち上げ、新技術の創造、技術を利用した収益向上など企業の持続的発展に欠かせない分野で活躍しています。

新製品・サービス企画、工程管理、技術営業、一般営業コンサルティング他

■人間科学研究科

各領域のスペシャリストを養成しています。

臨床心理学領域:臨床心理士、産業・スクールカウンセラーなど
心理学領域:司法、警察官、教育など
対人援助学領域:看護師保健師、高齢者介護障害者援助など

■教職研究科

多様な学校現場の課題に高度な実践力に対応できる教員へ。

小学校・中学校・高等学校教員

データで見る立命館の研究力

■民間企業からの受託研究実施件数

文部科学省では毎年、「大学等における産学連携等実施状況について」を発表しており、立命館大学は「民間企業からの受託研究実施件数」においてここ数年、常に全国1位(2015年度、2014年度、2012年度)もしくは2位(2017年度、2016年度、2013年度)の上位に位置しています。

この発表は、文部科学省が産学連携等施策の企画・立案に反映させることを目的として毎年実施している「大学等における産学連携等の実施状況調査」に基づくもので、全国の大学等(2017年度においては1,061機関(国公私立大学(短期大学含む)、国公私立高等専門学校、大学共同利用機関))が対象となっています。

1995年に全国の大学に先駆けて産学連携の窓口「リエゾンオフィス」を設置した本大学では、研究成果による社会貢献として、立命館大学研究高度化中期計画*の策定元年となる2006年度から一貫して産学連携を重要な柱として掲げており、特に京都府・滋賀県・大阪府を中心とした地元企業との連携を重視しています。2017年度の同実施状況の発表では、「同一県内企業及び地方公共団体との共同・受託研究実施件数(地方別)」において、近畿地方の私立大学としては2015年度から引き続き連続1位となっています。

立命館大学研究高度化中期計画の各施策の推進などにより研究支援制度の充実を図り、外部資金獲得につながる成果の創出や研究拠点形成に取り組んできた結果、とりわけ民間企業からの受託研究実施件数に関しては、過年度からの高い実績に繋がっていると云えます。

*研究を高いレベルで推進するために本大学が2006年度より独自に策定している5ヵ年計画。現在、第3期計画(2016-2020年度)を実施中。

受託研究とは企業等からの研究テーマに基づき本大学の研究者が研究を実施し、成果を委託者に報告する制度。

共同研究とは企業等と本大学の研究者が共通の研究テーマを持ち、研究業務を分担し、あるいは本大学に企業等の研究員を受入れて実施する制度。

■同一県内企業及び地方公共団体との共同・受託研究実施件数(地方別)
(2017年度 近畿地方)

機関名	件数	所在地	区分*
1. 大阪大学	379	(大阪府)	国
2. 立命館大学	158	(京都府)	私
3. 京都大学	154	(京都府)	国
4. 神戸大学	147	(兵庫県)	国
5. 近畿大学	143	(大阪府)	私

■民間企業からの受託研究実施件数

(過年度の実績と全国順位)

年度	件数	順位
2017年度	248	2位
2016年度	248	2位
2015年度	287	1位
2014年度	247	1位
2013年度	242	2位
2012年度	235	1位

(2017年度)

機関名	件数	区分*
1. 近畿大学	325	私
2. 立命館大学	248	私
3. 慶應義塾大学	226	私
4. 日本大学	204	私
5. 早稲田大学	162	私
6. 拓殖大学	157	私
7. 大阪大学	148	国
8. 東京大学	144	国
9. 山形大学	140	国
10. 東京都市大学	127	私

(2016年度)

機関名	件数	区分*
1. 近畿大学	257	私
2. 立命館大学	248	私
3. 慶應義塾大学	198	私
3. 日本大学	198	私
5. 東京大学	161	国
6. 早稲田大学	155	私
7. 拓殖大学	140	私
8. 東京都市大学	135	私
9. 九州大学	130	国
10. 大阪大学	126	国

(2015年度)

機関名	件数	区分*
1. 立命館大学	287	私
2. 近畿大学	275	私
3. 慶應義塾大学	196	私
4. 日本大学	169	私
5. 早稲田大学	155	私
6. 拓殖大学	131	私
7. 東京女子医科大学	126	私
8. 東京都市大学	123	私
9. 大阪大学	117	国
10. 九州大学	108	国

*区分 私：私立大学、公：公立大学、国：国立大学

※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について」より作成

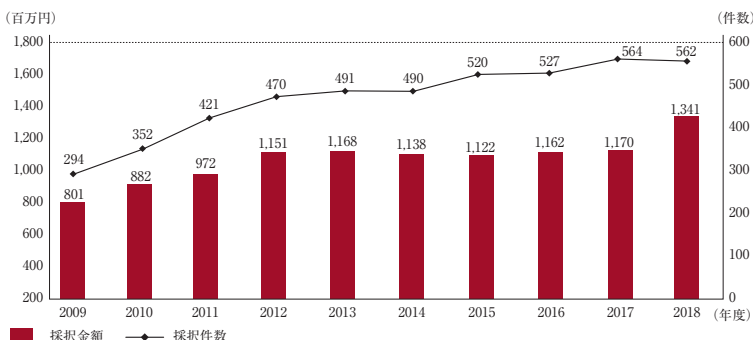
■科学研究費助成事業 —科研費—

立命館大学は、2018年10月に発表された「平成30年度科学研究費助成事業—科研費—の配分」において、採択金額が全国24位・私大3位(西日本私大1位)、採択件数が全国25位・私大4位(西日本私大1位)にランクインしました。とりわけ、6年連続11億円台であった採択金額が初めて13億円を突破しました。

審査区分別の状況(中区分別採択件数上位10機関)は65区分のうち7区分が全国10位内にランクインし「社会学およびその関連分野」が最高位の全国3位、「機械力学、ロボティクスおよびその関連分野」、「人間情報学およびその関連分野」、「環境保全対策およびその関連分野」がそれぞれ私立大1位となり、多様な分野で本学の強みを活かした独自の・先駆的な研究を進めています。また、採択件数に占める女性研究者のシェア(女性比率)も4年連続増で21.2%になり、女性研究者の採択実績の伸びが顕著であることも本学の特徴です。

科学研究費助成事業(科研費)とは科学研究費助成事業とは、文部科学省の競争的研究資金のひとつであり、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる研究を助成する制度で、年間予算は2000億円を超え、我が国の科学技術の発展には欠かせない重要な研究費です。

〈本学の採択金額・採択件数の推移〉



〈科研費ランキング〉

■採択金額

- 1位 慶應義塾大学
- 2位 早稲田大学
- 3位 立命館大学**
- 4位 順天堂大学
- 5位 日本大学
- 6位 東京理科大学
- 7位 同志社大学
- 8位 近畿大学
- 9位 東海大学
- 10位 明治大学

※2018年度採択金額・件数(いずれも新規+継続)私立大学のみ

■採択件数

- 1位 慶應義塾大学
- 2位 早稲田大学
- 3位 日本大学
- 4位 立命館大学**
- 5位 順天堂大学
- 6位 近畿大学
- 7位 東京理科大学
- 8位 同志社大学
- 9位 東海大学
- 10位 北里大学

■審査区分別の状況(中区分別採択件数上位10機関)においてランクインした中区分別

社会学およびその関連分野、人間情報学およびその関連分野、政治学およびその関連分野、環境保全対策およびその関連分野、思想、芸術およびその関連分野、機械力学、ロボティクスおよびその関連分野、経済学、経営学およびその関連分野

※文部科学省発表「平成30年度科学研究費助成事業の配分について」(2018年11月7日)より抜粋

column

科研費受給者の声



金 度源
理工学部
環境都市工学科 准教授

私は、歴史的な町並みの防災活動に関するデータベース構築について研究しています。一般的には、都市計画や建築物個々を対象とした防災対策などが防災研究の対象と考えられますが、2011年東日本大震災以降、「コミュニティによる防災」、「コミュニティを守る防災」が注目されるようになりました。私はその中でも、歴史的な町並みでは「コミュニティ防災」が防災文化のように受け継がれていることに着目し、日本全国に国の文化財として選定されている重要伝統的建造物群保存地区118箇所(2019年3月現在)全てを主な研究対象にしたいと考えました。調査を進めるにあたり一定の資金が必要になったため、研究部職員に相談したところ、本研究の社会的意義についての理解に基づく積極的な推薦を得られ、科研費を申請するに至りました。

申請書作成の過程では、自分一人では気づかなかった研究の意義や独創性、社会的な重要性などについて立命館大学の教職員の方々から精細かつ貴重なアドバイスをいただくことができ、その結果科研費の採択につながりました。このようなありがたいサポート環境の中で、みなさんも是非一緒に研究活動に取り組んでいきましょう。

column

科研費受給者の声



李 増先
衣笠総合研究機構
専門研究員

私は、海外の和刻本漢籍の研究をしています。和刻本漢籍とは日本で覆刻・翻刻された漢籍のことです。かつての日本が多くの漢籍を出版したことは周知の通りですが、これらの書物が海外でどのように享受され、どんな物語を生み出したかは意外に知られていません。そこで、私はケンブリッジ大学図書館の和漢書古典籍のデジタルアーカイブ化に着手し、Cambridge Digital Libraryでデジタルアーカイブを公開しました。

多くの研究を実現するには研究費の獲得という課題もクリアしなければなりませんが、振り返ると研究費の獲得とは単なる研究資金の確保ではなく、研究の独自性をはじめ、研究計画・研究の持続(サステナビリティ)・リスクの管理など、多くの注意を要するものでした。私の場合は研究のスタート時に、研究費の獲得に本学の教員や先輩研究者、研究部から様々なサポートを得ることができましたので、幸運なことに研究を進めることができました。そのため、これから研究者を目指し、本学大学院に進学される皆様も、本学が用意した優れた研究環境の中でご自身の研究を進めることができると確信しています。

研究機構・研究所・研究センター

立命館大学では、研究機構による最先端の取り組みが展開されています。その成果は社会貢献のために活用されるとともに、大学院の研究・教育に還元され、高度な研究につながっています。人文・社会・自然科学各領域の研究を推進するために多彩な研究機構を設置し、基礎から応用まで幅広い活動を展開しています。また、国や地方公共団体、産業界との研究交流にも積極的に取り組み、成果を社会に還元しています。

※以下は、2019年2月1日現在の研究機構・研究所・研究センター

■ 立命館グローバル・イノベーション研究機構[R-GIRO]

R-GIROは、学長直轄の研究組織で、「政策的重点課題に特化した研究拠点の形成」および「次世代を担う若手研究者の育成の強化」を目的に2008年に設立されました。自然共生型社会の実現に向け、自然科学分野と人文・社会科学分野との融合を図り、学際的研究活動を促進することで、価値ある研究成果を創出し、その成果の積極的発信により、次世代社会への貢献を果たすことを目的としています。

■ 立命館アジア・日本研究機構

立命館アジア・日本研究機構は学長直轄の研究組織で、「『アジア・日本研究』をリードする研究者の育成および未来のアジア・日本についての共通ビジョンの形成」をミッションとし、「アジアの時代」に資する立命館らしいコンセプトと戦略性を兼ね備えた研究を推進しています。国内外の研究機関と連携し、多様な研究ネットワークの中核としての機能を発揮しながらグローバルな視点でのアジア・日本研究を推進していくことを目的としています。直下のアジア・日本研究所では、「共生」「共創」「和解」をキーワードとした総合的実践研究を重点的な取り組みとし、プロジェクトごとに研究活動と成果発信を進めています。

■ アジア・日本研究所

■ 衣笠総合研究機構

衣笠総合研究機構は、1998年に設置され、研究所・研究センターをマネジメントする研究機構として研究活動を支えています。「自主」「民主」「公開」「平和利用」といった4つの原則のもと、人類の福祉と社会の進歩に貢献し、社会の要請に応えることを目的としています。

■ 人文科学研究所 ■ 国際地域研究所 ■ 国際言語文化研究所 ■ 人間科学研究所
■ アートリサーチセンター ■ 歴史都市防災研究所 ■ 白川静記念東洋文字文化研究所
■ 研究センター
コリア研究センター／生存学研究所／間文化現象学研究所／
ゲーム研究センター／環太平洋文明研究所／加藤周一現代思想研究所／
金融ジェロントロジー／金融・法教育研究センター／地域健康社会学研究センター

■ BKC 社系研究機構

BKC社系研究機構は1つの研究所と2つのセンターで構成されています。社会的ネットワーク、国際性、公開性および学際性を研究の基本的視点に置いた社会科学および学際領域の基礎的および応用的研究を行なうことで学術文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的としています。

■ 社会システム研究所 ■ 研究センター ファイナンス研究センター／食総合研究センター

■ 総合科学技術研究機構

総合科学技術研究機構は、科学技術の発展と地域社会に貢献するために1994年に「総合理工学研究機構」として設置されました(2012年度より、現名称に改称)。産学官の共同研究の推進を通して、科学技術の発展と地域社会に貢献することを目的としています。

■ 理工学研究所 ■ SRセンター ■ VLSIセンター
■ 研究センター バイオシミュレーション研究センター／防災フロンティア研究センター／
バイオメカニカルデバイス研究センター／琵琶湖S研究センター／先端マイクロナノシステム技術研究センター／
創薬科学研究センター／スポーツ健康科学研究センター／ロボティクス研究センター／エネルギーイノベーション材料研究センター／
古気候学研究センター／先端ICTメデイカルヘルスケア研究センター／システム視覚科学研究センター／生物資源研究センター／
環境テクノロジー・マネジメント研究センター

■ OIC 総合研究機構

大阪いばらきキャンパス(OIC)の教学コンセプト「アジアのゲートウェイ」「地域・社会連携」「都市共創」をふまえ、グローバルに通用する人材の育成、新たなイノベーションの創出、地域コミュニティの中核的存在としてその機能を果たす研究機構を目指し、活動することを目的としています。

■ 地域情報研究所
■ 研究センター イノベーション・マネジメント研究センター／医療経営研究センター／デザイン科学研究センター／
グローバルMOT研究センター／稲盛経営哲学研究センター／サステナビリティ学研究所／認知科学研究センター



「現代の常識」が覆る研究の面白さ

私は主に①戦後日本のメディア文化に浮かび上がる大衆的な戦争イメージの変容、②大衆的な教養文化・読書文化の変容と戦後日本の格差・労働・学歴の問題の関わりという2つのテーマで、メディア文化史の研究に取り組んでいます。

研究していて面白いのは、「現代の常識」が覆されることに尽きます。いまの我々にとって、あまりに「当たり前」であるものが、数十年前の時代ではまったく異なっていることはよくあります。では、いつ、どのようにして、我々の「常識」が作られたのか。その背後にどんな問題や可能性があったのか。現代を見直してみることができるのが、私にとっての研究の醍醐味です。

大学院を通じて培われる、自律性と深い思考力

大学院生は、研究者の卵です。一人の研究者として自分で問いを立て、立論し、論文の完成まで持っていく。それは小手先ではできないプロセスをやりきるトレーニングであり、自律性も求められます。

また研究を通じて、人文社会科学の領域であれば「メタ」(≒俯瞰)の思考力が養われます。この思考力は学部時代にも養われますが、大学院ではより徹底的に鍛えられます。社会学では、社会で起こった何かの事象に対し、変化の過程やそれを下支える社会背景、それが社会に持つ意味を問うことで、現代社会を成り立たせている構造を捉え返します。研究者を志向する人はもとより、企業・自治体・NGOなどに就職し、新事業を企画・立案する際にも、このメタ思考は不可欠ではないかと思えます。社会に出ると、時間をかけて思考のトレーニングをする機会を得ることは簡単ではありません。大学院で研究を楽しむとともに、思考力を鍛えて成長しましょう。

研究を通じて、人類の宝をつくらう

我々の心や精神や魂はどこにあるのか。小学生のとき大好きだった先生の顔を今でも覚えていられるのは何故か、その記憶はどこにどのような形でストックされているのか。我々の身体は脳も含めて物質、細胞で成り立っています。私の研究室では、物質的実体を持つ神経細胞と、記憶や気分などの精神的現象との関係を解き明かすための実験を考案し、実行しています。抗不安薬を飲むとスッと不安が消えますが、化学物質で人間の気分が変わるって、冷静に考えてみるととてもミステリアスです。研究には、世界で、人類で「あなたが」最初に見る現象に出会い、そのミステリーを解明する面白さや驚きがあります。それだけでなく、その現象を論文にまとめて発表し、世に出していくことで、あなたは「人類の宝」をつくり、次の世代を生きる人に貢献することができるのです。その成果は不滅です。



研究活動での経験は、生きることそのもの

大学学部までは、系統的に知を積み上げ、知力を磨くことに力を注ぎますが、大学院以降は「力を試す」ことに重点が移ります。研究室では、教員も学生も同じ「研究者」として、ともに課題の解決を目指していく同志です。研究に関わらず、対等なスタンスで学生と話し合いをしている時などには、大学院生としての成長を感じます。

大学院で未知の問題を発掘し、あらゆる手でその問題の解決をめざすことは、生きることそのものにつながります。大学院時代に取り組んだテーマと関係のない進路でも、その経験は必ず人生の役に立つでしょう。また、研究職として仕事をしていきたいと思うならば、理系では大学院進学は必須です。学部生の早いうちから、大学院進学を視野に入れておくことを勧めます。

池永 寛明 氏

大阪ガス株式会社
エネルギー・文化研究所(CEL)顧問

文脈・本質を探る力

日本はかつて新しいもの、異なるものを外部から取り入れて自らのものとする「翻訳」「編集」が得意でした。外からのコード(本質)を読み解き、日本的なるモード(様式・方法論)化してきました。漢・唐に倣った平城京・平安京から、茶道、雅楽、近年ではセブン・イレブンなどを、日本のものとして高度に発展させてきました。海外から入ってきたモノ、コト、技術、サービスを、日本人の感性によって磨きあげ、洗練さ、心地よさを生み出す。現代この翻訳・編集能力が弱くなってきていると感じています。今ここにあるものが、なぜこれだけ承継され、成長し続けることができるのかという文脈・本質を探る力が、今求められています。

徹底的な想像力を身につけること

海外から来た「イノベーション」という言葉は、日本的なものに翻訳されないまま、「創造」や「変革」と理解されて日本社会に広がりました。

そもそも「創」の字には、鋭利な刃物でエッジを立て、新しいものをつくりだす、という意味があり、「創造」とは自分がいいと思う価値観で考え新たなものをつくることです。対して本来の日本の強みは、相手のことを徹底的に考える「想像力」から生まれるモノづくりにありました。近年日本は「創造」一色となって、「ゼロから何か作れ」「他者と違うものを作れ」と言われているうちに、本来日本人が持っていた「想像力」が弱くなったのではないのでしょうか。日本の「創造」は、「徹底的な想像力」の先にあると言えます。

この「想像力」を鍛えるために、大学院では理論を学ぶことに加え、多層的・多層的な人材で混ざり合っただけで多層的な議論を行い、知恵を出し合い、試行錯誤して失敗と経験を繰り返す実践力を高めていただきたい。そこから、類推する力や相手のことを想う力を養うとともに、戦略策定能力を高め、こういう風に社会を良くしたい、これを作りたいという実行力・展開力を高められることを期待します。

大学院生へのメッセージ

大阪、奈良、京都の街を訪れる多くの中国人観光客は、漢民族の文化を高度に洗練・発展させた「日本的翻訳力」を学びに来ています。立命館の拠点である近畿には、過去から現代まで繰り返され、承継された日本的なるものをつくりつづけている「文化」が残っています。技術と社会を繋ぐのは「文化」であると認識し、世界各地が動き出しています。大学院での研究とともに、ぜひ近畿の町を歩き、人々との対話を通じて「日本的なる」風土に触れ、過去から現在につながる文化力を高める学びをお勧めします。



COMPANY PROFILE

天然ガスを中心としたエネルギー事業をはじめ、豊かな暮らしの創造と地域社会の発展を目指す事業を幅広く展開する「総合エネルギー事業者」。本学「超創人財育成プログラム」協力企業。

秋山 真治郎 氏

アビームコンサルティング株式会社
人事グループ 人事ユニット タレントアキュイジションチーム シニアマネージャー

これからの時代に身につけるべき力

AI(人工知能)やRPAに代表されるデジタルテクノロジーが、世界規模で急速に発展しています。日本においても、少子高齢化による労働力不足を背景として、生産性を高める企業改革の需要が高まっています。今後は、単純な意思決定やルーチンワークはなくなり、人にしかできない仕事が増えるようになります。また、社会や企業を取り巻く変化も激しいため、一企業の中でだけ役立つ知識ではなく、どこでも活躍できる「基礎戦闘力」を、一人ひとりが高めておくことが理想と言えます。このような時代にあっても、どのような仕事であれ必要とされるのは、「問題解決能力」と「コミュニケーション能力」でしょう。

大学院で鍛えられる力

問題解決には3つのステップがあります。初めに、問題の特定。二つ目に原因の究明、最後に解決策の策定です。AIは問題を処理することはできても、人間より高度に問題を提起することは困難です。大学院での研究においては、文理を問わず自身で「テーマを設定」し、「情報収集」してファクトを揃え、「仮説検証」を繰り返し、導き出された解を「発表」します。このプロセスはまさに「問題解決能力」と「コミュニケーション能力」を醸成するもので、コンサルティングに必要なスキルとも、非常に親和性が高いと言えます。あらゆる手法で情報を集め、構造化する経験、学会発表の経験など、インプット・アウトプットの場数が圧倒的に多いことは、大学院生の強みです。

大学院生へのメッセージ

大学院に進学する学生は、それぞれに突き詰めたテーマがあるでしょう。一方で、将来を考えると、今やっていることだけを軸にすると、どうしても視野が狭くなりがちです。研究テーマとの親和性も大事ですが、大学院でどのような力やスキルを身につけられたのかを振り返り、自身の経験が活かせる進路を検討して欲しいと思います。その結果がアカデミアの道であっても、就職であっても、幅広い選択肢の中から考え抜いた進路であれば、大学院で積んだ経験を活かせるのではないのでしょうか。



COMPANY PROFILE

「日本発、アジア発」をスローガンに、独自の文化や手法で企業のグローバル化や経営変革をサポートしている総合コンサルティングファーム。アジアを中心に世界33カ国、63拠点に広がるグローバルネットワークを有する。長期企業実習で、本学テクノロジー・マネジメント研究科と連携。

各研究科の研究内容一覧

法学研究科

P.27



法学・政治学の研究者、高度専門職業人・公務員を養成。

100年を超える伝統を持つ法学部を基盤とし、研究者の養成のみでなく、近年は税理士・司法書士・弁理士など高度専門職や公務員の養成にも優れた実績を残しています。2016年度からは目指す進路別の4コース制をとり、法学・政治学分野での大学院生の新たな進路の開拓に取り組んでいます。

社会学研究科

P.28



国内外の諸課題を学際的創造的に解明する力を養う。

社会学研究科は、1972年に社会学をはじめとする諸科学の協同によって、現代社会を総合的に把握し、現代社会が直面する諸課題に立ち向かおうとする高い志に基づき開設されました。社会的に要請される実践的課題にこたえる研究者と専門職業人の養成を目指しています。

国際関係研究科

P.29



世界と日本を架橋する人材を育成。

政治、経済、文化・社会を含む学際的な社会科学としての国際関係学を柱に、国際社会の諸問題の解決に知的に貢献するため1992年に設立されました。国際関係学の研究者に留まらず、国際社会や地域社会でそれぞれの立場から国境を越えて活躍する専門性を備えた実務家を養成します。

文学研究科

P.30



「人間とは何か」をはてしなく追い求める。

「人間とは何か」を追求する人文学の意義がますます増大する現代社会において、人文学の諸分野における専門的・国際的な研究を展開することによって、学界の第一線に立つ研究者、および研究を通じて培った知識や経験を生かして社会で活躍する高度な職業人を育成することを目的としています。

映像研究科

P.31



プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成。

立命館大学が総合大学であることのメリットを活かした幅広い教養と、映像の制作(作品制作にとどまらず、開発・活用を含む)に関連する知識・技能・技術・方法論の修得により、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力を養成することを目指します。

言語教育情報研究科

P.32



言葉を探る、言葉を教える

言語は人間だけに与えられた宝物です。人と人がコミュニケーションをとる際に用いられるだけではなく、思考や認知の際にも不可欠な役割を果たします。言語の諸特徴を探り、言語を教えるための専門知識を身に付けることは魅力的なことです。言語学、言語教育学を踏まえた上で、日本語・英語の教師や言語に関わる専門家を指す人たちに門戸を開放しています。

先端総合学術研究科

P.33



人類の課題に新たな「知」をもって挑む、知の探究者へ。

20世紀から今世紀に引き継がれた新たな質の、先端的なテーマに取り組む研究者の養成のために、特定学部を基礎とするのではない独立研究科としてディシプリンの総合化をはかり、また、研究所・センター群との連携によるプロジェクト研究における教育によって、大学院教育と先端的で総合的な研究との緊密な結合を実現します。

経済学研究科

P.34



経済学をベースとした「知のプロフェッショナル」を養成。

「経済学の分析・調査・研究力量を有した高度専門職業人研究者の養成を目指す」という理念に基づき、優れた研究や教育実績を有する教授陣の指導のもと、世界レベルの経済学を研究することができます。また、徹底した少人数教育を行っています。

スポーツ健康科学研究科

P.35



スポーツ健康科学分野のプロフェッショナルを養成。

優れた教授陣と最先端設備により、スポーツと健康を科学的視点で捉えた、総合的・学際的な教育・研究を行います。専門知識と共に、高度な実践力とリーダーシップを備え、社会の発展に寄与する高度専門職業人ならびに研究者を養成します。

理工学研究科

P.36



創造的でグローバルな研究者・高度専門技術者の育成を目指す

理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などまで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造し、グローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。

情報理工学研究科

P.37

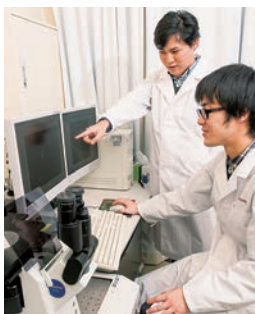


ITの最先端領域における教育と研究を展開。

産業界におけるIT人材需要や教育機関への期待はますます高まっています。こうした社会の要請に応えるため、情報理工学の幅広い専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者や高度専門職業人を育成します。各コースにグローバル科目を開講し、国際社会で活躍できるグローバルな力を培います。

薬学研究科

P.39



命に関わる薬のプロとして、先導的役割を果たせる人材を育成。

近年、ライフサイエンス分野や医工学分野における研究の進歩や技術革新に伴い、医療分野における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきています。本研究科は、医療分野の著しい進展や超高齢化などの社会、医療環境の変化に順応し、高度医療において先端的・先導的役割を担う臨床能力・研究能力を備えた薬剤師・医療人・研究者、地域医療発展を先導できる人材を輩出することを目指しています。

政策科学研究科

P.41



政策の実践力を鍛え上げる。

政策科学は、新しい学問分野であり、学際的で実践的な研究領域です。専門の異なる複数の教員と、研究動機やテーマの異なる多様な院生が協働して、実社会に起こる政策問題を、現場への応用と基礎理論の間を絶えず往復しつつ解決に向けていくといった特徴的なカリキュラムにより、政策の実践力を鍛えます。

経営管理研究科[ビジネススクール]

P.43



ビジネスを創造する力を身につけるためのMBA

本研究科は、新しいビジネスを創造することのできるリーダーの養成を目指しています。豊富なビジネス経験を持つ実務家教員が多くの科目を担当します。授業は少人数・双方向型が多く、意思決定のための思考に加え、コミュニケーション力やプレゼンテーション力が磨かれます。新規学卒者等を対象とするキャリア形成プログラムと、社会人を対象とするマネジメントプログラムがあります。新規学卒者が社会人と一緒に学ぶ科目もあります。

法務研究科[法科大学院]

P.45

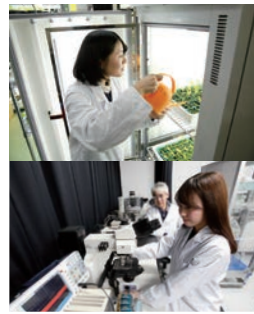


「21世紀地球市民法曹」を養成

「21世紀地球市民法曹」とは、グローバルな視点と鋭い人権感覚を備え、さまざまな分野・専門領域において活動する法曹を意味します。深い学識および卓越した能力を培うこと、とりわけ法に関する専門知識および交渉能力について、法曹として必要とされる能力を身につけることを重視します。

生命科学研究科

P.38



融合・連携型ライフサイエンス教育による人材育成。

ライフサイエンスは、その研究成果を活かし、人類の病の克服、健康で豊かな生活の実現、さらには食料・資源・環境・エネルギー問題などの解決に貢献することが期待されている学問です。本研究科は専門領域を深めながら、積極的に境界・関連領域も学べる融合・連携型ライフサイエンス教育を特徴としています。

経営学研究科

P.40



実践的な企業経営教育で、新時代のビジネスリーダーを養成。

学部教育とも連動しつつ「経営学の高度な専門力量を持ったビジネスパーソンおよび研究者を養成する」という教学目標を掲げて企業経営の教育研究を進めています。大学教員・シンクタンク研究員などの研究者や、公認会計士などを多数輩出し、高い評価を得ています。

テクノロジー・マネジメント研究科

P.42



技術とビジネスを結び、イノベーションから価値を創出。

本研究科では社会の様々な課題解決に挑戦するイノベーションリーダーを育成します。豊富な実務経験を有する教授陣はユニークな手法を用い、技術戦略、事業創造、マーケティング、オペレーションズ・マネジメントなどのイノベーション創造に欠かせない実践型教育を行います。受講生は自分が選んだ研究テーマで課題解決型の修士論文執筆ができます。

人間科学研究科

P.44



学びの融合は、心理学を超える

人間科学は、人と社会を統合的に研究する学び。心を科学で解き明かす心理学と実践で答えを探る臨床心理学、そして、社会と人の課題に向き合う対人援助学の3つの観点で、心理学の諸領域を超えていきます。国家資格「公認心理師」の認定プログラムにも対応しています。

教職研究科[教職大学院]

P.46



グローバルな時代に対応できる教員になる！

理論と実践の往還を目指し、本学附属校をはじめ、京都、滋賀、大阪の教育委員会と連携しながら学校現場でのフィールドワーク、長期の実習などを組み入れた特色ある教育プログラムを展開。教員としての高い指導力と将来スクールリーダーとして活躍できる力を獲得することができます。

博士課程前期課程における履修の概要

研究コース 法学・政治学分野の研究者を養成する

研究者養成を目的としたコースです。博士課程前期課程2年、後期課程3年の「ゆるやかな5年一貫制」をとっています。論文作成に向けた個別指導が行われるほか、専門分野ごとの研究会での討論を通じた少人数のグループ指導も行われます。また、司法試験に合格した方を受け入れる後期課程入試も実施しています。

リーガル・スペシャリスト・コース 企業法務、税務、不動産法務のスペシャリストを養成する

ビジネス法プログラム
民間企業や金融機関で法律専門職として活躍する人を養成するプログラムです。金融・証券関係の法制や証券化などの金融実務を学修します。

税務プログラム
税理士や公認会計士など税法務のプロフェッショナルを養成するプログラムです。税理士法人・事務所での法務実習を通じて理論と実務の架橋を図ります。

不動産法務プログラム
司法書士や民間企業の不動産関係の専門職養成を想定したプログラムです。司法書士事務所での法務実習を通じて理論と実務の架橋を図ります。

法学研究科

公務行政コース 法律学の知識を生かせる公務行政のスペシャリストを養成する

国家公務員や国税専門官、裁判所事務官など法律学の知識を必要とする公務員志望者のためのコースです。公務行政のスペシャリストとしての法律職・行政職公務員志望者を想定しています。

法政リサーチ・コース 多様な興味・関心を学問的に深める

学部段階で抱いた問題意識や学問的関心、究明しきれなかったテーマなどを、より専門的に深めるためのコースです。特定の進路に対応した科目群をあえて設定せず、各人の興味・関心にあわせて、他コース向けに開設された諸科目も含めて比較的自由に履修することができます。また、社会人が、職業体験を通じて抱いた興味や関心を研究テーマとして探究することも可能です。

※本学法学研究科は、税理士試験の科目免除に対応したカリキュラムです。

博士課程前期課程 履修モデル

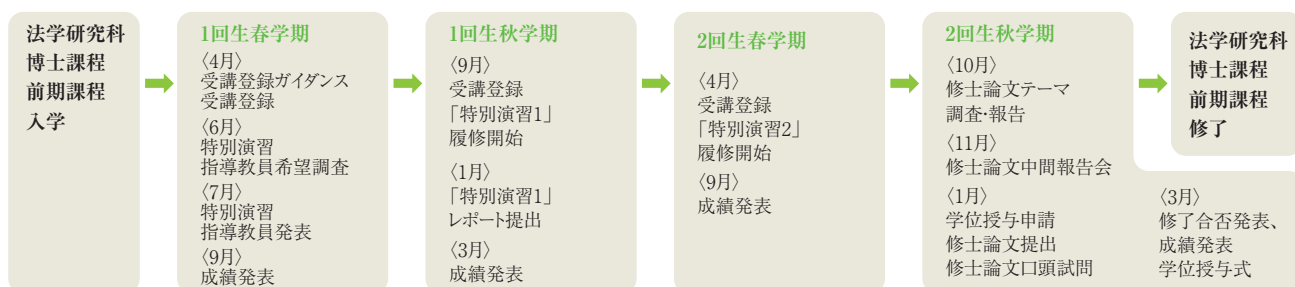
研究コース	-	憲法研究(講義/演習)/民法研究(講義/演習)/刑法研究(講義/演習)/政治学研究(講義/演習)/法哲学研究(講義/演習)/比較法研究(講義/演習)/外国書講読 など	企業活動	民法I/消費法/商取引法/会社法/著作権法/工業所有権法/独占禁止法
リーガル・スペシャリスト・コース	ビジネス法プログラム	保険法/金融・証券法/商取引法/会社法I-II/国際経済法/国際取引法/企業・金融法務 など	公務政治分野	憲法/行政法I/社会保障法/行政学I/政治学/現代政治分析/国際政治論/政治思想史
	不動産法務プログラム	不動産取引法/不動産登記法/商業登記法・供託法/民事訴訟法/民事執行・保全法 など	国際関係	国際法/国際人権法/国際私法/国際環境法/国際政治論/アジア法/英米法/西洋法史
	税務プログラム	税法総論/所得税法/法人税法/消費税法/租税手続・争訟法/国際税法 など	医療生命倫理関係	憲法/刑法I/家族法/法哲学/法社会学
公務行政コース	-	民法I-II/憲法/家族法/政治学/行政法I-II/行政学I-II/政策法務論/地方自治法/労働法 など	法学の基礎研究	法哲学/法社会学/西洋法史/日本法史/アジア法
			法政リサーチ・コース	

博士課程前期課程 法学研究科所属教員紹介(2019年4月現在)

- 平野 仁彦 教授/法哲学
- 渡辺 千原 教授/法社会学
- 河野 恵一 教授/日本法史
- 高橋 直人 教授/西洋法史
- 小田 美佐子 准教授/アジア法
- WOLF MICHAEL L. 教授/英米法
- 植松 健一 教授/憲法
- 大西 祥世 教授/憲法
- 倉田 原志 教授/憲法
- 駒林 良則 教授/行政法
- 小松 浩 教授/憲法
- 須藤 陽子 教授/行政法
- 正木 宏長 教授/行政法
- 望月 爾 教授/税法
- 安井 栄二 教授/税法
- 徳川 信治 教授/国際法
- 湯山 智之 教授/国際法
- 安達 光治 教授/刑法
- 嘉門 優 教授/刑法
- 本田 稔 教授/刑法
- 森久 智江 教授/刑事訴訟法
- 石橋 秀起 教授/民法
- 白井 豊 教授/民法
- 木村 和成 教授/民法
- 谷本 圭子 教授/民法
- 二宮 周平 教授/民法(家族法)
- 本山 敦 教授/民法(家族法)
- 山田 希 教授/民法
- 谷江 陽介 教授/民法
- 中谷 崇 准教授/民法
- 品谷 篤哉 教授/商法
- 竹濱 修 教授/商法
- 山田 泰弘 教授/商法
- 清水 円香 准教授/商法
- 出口 雅久 教授/民事訴訟法
- 川中 啓由 准教授/民事訴訟法
- 宮脇 正晴 教授/知的財産法
- 樋爪 誠 教授/国際私法
- 宮井 雅明 教授/経済法
- 岸本 雄次郎 教授/信託法
- 佐藤 敏二 教授/社会法
- 山本 忠 教授/社会保障法
- 吉田 美喜夫 教授/労働法
- 畑中 麻子 准教授/知的財産法
- 小堀 眞裕 教授/政治過程論
- 徳久 恭子 教授/政策形成論
- 山本 圭 准教授/政治思想史
- 堀 雅晴 教授/現代日本政治論
- 村上 剛 准教授/政治心理・行動学
- 村上 弘 教授/行政学・地方自治論
- 西村 めぐみ 教授/国際政治学
- 吉次 公介 教授/日本政治史
- 石原 浩澄 教授/英語
- 藏藤 健雄 教授/英語
- 佐藤 渉 教授/英語
- 吉岡 公美子 教授/英語
- JACKSON LACHLAN 教授/英語
- 松尾 剛 教授/フランス語
- 田原 憲和 准教授/ドイツ語
- 安保 寛尚 准教授/スペイン語
- 中西 千香 准教授/中国語

※教員の研究内容は「立命館大学法学研究科ホームページ」>「研究科紹介」>「教員一覧」で閲覧できます。

博士課程前期課程 研究指導フローチャート(リーガル・スペシャリスト・コース、公務行政コース、法政リサーチ・コース共通)



法学研究科についての詳細は



社会学研究科の特徴

- 専門性：研究領域ごとの「必修科目」「研究領域基幹科目」を設定し、専門性の基盤を築くカリキュラムを編成しています。
- 学際性：100名近い教員が集い、多様な知に触れることで学際的な研究を実践できます。
- 国際性：世界的な研究者によるサテライト授業や、留学生もまじえた共同研究を通じて国際性を高めます。
- 研究・教育環境：さまざまな機会を通して院生同士のコミュニティ作りを促進しています。また、研究や学びの質を高めるために院生との研究科懇談会を定期的実施しています。

「国際化」・「プロジェクト系科目」・「資格取得」

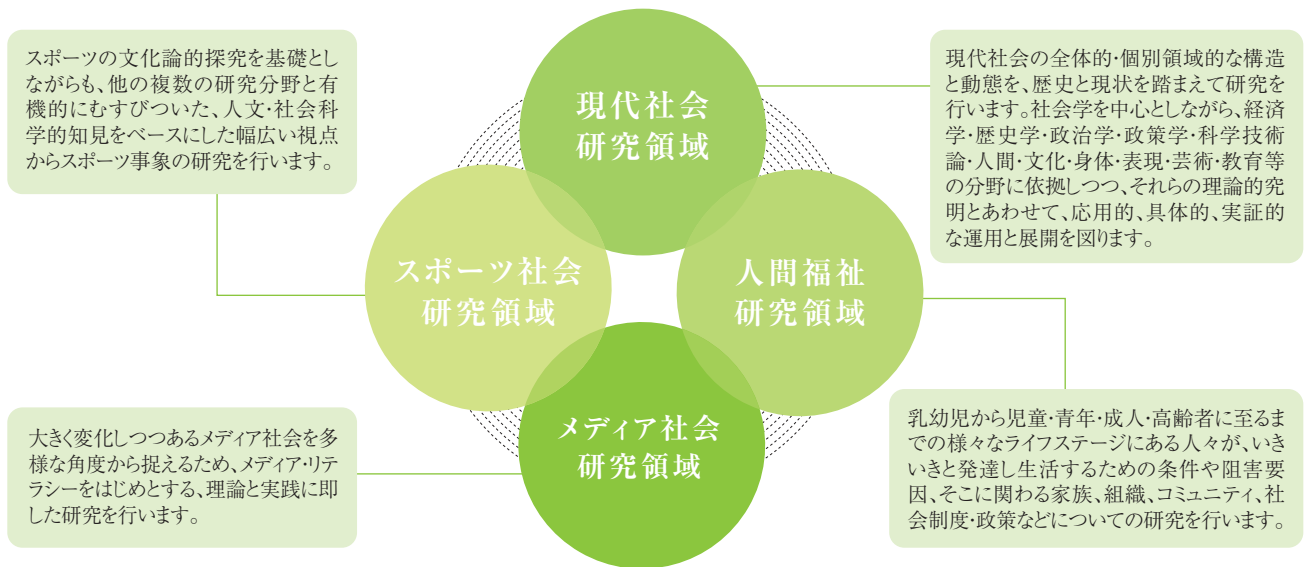
一部科目を基本的に英語で開講しており、また英国・ランカスター大学、韓国・中央大学校など海外の大学院との合同研究報告会の開催やDMDP(修士課程共同学位プログラム)などを通じて院生の国際交流にも力を入れています。

また、領域横断的・実践的な教育を提供するため、複数の教員による集団指導を行う横断型のプロジェクト系科目「研究プロジェクト」をはじめ、「キャリア形成プロジェクト」「国際プロジェクト」などのプロジェクト系科目を設けています。

資格取得の面では、社会調査の専門的知識と技能の修得を目的とした「社会調査士・専門社会調査士課程」を設置し、キャリアアップを支援しています。また教育職員免許状の一種免許状を取得している場合は、より高度な知見を教壇で活かすために専修免許状の取得が可能です。

4つの「研究領域」

社会学研究科のカリキュラムは、広範囲な社会問題を対象としつつ社会学の応用的展開を目指すために、4つの「研究領域」からなり、多様なアプローチを通じて、国内外での諸課題を学際的・創造的に解明する力を養成します。※所属する「研究領域」は入学試験出願時に選択していただきます。



研究科紹介

カリキュラムツリー [2020年度] (シラバスは社会学研究科ホームページからご覧いただけます)

	M1		M2	
	1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester
研究指導科目	特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
国際関連科目	外国語発信型科目(アカデミックライティング・アカデミックプレゼンテーションなど) 外国語論文講読科目(資料文献研究I(英語)・II(仏語)・III(独語)) 国際社会研究科目(国際社会研究・比較社会研究など)			
応用科目	研究領域専門科目(産業社会研究・福祉社会研究・スポーツ社会研究・メディア社会研究など) 実習系科目(応用社会学実習A(インターンシップ型)) プロジェクト系科目(研究プロジェクト・国際プロジェクトなど) 履修交流系科目(単位互換履修科目など)			
基幹科目	社会学研究法I(スタンダード)		社会学研究法I(スタンダード)	
	社会学研究法II(アドバンス)		社会学研究法II(アドバンス)	
	研究領域基幹科目I(領域ごと)	研究領域基幹科目II(領域ごと)		
	社会学理論			
	社会学史研究			
	社会調査研究I	社会調査研究II		
	多変量解析法I	多変量解析法II		
	社会統計研究			



5つの柔軟なプログラムで学際的なカリキュラムを展開

日本語で修了可能なプログラム

グローバル・ガバナンス [プログラム]

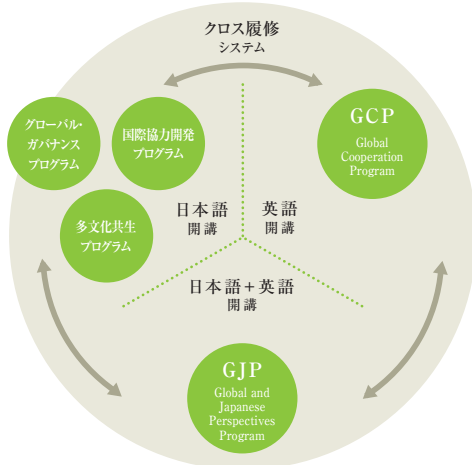
現代のグローバル化の進展は、国家のガバナンス能力の危機を生み出しています。本プログラムは、各地で勃発する民族・宗教紛争、テロや麻薬などの国際犯罪、環境破壊や感染症などの一国では対処不可能な課題に、国際社会はどう取り組み、平和と正義と民主主義を保障していくべきかを研究し、グローバル・ガバナンスの全体構造と動態を政治・経済・社会の側面から迫ります。

国際協力開発 [プログラム]

世界の圧倒的多数の人々は貧困と飢餓に苦しんでおり、今ほど「南北問題」の解決と、新たな国際経済システムの構築が求められているときはありません。本プログラムは、持続的な開発政策、貧困削減、国際援助、地域経済統合、市場経済の展開を研究し、それらの政治的・社会的背景とインパクトを理解することで、21世紀の世界の行方を総合的に追究していきます。

多文化共生 [プログラム]

情報通信技術 (ICT) の飛躍的な進歩によって、「世界は一つ」になりつつあります。本プログラムは、世界の一体化が、各国・各社会の文化にどのような影響を与えているのか、文化の変容をどう考えればよいのか、文化の衝突ではなく共生のために、我々は何を努力していくべきか、について研究します。



英語で修了可能なプログラム

GCP [Global Cooperation Program]

グローバル化を通じて、世界にはこれまでにないかたちで様々なボーダーを超える結びつきが生まれています。それは国際的な諸問題に新しい次元の複雑さをもたらすとともに、そうした問題を解決するための新しい協力の可能性を開いています。本プログラムでは、世界約20カ国以上の人たちが「国際協力と開発」をキーワードに英語で国際関係学を学んでいます。既に開設から10年以上の実績があり、世界各国の行政官など国を代表するリーダーとして多くの修了生が活躍しているほか、多くの日本人学生も本プログラムを経て実務家として活躍しています。

GJP [Global and Japanese Perspectives Program]

グローバル化の進展にともなって、実務的な英語の力や多文化的な組織に対応できる素養をもつ人材を求める社会のニーズが高まっています。学部までの学びからもう一歩踏み込んで「グローバル人材」を目指したい、本プログラムは、そんな方に向けて英語でのコア科目と演習を主体としつつ、日本語による科目を組み合わせて無理なくステップアップできる「育成志向」のカリキュラムで構成されています。多文化時代にふさわしい国際関係学の基礎と国際社会を見る日本の視点を強調した本プログラムは、日本から世界への発信を担う真のグローバル人材の育成を目指します。

主な開講科目一覧 ※他にも多数の科目を開講しています。詳しくはHPをご覧ください。

分野	日本語開講科目			英語開講科目	
	グローバル・ガバナンス	国際協力開発	多文化共生	GJP (Global and Japanese Perspectives Program)	GCP (Global Cooperation Program)
基幹科目 Core Courses	グローバル・ガバナンス史研究/グローバル市民社会研究/開発経済論研究/国際マクロ経済学研究/国際関係論研究/国際社会論研究/国際法研究/多元文化論研究/世界経済論研究			Global Civil Society / Global Politics / International Political Economy / International Sociology / Theories of International Relations GJP Platform (E) I / GJP Platform (E) II / GJP Platform (J) I / GJP Platform (J) II	Development Studies / Development Strategies / International Organizations / Professional Training / Research Training
プログラム科目 Program Courses	比較政治論研究 平和構築と予防外交研究 国際機構論研究 先進国政治論研究 現代民主主義研究 国際環境法研究 人権論研究 民族紛争の法研究	国際協力政策研究 途上国政治論研究 社会開発論研究 地域開発研究 環境経済論研究 国際金融論研究 日本経済研究 国際経済法研究 国際貿易投資論研究 地域統合論研究 開発計画特殊研究 国際協力政策研究 開発金融特殊研究	比較社会史研究 グローバリゼーションとジェンダー研究 グローバリゼーションと地域文化研究 グローバリゼーションと宗教研究 マイグレーション研究 メディアと国際社会研究 文化人類学研究	Japan in East Asia / Japan in the World History / Japanese Business Management / Japanese Economy / Japanese Diplomacy / Japanese Politics and Foreign Relations / International Organizations / Professional Training / International Security / Globalization and Environmental Issues / Globalization and Gender Issues / Globalization and Media / Globalization and Multicultural Issues / Development Studies / Development Strategies / Development Economics	Development Economics / Policy Evaluation / International Security / Globalization and Environmental Issues / Globalization and Gender Issues / Globalization and Media / Globalization and Multicultural Issues / Introduction to Economic Theory / Japan in East Asia / Japan in the World History

特徴的な学び

- 「国際的な大学院ネットワーク (APSSIA) へ、日本唯一の正会員加盟」
ハーバード大学、イエール大学を始めとした世界の国際関係学をリードする大学院が集まる、国際的な大学院ネットワーク (APSSIA) に日本の大学・大学院の中で唯一正会員として加盟し、国際関係学の教育・研究で日本をリードする存在として世界的に認められています。
- 多様性から学ぶ ▶ 世界各国から集う留学生と高めあう
世界各地から留学生が集い、その数は在学院生の半数を占めています。
留学生の出身国 (2018年度 秋 semester 在籍者) (順不同) 東アジア: 中国、韓国、台湾、日本 東南アジア: インドネシア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、カンボジア、バヌアツ、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ 中央アジア: キルギス、モンゴル 南アジア: インド、ネパール アフリカ: ジンバブエ、セネガル、ギニア ヨーロッパ: イギリス、スウェーデン、リトアニア、ドイツ、ポーランド 北南米: アメリカ、カナダ、メキシコ、アルゼンチン
- 世界で学ぶ ▶ Dual Master's Degree Program (DMDP)
約1年間、海外の大学に院生を派遣。最短2年間で2つの修士号を取得できる画期的な制度です。
アメリカン大学国際関係大学院【アメリカ】 エラスムス大学ロッテルダム/社会科学大学院大学 (ISS)【オランダ】 国立政治大学【台湾】 ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ校【イギリス】 ヨーク大学【イギリス】 慶熙 (キョンヒ) 大学校【韓国】
- エキスパートから学ぶ ▶ 経験豊富な実務家教員 ※各員教授や特別招聘教授の出講は、年によって変更になることがあります。
元国連事務次長 元外務事務次官 [株式会社 国際協力銀行] [独立行政法人 国際協力機構 (JICA)] [独立行政法人 日本貿易振興機構 (ジェトロ)]
- フィールドから学ぶ ▶ インターンシップ・フィールドリサーチを推進
ジェトロ (日本貿易振興機構)【国内外】、国際交流基金【ほか】

過去の修士論文タイトル一例

◇平和構築のための教育—緊急教育支援の動向と課題— ◇日本文化におけるサル/人間関係について—二助企園 (猿まわし) を事例として— ◇インドネシアにおける華人指導者たちの政治志向に関する一考察—体制変動と歴史的系譜の視点から— ◇EU金融規制監督の改革と今後—イタリアの銀行救済からの考察— ◇国際協力開発における歴史的変容とその行方—国連開発計画とインクルーシブビジネス— ◇カンボジアの学校教育における基礎教育の開発—地方分権化政策を通じた教育開発は可能か?— ◇中国とメコン地域における経済協力関係 ◇政治経済学の視点から見る中越外交関係—2014年5月にベトナムで起きた反中デモの短期取束を例として— ◇オバマ政権期におけるアメリカのレイシズムの考察 ティーパーティー運動を事例として ◇中国都市部における高齢者介護—高齢者介護システムの構築を展望して— ◇日韓の歴史認識問題—日韓歴史共同研究の課題と展望— ◇日本におけるパブリック・ディプロマシー—対韓パブリック・ディプロマシーの現状とその課題— ◇日中歴史教科書問題の現状と課題—中学校歴史教科書を手がかりに— ◇人権とケイビリティ・アプローサー—共通価値の視点から— ◇国連機関における国内避難民保護についての考察—背景・課題—



■ 多様な教育・研究を生み出す2つの専攻、14の専修

文学研究科は人文学専攻と行動文化情報学専攻による、2専攻14専修の体制となっています。伝統的な人文学に加え、情報技術と人文学を融合させたこれまでにない新しい学問分野を展開しています。

文学研究科	人文学専攻	哲学専修	古代ギリシャ哲学から近代哲学、倫理学、社会哲学、現象学、フランス現代思想といった諸分野に専任スタッフが配置し、2600年以上前に始まる「人間とは何か」という課題に取り組みます。	
		教育人間学専修	「こころ」の問題を媒介として、教育と人間のかかわりを多角的に考究します。その出発点は、生まれ、育ち、出会いや別れをへて、やがて老い、死にゆく人間の営みに対する驚きと慈しみです。	
		日本文学専修	長い歴史に培われた日本の文学作品やことばを通じて、日本文化の特質を探索します。想像力溢れる作品群は、時代を超えて私たちの胸を打ちます。新たな視点で先端的な研究をめざします。	
		中国文学・思想専修	悠久の歴史の中ではぐくまれ、東アジアの文化に大きな影響力をもつ中国の文学や思想に関する高い識見を養い、そこに存在する興味深い問題について清新な研究を展開します。	
		英米文学専修	英米を中心とする英語文学・文化を広く深くカバーする専門分野の教員が指導に当たり、高度な英語力や分析力を養います。研究職はもとより、英語力が要求される多様な職場への就職が考えられます。	
		日本史学専修	古代から現代に至る各時代のスペシャリストが、伝統ある「立命史学」に立脚した新たな歴史学を構築します。全国各地で教員・学芸員として活躍する先輩たちとのネットワークも充実しています。	
		東洋史学専修	中国を中心とする東アジア世界を、その起源に遡って研究します。そのための方法としての原典読解は、昨今の東アジア諸地域におけるダイナミックな動きの原点を探る上で有益でしょう。	
		西洋史学専修	古代～現代の西欧・東欧における政治史、文化史、社会史など広い領域にわたる教員スタッフが、専門の垣根を越えて研究を発展・深化できるように、協働しています。	
		文化動態学専修 [博士課程前期課程のみの募集]	比較文化論、言語学、歴史学、美術史、現代芸術批評、音楽文化論、社会思想史、文化人類学等の専門領域を横断しながら文化のダイナミズムに取り組める専修です。	
		現代東アジア言語・文化学専修	中国(台湾・香港などを含む)・朝鮮半島を領域とし、そこにおける言語・現代文化・現代史を教学分野として、中国語・朝鮮語の実践的なコミュニケーション能力を身につけた、グローバルな東アジア人を育成します。	
		英語圏文化専修	英語学・言語研究および英語圏文化の歴史、文化・文学を分野横断的に研究します。高度な専門性を磨きつつ学際的な思考力を身につけます。また、これらの研究を通して国際的に活躍できる英語運用能力を養います。	
		行動文化情報学専攻	地理学専修	地表上のさまざまな現象を空間的関連性の観点から解明するのが地理学です。専修には幅広い専門分野に多くの教員スタッフがいて、質の高い研究・教育を展開しています。
			文化情報学専修	人文学に情報技術を取り入れたデジタル・ヒューマニティーズの手法を応用し、世界に誇る日本文化・芸術・文化遺産をテーマに、研究手法の格段の効率化を図り、魅力的で豊富な専門知識をキュレーションできる人材を育成します。
			考古学・文化遺産専修	人類の残した遺跡や遺物から歴史を復原する考古学を学ぶと同時に、遺跡や遺物を中心とする文化遺産の保存と活用について学びます。日本列島の考古学と文化遺産が対象ですが、日本列島以外についても広く学ぶことが可能です。

研究科紹介

■ 大学院生の目的に応じた2つのコースを設置 [博士課程前期課程]

前期課程では、様々な目的を持つ人を受け入れるため、2つのコース(研究一貫コース、高度専門コース)を導入しています。コースは入学試験出願時に決定し、入学後はそれぞれの目標に沿って研究を進めていきます。

<h3>研究一貫コース</h3> <p>博士課程後期課程に進学して博士学位を取得することを目指す人。博士学位取得後は、高等教育・研究機関での教育・研究に従事することを目標とする人を対象とします。</p>	<h3>高度専門コース</h3> <p>博士課程前期課程修了後は、中学・高等学校教員、公務員、学芸員などの専門的知識が必要とされる職業を目指す人。また現役の有職者で、より専門的な能力を身に付けることを目指す人。その他、社会人として幅広い活動に応えられる教養を身に付けることを目的とする人を対象とします。</p>
---	---



映像研究科

衣笠 Graduate School of Image Arts

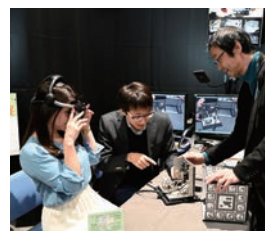
■ プロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成

映像文化への横断的思考の涵養

近年の多様化する映像文化・映像産業をめぐる状況の中では、映像に関するジェネラリスト的な素養と領域・分野に応じた高い能力が求められます。そのため、映像研究科ではプロデューサー・マインドを備えたビジュアル・ディレクターの育成を目標とし、他には見られない特徴的な学びを展開しています。

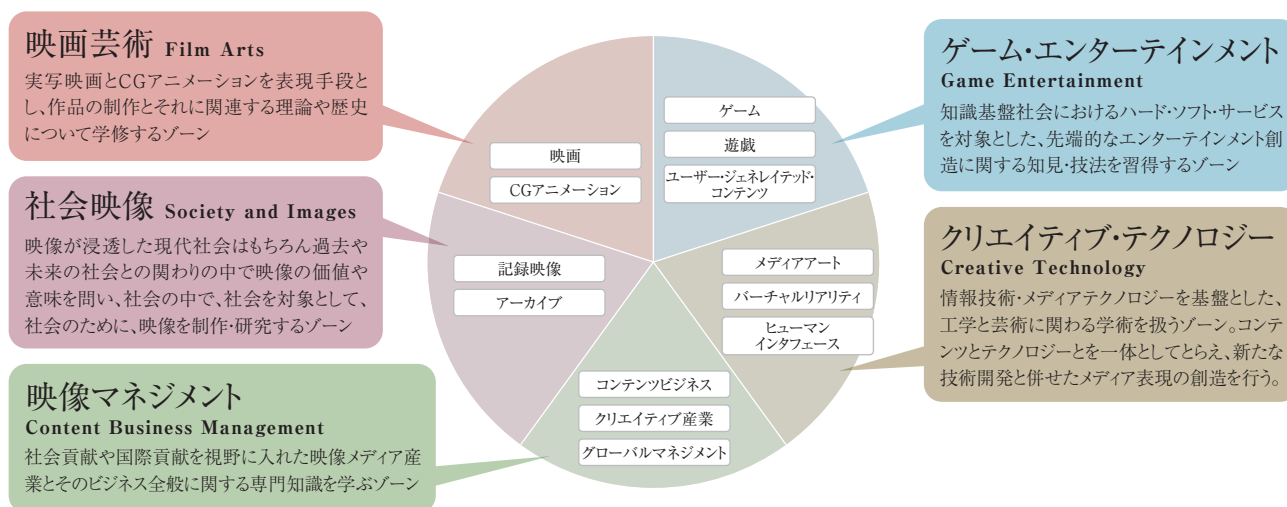
映像研究科の特徴

- ・立命館大学という総合大学において、多岐化・多様化を続ける映像世界を包括的・構造的に測定する能力、複眼的あるいは柔軟に考察する能力の涵養
- ・一分野に特化し狭い範囲で専門的技術修得者を養成するのではなく、多面的な視点を携え、専門性が高くかつ汎用性もある知識、技能、技術、方法論を持ち、変化の激しい映像文化に弾力的な対応ができる能力の育成
- ・社会の求める課題に対する発見や調査を踏まえた研究・制作・開発の実践
- ・5つのサブジェクト・ゾーンからなる分野横断的な学び
- ・1名の研究科生に対して、2名以上の教員による丁寧な指導体制



■ サブジェクト・ゾーン

映像研究科では、5つのサブジェクト・ゾーンの学びの中で、学修経路を自覚しながら、複合的な映像の領域において幅広い視野と専門性の高い理解と技術を身につけることができます。



■ テーマ・プロジェクト型制作・研究とディシプリン・リサーチ型学修の融合

- ・映像学部にも素地のある学生が早期から研究活動の実質化に注力でき、基礎的な知識・教養の補強が必要な学生はその獲得を集中的な機会で行われる導入・基幹科目を配置
- ・授業科目群の複合的な結合が特徴

「テーマ・プロジェクト型」授業科目群 → 自ら課題を見出して制作あるいは研究に結実させていく
→ 「映像研究演習」「映像研究キャリア演習」など映像関連分野の制作・研究にとって背景となる知識を獲得する授業科目を配置し、「プロジェクト演習」で修士論文・制作に向けた準備を進める

「ディシプリン・リサーチ型」授業科目群 → 講義・実習形式により、映像に関わる諸分野の研究に必要な知識・分析法・技能・技術を修得



■ 研究指導システム

修士論文もしくは修士制作・解説論文の完成にむけて院生1名に対し、教員2名以上による複数指導体制を確立しており、自らの研究テーマに合致した修士研究を行っています。

■ 過去の修士論文・制作 タイトル一例

◇通所介護事業所におけるインタラクティブ・デバイスの制作と展開 黒電話型デバイスの事例から ◇映像アーカイブ構築から試みる花街の芸の継承～上七軒の地方を中心に～ ◇オンラインゲームのアーカイブ構築に関する基礎的研究—オンラインゲームに対応したデータベース構築の提案と実践— ◇映画「空虚装置」の制作と解説 ◇奈良団扇の製作工程疑似体験ウェブアプリケーションの開発～透かし彫りに焦点を当てて～

■ 主な進路・就職先

松竹(株)、(株)カプコン、(株)DeNA、(株)日経映像、(株)南日本放送、(株)ライブマティクス、(株)デジタル・メディア・ラボ、(株)エスノバ、(株)ウェルツアニメーションスタジオ、他大学大学院後期課程進学 ほか

映像研究科についての詳細は



コース・プログラム

英語教育学 プログラム

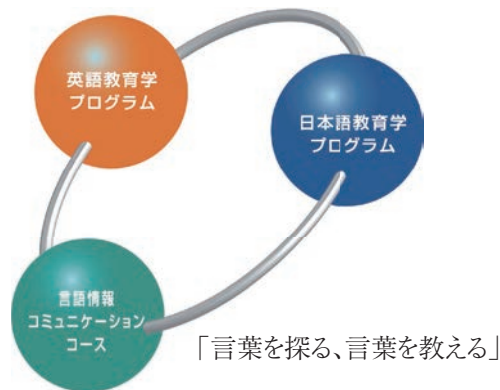
日本の英語教育は、従来の言語知識偏重の教育から、実践的コミュニケーション能力を養成する方向に大きく舵が切られました。これからの英語教員には、英語教育学に関する高いレベルの指導力、教師自身の英語運用能力、そして高い学習目標と動機づけによる意欲的な学習と、達成感から生まれる大きな喜びを、学生・生徒に与えることが求められています。本プログラムではこのような教育理念に基づき、国際通用性を獲得した英語教員を養成するために、外国語としての英語教育に関する深い専門知識を得る科目履修に加えて、海外でのTESOL資格の取得や日本の高等学校でのインターンシップを両輪としたカリキュラムを組んでいます。

日本語教育学 プログラム

日本語学習者数が国内外で増加し、学習者の多様化が進んでいます。社会・文化背景、そして学習目的の多様性に対応できるような高度な知識と実践力そして柔軟性を備えた日本語教育の専門家が必要とされています。本研究科の日本語教育学プログラムでは、そうした要請に応えられるよう、日本語言語学の高度な専門的知識と研究方法、そして最新の外国語教授理論を授業やゼミ指導で学び、国内外の多様な教育機関で実施される日本語教育実習で実践力をつけます。学部で日本語学や日本語教育学を専門として進学してくる人はもちろんのこと、現職の日本語教師、社会人、そして留学生など、多様な背景を持った大学院生が学べる環境が整っています。

言語情報コミュニケーションコース

本コースは、英語・日本語などを研究対象にして、言語情報科学的分析あるいは社会言語学的分析を行います。研究科が保有する大量の電子化された言語テキスト(コーパス)をコンピュータによって解析し、新たな言語事実を発掘し、それを言語の体系の中でどのように位置づけるべきか、またどのように説明するかを考えます。その前提として伝統文法、記述文法、言語理論を重視します。また、情報機器やネットワーク技術を応用したマルチメディア利用のCALL教材開発の研究を行うこともできます。社会言語学的視点からは、ボラリティネスストラテジー、バイリンガリズム、言語変化、地域方言・社会方言の研究などを行います。



研究指導の流れ

4月入学の場合(9月入学の場合概ね時期が6ヶ月ずれます)

1年次		2年次	
第1 Semester	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester
「研究基礎論1」 (研究指導科目/講義形式)	「研究基礎論2」 (研究指導科目/講義形式)	「課題研究演習I」 (研究指導科目/ゼミ形式)	「課題研究演習II」 (研究指導科目/ゼミ形式)
アドバイザー決定(4月初)	構想発表会(12月)	2年次研究指導計画書提出(4月末)	中間報告会(10月)
1年次研究指導計画書提出(4月末)	指導教員希望申請(1月)		修士論文または特定課題研究の 成果物と報告論文提出(1月)
	コース選択(「修士論文」または「特定課題 研究の成果物と報告論文」)(1月)		口頭試問(1月~2月)
	指導教員決定(1月)		学位授与・修了(3月)

科目紹介

*一部の科目(演習など)を除いて、どのコース・プログラムに所属していても、各コース・プログラムの科目を履修することが可能です。

英語教育学 プログラム

- 英語教授法論
- 第二言語習得論
- 英語学(音声学・音韻論)
- 英語学(文法論)
- 早期英語教育論
- 言語教育における測定と評価
- 英語教育における語彙習得論
- 英語教育学の諸問題
- 英語教材開発演習
- 英語教育インターンシップ
- 英語授業研究演習
- 電子教材開発演習
- TESOL 教授法と実習
- TESOL リサーチスキルズ

日本語教育学 プログラム

- 日本語を対象とした第二言語習得論
- 日本語学総論
- 日本語教授法・教材論
- 対照言語・文化論
- 言語文化教育論
- 年少者日本語教育論
- 日本語学(音声学・音韻論)
- 日本語学(語彙・意味)
- 日本語学(文法)
- 語用論・談話分析
- 日本語教育学の諸問題
- 日本語教材開発演習
- 電子教材開発演習
- 日本語教育実践演習
- 日本語教育学演習

コース共通科目

- 応用言語学のための統計解析
- 基礎言語情報処理
- 英語文献講読
- 英語アカデミックライティング
- 英語アカデミックプレゼンテーション
- 日本語アカデミックライティング
- 特殊講義
- 研究基礎論1
- 研究基礎論2

言語情報コミュニケーションコース

- 言語記述方法論
- 意味論・語用論
- 形態論・統語論
- 英語語法文法研究
- 対照表現研究
- バイリンガリズム
- バイリンガル言語習得と脳科学
- 言語情報学の諸問題
- 英語語法文法分析演習
- コーパスによる言語分析演習(日・英)
- Perlプログラミング
- 社会言語学
- 多言語社会論
- コミュニケーション論
- 言語コミュニケーション学の諸問題
- 言語調査法演習



研究科・領域概要と教員研究テーマ

先端的なテーマを総合的に研究し、研究者を養成するために、2003年4月に開設された一貫制博士課程の独立研究科。「核心としての倫理」を軸として、「公共」「生命」「共生」「表象」という4つのテーマ領域のもとで、本学の研究所・センターと連携し、学内外の研究者とネットワークを構築して、デザインを横断するプロジェクト研究を行い、大学院院生を共同研究者として参画させることによって、研究者養成を進めています。

《生命》争点としての生命

生命科学・医療・福祉をめぐる科学的知識・技術の歴史的検討、倫理的諸問題の整理を通じて、生命・生殖・病・死を総合的に探究し、新しい生命の理解と倫理の構築可能性を開く。

- 生命論の理論的争点 小泉 義之(哲学・倫理学)
- 生命と技術の倫理 松原 洋子(科学史・科学技術論)

《表象》文化と芸術の表象論的分析

文化と芸術の諸事象を表象論的観点から読解・分析します。技術、歴史、思想、実践への理解を主軸とし、創造と受容の場、諸々の文脈、メディアといった問題系へとアプローチ。

- 社会におけるアートの作用機序 竹中 悠美(芸術学)
- 現代哲学と批評のあいだで思考する 千葉 雅也(哲学・表象文化論)
- ゲーム・デジタルメディア表現論 M・ロート(メディア・日本地域研究) [2019年9月着任]

《公共》21世紀における公共性

身体をめぐる言説・運動・政策の変容過程を検討しつつ、断片的な生のあり方を拾いあげながら、デモクラシーと生存のための社会システムの公共性を探る。

- 生活史 岸 政彦(社会学・生活史)
- 身体の現代・他 立岩 真也(社会学・障害学)
- 医療・身体性・グローバリゼーション思想 美馬 達哉(医療社会学)

《共生》共生の可能性と限界

多大な犠牲をとまなう不完全な共生実験であった人間の歴史を批判的に遡りつつ、未来に向けて、そうした犠牲を伴わない生命と生活の可能性を構築する方途を探る。

- 彼知と生き方・働き方の人類学的研究 小川 さやか(文化人類学・アフリカ地域研究)
- 市民社会は共生のモデルとなるのか? P・デムシエル(政治哲学)
- カタストロフィと文学 西 成彦(比較文学)



カリキュラム表

分野	科目名	
基礎共通科目	基礎講読演習	基礎講読演習I・II・III
	応用講読演習	応用講読演習I～VIII
基礎専門科目	主題別講義	公共論史、公共論I・II・III
		生命論史、生命論I・II・III
		共生論史、共生論I・II・III
		表象論史、表象論I・II・III
	特殊講義	特殊講義I・II・III・IV
サポート科目		デジタルデザインI・II・III
		アカデミックライティングI・II・III・IV
		リサーチマネジメントI・II・III
プロジェクト予備演習	プロジェクト予備演習I・II・III	
プロジェクト演習	プロジェクト演習A	

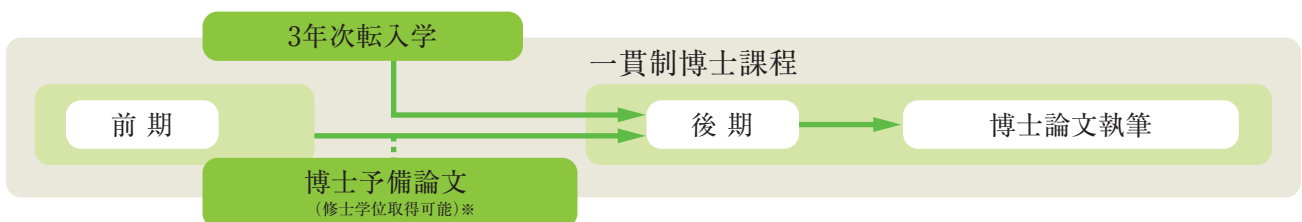


★学位授与数【博士(学術)】

2003年4月の研究科設置以来、121名の博士学位取得者を輩出。(2019年3月27日現在)

←★刊行物

- 先端総合学術研究科紀要「コアエシックス」(外部査読員による査読付き雑誌)
- 修士生、教員多数の著作物あり。くわしくは先端研HPをご覧ください。



※2年以上在学し、所定の単位を修得し退学する場合に修士学位を授与することがあります。

最近の博士論文テーマ

- 「精神分析草創期における共感に関する心理歴史学的研究—フロイト、アブラハム、フェレンツィの人生とプラクティス—
- 「福祉制度とALSの人の家族介護に関する質的研究—韓国介護支援制度を中心に—
- 「戦後日本における大衆薬の分化過程についての歴史的考察—安全性と効果の政治学—
- 「障害基礎年金制度の成立プロセスを探る—当事者運動と年金改革の接点—
- 「日本における脊髄損傷医療の歴史的探究—脊髄損傷「患者」の生成と変容—
- 「恵那地方の障害児者地域生活運動—生活綴方と人々が織り成す現代史—
- 「相談支援の基本構造と形成過程—精神障害を中心に—
- 「「抵抗」する女たち—フランス語圏カリブ海文学における「シスターフード」—
- 「日本における新生児マス・スクリーニングの歴史的検討—「遺伝」をめぐる問題に着目して—



■ 博士課程前期課程

前期課程では、「経済理論・政策コース」「地域経済・地域マネジメントコース」(※2019年4月新設)「税理・財務コース」「Master's Program in Economic Development (MPED)」の4コース制とし、それぞれの人材育成目的の下、少人数による研究指導やカリキュラムの充実を図っています。外国人留学生を積極的に受け入れ、特にMPEDは留学生を中心としてすべて英語による授業を行っています。世界的に高まっている高度なスキルを持つ人材へのニーズにこたえるため、国際通用力の高い論理的思考力と構想力および創造性を持った人材を養成しています。

経済理論・政策コース

さまざまな経済問題を深く研究し、高度な論理的思考力、調査分析能力、問題解決能力、政策提言能力を育成します。経済学のスペシャリストとして、民間企業や官庁で中心となって活躍できる人材を養成します。

地域経済・地域マネジメントコース

経済理論を基礎に、地域経済の分析と政策立案、そして地域をマネジメントできる能力を涵養する教育を行います。困難に直面する地域経済の持続可能な発展のための政策提案ができる、現場に通じた官民の高度専門職業人を養成します。 ※2019年4月新設

知のプロフェッショナルになる

税理・財務コース

経済学を基礎としながら、法学や経営学との境界領域を含む教育を行い、公認会計士、税理士、企業における税務・企業財務・会計のスペシャリストを養成します。税理士の資格取得を支援し、時代のニーズに合った高度専門職業人を育成します。

Master's Program in Economic Development (MPED)

すべて英語による国際標準の経済学教育を行い、経済学を基礎とする問題解決能力、政策提言能力を身につけ、世界を舞台に活躍する国際的専門職業人を養成します。途上国を中心に多くの国から多数の留学生を受け入れ、国際色豊かな教育を行っています。

■ 博士課程後期課程

後期課程では、広い視野と深い専門性および優れた独創性を持ち、新たな領域の研究分野を自ら切り開いてゆくことができる高い研究力量を備えた研究者を養成しています。この結果さまざまな大学や研究機関に多くの人材を輩出しています。

■ コース・カリキュラム紹介

	経済理論・政策コース	地域経済・地域マネジメントコース	税理・財務コース	MPED
1. 博士課程前期課程 (主な科目)	社会科学概論	地域政策	税法	Microeconomics
	ミクロ経済理論	地域マネジメント論	租税制度論	Macroeconomics
	マクロ経済理論	経済統計	国際課税	Econometrics
	計量経済学	社会科学概論	租税各論	Japanese Economy
	経済史	ミクロ経済理論	商法・会社法	Frontiers of International Project Development
	経済政策	マクロ経済理論	税務会計	Infrastructure Development Policy
	経済理論	地域ブランド論	インターンシップ	Development Economics
	社会政策論	観光経済論		International Economics
		アグリビジネス論		Financial Economics
	財政学		金融論	Applied Economics
	国際金融		国際経済論	Elementary Seminar
	経済発展論		応用経済研究	Research Seminar
	経済学特別演習		経済学研究演習	Special Seminar
2. 博士課程後期課程 (主な科目)	研究演習		特別講義	

■ 過去の修士論文タイトル一例

◇日本のETFのパフォーマンス—ETFのトラッキングエラーの実証分析— ◇移転価格税制における費用分担契約の研究 ◇Monetary Policy Effectiveness and Financial Development: An Empirical Examination.
◇When is a Country Ready to Export Manufactured Goods? ◇いじめ問題への経済学的应用 ◇消費税法における課税仕入れの制限に関する一考察

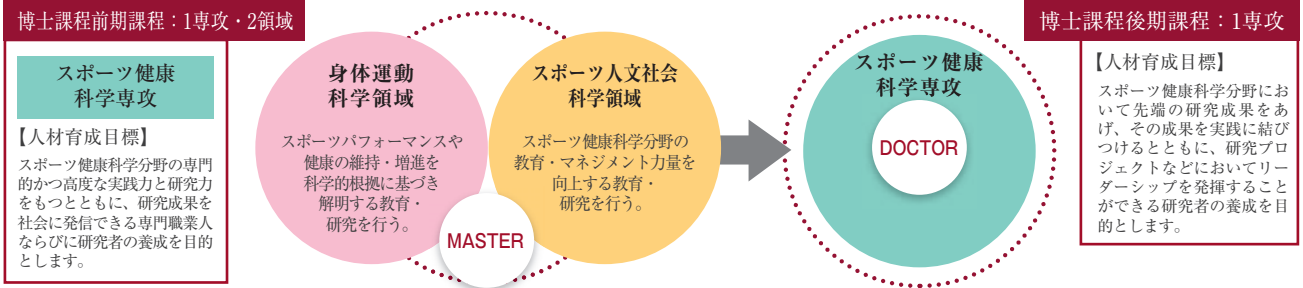
経済学研究科についての詳細は

立命館 院 経済

検索



「ヒト・ひと・人を科学する」ための学び



文理融合を奏でるカリキュラム

前期課程	基礎科目	共通基礎科目	科学研究特論 専門英語	研究調査特論	リーダーシップ特論
	展開科目	専門基礎科目		身体運動科学特論	スポーツ人文社会科学特論
身体運動科学領域			スポーツトレーニング特論 バイオメカニクス特論	運動生理・生化学特論 スポーツ工学特論	健康増進科学特論 運動処方特論
スポーツ人文社会科学領域			スポーツ教育学特論 スポーツマーケティング特論	スポーツ栄養教育学特論 スポーツマネジメント特論	コーチング行動学特論 スポーツビジネス特論
特殊講義			スポーツ健康科学特論		
キャリア形成科目			スポーツ健康科学キャリアプロジェクト	インターンシップ	外国留学科目
演習科目	演習		身体運動科学演習I~III	スポーツ人文社会科学演習I~III	
	研究指導		研究指導I	研究指導II	
後期課程	自由科目		単位互換履修科目	大学院コア演習	
	講義科目		先端スポーツ健康科学特論I-II		
	実習科目		学外実習1・2		
	演習科目		先端スポーツ健康科学特別研究I~VI		

●：必修 ●：身体運動科学領域は必修

●：スポーツ人文社会科学領域は必修

本研究科修了生 修士論文・博士論文テーマ(一部) ●：修士論文 ■：博士論文

- レジスタンス運動による筋内の性ステロイドホルモン分泌が2型糖尿病の筋量低下・高血糖改善効果に関連する機序の解明
- 高校生女子陸上競技選手への栄養支援による疲労骨折のリスク低下および予防に関する検討
- Motion analysis considering the deformation of the trunk (体幹部の変形を考慮した動作解析)
- 心電図計測可能なスマートウェアの開発
- 大学アスリートの自己調整学習を促すリーダーシップ行動と目標志向性に関する研究
- スポーツNPOにおけるタスク・コンフリクトが組織市民行動に与える影響-目標の受容に着目して-
- メンタルトレーニングに関する実証的研究-エリートアスリートの事例をもとに-
- 体育における社会的スキルの指導モデルに関する研究転移に着目して
- 腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の機能的役割の再考-歩行速度、ステップ長を変化させた歩行中の腸腰筋を含めた股関節屈曲筋群の活動-
- 運動・栄養処方による認知機能への効用とその作用機序解明に向けたアプローチ

本研究科修了生 就職先一覧(一部)

- トップアスリートを支える
国立スポーツ科学センター (JISS)
- 医薬品で人々の健康を守る
大塚製薬(株) クラシエ製薬(株) ミナト医科学(株)
- 健康的なライフスタイルをプロデュースする
(株)東急スポーツオアシス (株)ルネサンス
- 人々の暮らしに役立つ製品を生み出す
オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)
(株)バンダイ 山本光学(株)
- 人々の質の高い生活をサポートする
アサヒビール(株) キュービー(株) KDDI(株)
ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) (株)ソフトウェア・サービス
- ビジネス・パフォーマンスの向上を提案する
アクセンチュア(株)
- 企業と人々を結びつける
(株)リクルートホールディングス
パーソルキャリア(株) (株)ウィルグループ
- 地元経済の発展に寄与する
(株)西日本シティ銀行
- 人々の暮らしの仕組みと豊かなまちを創る
地方公務員(上級職)
- 未来を生み出す人を育てる
教員 (学)立命館
- 世の中に起こる様々な事象を伝える
関西テレビ放送(株)

日本学術振興会特別研究員採用率

「日本学術振興会特別研究員」とは、国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。本研究科院生は【2018年度43.0%】、【2017年度55.5%】、【2016年度40.0%】と、他大学大学院同分野と比較しても極めて高い採用率を堅持しています！



創造的でグローバルな理工系研究者・高度専門技術者の育成を目指す

Innovation in science and engineering

今、めまぐるしいスピードで科学技術が変化・進展し、社会や産業も変わり続けています。理工学研究科は、理学と工学の伝統的な高度な理論・技術だけでなく、IoTやAIまで、あるいはハードウェアからソフトウェア、高齢化社会対応問題、地球規模の環境問題などで、幅広く取り組みます。そして、新しい価値を創造できる研究者や高度専門技術者の育成を目指します。海外科学技術実習を支援するプログラムによってグローバルに活躍できる研究者や高度専門技術者の育成も目指しています。

4つの専攻

博士課程前期課程

基礎理工学専攻 数理科学コース 物理科学コース

ファイナンスや情報セキュリティ分野における数理科学、エネルギー問題やナノテクノロジーにおける物理科学と工学の融合など、多分野とも関連を持って発展する学問分野を研究します。

電子システム専攻 電子システムコース

毎日の生活を支えるエレクトロニクスや光工学、高性能かつ大規模な電子・情報システムなど、多岐に渡る電気電子工学領域を研究します。

機械システム専攻 機械工学コース ロボティクスコース
マイクロ機械コース

機械工学・ロボティクス・マイクロ機械工学に基礎を置き、これらの融合分野をも包括した教育・研究を行います。

環境都市専攻 歴史都市防災コース 環境社会工学コース
建築都市デザインコース

都市の社会基盤の整備、地球環境問題やバリアフリーへの配慮など、安全な社会生活を送るために解決すべき課題について教育・研究を行います。

博士課程後期課程

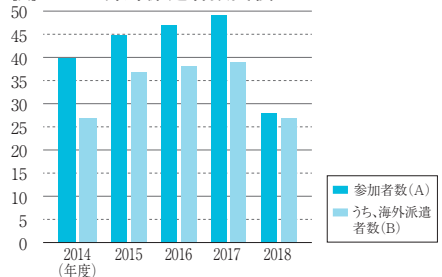


教育・研究の世界展開

実践的英語力を身につけ、海外での武者修行に挑む

理工学研究科では、世界各国から留学生を受入れるとともに、多くの日本人学生を海外に派遣しています。「国際的なフィールドで活躍するための意欲や素養・経験を身につけたリーダー」となり得る理工系技術者・研究者の養成を目標に、Global-ready Graduate Program (GRGP)はその前身となるプログラムを2007年度にスタートさせました。正課で理工系学生の研究推進に必要な実践的英語コミュニケーション能力を集中的に身につけさせるとともに、学生を世界各国の大学・研究機関・企業での留学に送り出しています。

[人] GRGP海外派遣者数実績



インドのトップクラス理工系大学との教育・研究交流

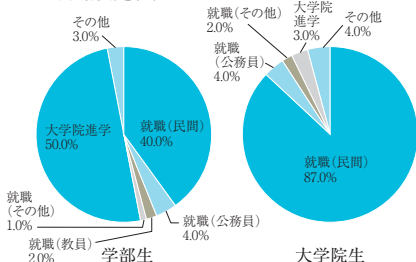
立命館大学理工系3学部・3研究科は、以前からインド工科大学ハイデラバード校(以下、IITH)やニッテ大学NMAMIT、シンピオシス国際大学など、インドの理工系大学と様々な学生・研究交流等を進めています。「インド工科大学ハイデラバード校PBLプログラム」では、インドが直面している様々な課題について、事前講義で調査・解決方法を提案し、IITHでの現地研修(7日間程度)において、企業訪問や施設見学、IITH学生とのPBL(Problem/Project Based Learning)を行います。PBLを進める中で課題を発見し、その解決策を見つけ出すプロセスの重要性を学び、思考力・推進力・チームワーク・英語でのコミュニケーション力等を身につけます。



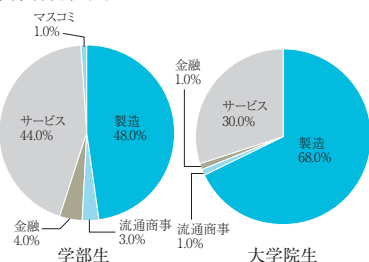
大学院修了者の就職実績 (2018年3月卒)

理工学の専門性を活かすためには、大学院修了が大変優位です。特に製造業ではその差は顕著です。また、「研究・設計・開発職」へ従事する割合についても、学部卒を大きく上回っています。

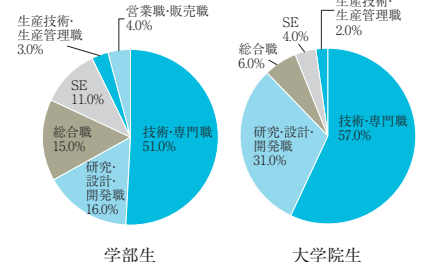
進路決定状況



業界別就職状況



職種別就職状況



理工学研究科についての詳細は

立命館 院 理工

検索



課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

情報理工学専攻

計算機科学コース

計算機科学コースでは、計算機アーキテクチャやソフトウェア技術、情報ネットワーク技術を中心にヒューマンインタフェースや認知工学といった分野の教育研究を行います。

人間情報科学コース

人間情報科学コースでは、言語・音声・画像などのメディア処理技術やバーチャルリアリティ、知能システムや人間工学、知能ロボティクスといった分野の教育研究を行います。

博士課程前期課程

情報理工学専攻

- 計算機科学コース
- 人間情報科学コース

博士課程後期課程

情報理工学専攻

DOCTOR 博士課程後期課程

情報理工学専攻

情報理工学専攻では、研究科に相應しい高度な専門の実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携や国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。



修了要件とカリキュラム

前期課程

科目分野	必要単位数
共通科目	4単位以上
固有専門科目	10単位以上
特殊研究科目	16単位
自由科目	—
合計	30単位以上

「グローバル科目」を2単位以上修得すること

後期課程

科目分野	必要単位数
特別研究科目	8単位以上
実習・演習科目	—
自由科目	—
合計	8単位以上



固有専門科目・特殊研究科目(前期課程)

科目区分	計算機科学コース	人間情報科学コース
固有専門科目	AIと機械学習特論 AIと機械学習特論演習 Webインテリジェンス特論 グローバルソフトウェア工学特論★ 計算機科学特論★ 言語メディア特論 システムLSI応用特論1~3 システムLSI設計特論1~2 システムプログラム特論 情報セキュリティ特論 情報通信科学特論★ ソフトウェア工学特論 知能機械特論 データサイエンス特論 データサイエンス特論演習 特殊講義 特殊講義(英語開講)★ ヒューマン・ファクターズ特論★ 分散システム特論 ヘルスケアシステム開発 ヘルスケアシステム開発演習 マルチエージェントシステム特論 モバイルシステム特論 ワイヤレスネットワーク特論	AIと機械学習特論 AIと機械学習特論演習 Webインテリジェンス特論 エンタテインメントコンピューティング特論★ 音声音響メディア特論 画像解析と機械学習特論★ 画像処理特論★ 言語メディア特論 システム制御特論 生体情報処理特論 知能機械特論 知能システム特論 データサイエンス特論 データサイエンス特論演習 特殊講義 特殊講義(英語開講)★ 脳機能情報処理特論 バイオエンジニアリング特論 ビジュアルコンピューティング特論 ヒューマンインタフェース特論 ヘルスケアシステム開発 ヘルスケアシステム開発演習 人工知能特論★
特殊研究科目	情報理工学特殊研究1~4	情報理工学特殊研究1~4
自由科目	技術者実践英語特論	技術者実践英語特論

特別研究科目(後期課程)

情報理工学特別研究1~6

★印は英語で開講する科目です。

2019年4月開設 超創人財育成プログラム NEW

2019年4月より、博士課程前期課程・後期課程の5年に対応した一貫制プログラム「超創人財育成プログラム」を新設しました。このプログラムでは、国内外の企業や機関と連携し、社会で専門性を活かしてイノベーションを起こす人材の育成を目指します。情報理工学研究科における研究分野を軸に、持続社会の課題の一つであるアクティブライフ分野の視点も身につけ、産業界・異分野等と連携した授業を展開する中で、多様性と柔軟性をもった思考力、新たな価値を生み出すことのできる実行力を養います。将来的には、企業・行政・医療機関・研究機関産官地の様々な機関の中核を担うイノベーター人材として活躍することを期待しています。

情報理工学研究科での研究活動



超創人財育成プログラム

A
アクティブ
ライフ分野

B
社会実装
教育

C
グローバル
教育



グローバル人材の育成

海外IT研修プログラム

高い英語運用能力をもつだけでなく、グローバルな視点から多面的に物事をとらえる能力は、国際的に活躍する技術者・研究者にとって必要不可欠です。国際社会を舞台に活躍できる人材育成を目標に掲げている当研究科では、一定の英語運用能力を有する学生を対象に、長期休暇期間を利用した海外IT研修プログラム(インド)を展開。日常生活から学びに至るまですべてを英語で行うトータル・イマージョンスタイルを採用し、より高いレベルの英語運用能力・異文化適応能力を養います。

海外インターンシップ・プログラム

インターンシップを通じて自らの専門分野を深め、実践的な能力を修得するとともに、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、将来の進路選択として確かな職業観を身につけることを目的としています。日系IT企業や現地IT企業でIT知識を活用することによって専門性を深めることができます。





びわこ・
くさつ

生命科学研究科

Graduate School of Life Sciences

課程とコース

MASTER 博士課程前期課程

生命科学専攻

応用化学コース

応用化学コースでは、物理化学・無機化学・分析化学・有機化学・生化学などを基盤として、物質の機能を解明するための、また、新物質の創製を実践するための化学的理論と技術を幅広く学びます。材料化学からエネルギー、生体関連物質まで、幅広い分野で研究を展開します。

【キーワード】

- 新物質 ●ナノテクノロジー ●環境分析 ●エネルギー変換 ●機能材料

生物工学コース

生物工学コースでは、生化学、分子生物学、微生物学などを基盤とし、環境、食料、資源、エネルギーに関連する生物工学理論や技術を幅広く学びます。また、生物機能、生態系の構造・機能の解析や生物由来生理活性物質の解明等の基礎研究や、これらを基盤とした環境、食料、資源、エネルギーに関する応用研究を展開します。

【キーワード】

- 微生物 ●バイオエネルギー ●分子生物学 ●環境浄化 ●生物資源 ●植物

生命情報学コース

生命情報学コースでは、コンピューター(情報科学)を利用して、生命活動の仕組みを解明するため、その基礎となる生命科学、情報科学、生物機能の解析技術に関する専門知識を幅広く学びます。その上で、遺伝情報、タンパク分子構造—機能相関、生体機能などの数理解析に関する研究を行い、生命科学、医学薬学、食品、情報技術に関連した研究を展開します。

【キーワード】

- システムバイオロジー ●ゲノム解析 ●情報科学 ●バイオインフォマティクス

生命医科学コース

生命医科学コースでは、多岐に渡る基礎医学の先端領域とその融合領域を学び、未知の生命現象や様々な疾患の発症機構を解明します。更に、先端技術で開発された医薬品などの新規医療技術の適切な評価と社会への応用方法も学び、広く生命医科学研究を展開します。

【キーワード】

- 再生医学 ●癌 ●脳科学 ●生活習慣病 ●生薬 ●稀少疾患 ●医用材料 ●医療政策

博士課程後期課程

DOCTOR 博士課程後期課程

生命科学専攻

生命科学専攻では、博士課程後期課程に相応しい高度な専門の実験・実習設備・機器環境を活用した教育・研究を展開します。また、国際連携、地域連携、国内外の産業界、学内関連研究科との連携等、様々な連携型研究を行います。

教員の研究内容については、生命科学研究科HPでご確認ください。

修了要件とカリキュラム

前期課程

科目区分	必要単位数	合計
共通科目	4単位以上	30単位以上
コア科目 専門科目 選択科目	10単位以上*	
研究科目	16単位	

*コア科目は3科目6単位以上修得する必要があります。

後期課程

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	—	8単位以上
研究科目	8単位以上	

専門科目(コア科目)(前期課程)

[応用化学コース]

構造物理化学特論
反応物理化学特論
物性・反応化学特論
無機構造物性化学特論
無機機能材料化学特論
X線分析化学特論
有機分子化学特論
有機機能材料化学特論
有機反応・構造化学特論
応用生物化学特論

[生物工学コース]

環境バイオテクノロジー特論
エネルギー・資源バイオテクノロジー特論
食料バイオテクノロジー特論
生物工学研究特論

[生命情報学コース]

ゲノム情報学特論
分子構造・機能学特論
数理生体機能学特論
分子設計学特論
生体分子ネットワーク特論
植物生理学特論

[生命医科学コース]

基礎生命医科学特論
応用生命医科学特論
先端生命医科学特論
生命医科学研究法概論

研究科目(前期課程)

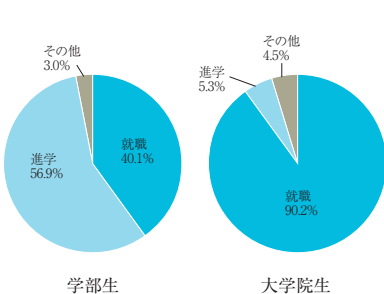
生命科学特殊研究1~4

研究科目(後期課程)

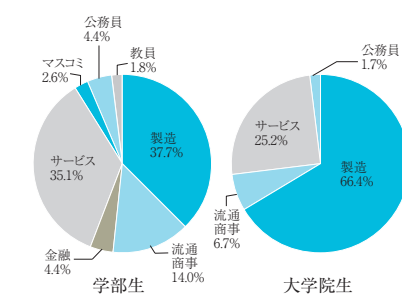
生命科学特別研究1~6

就職実績(2018年3月卒)

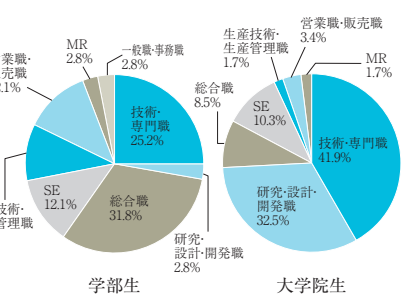
進路決定状況



業種別就職状況



職種別就職状況



生命科学研究科についての詳細は

立命館 院 生命科学

検索



研究科紹介

■ 研究科・専攻紹介・特徴

ライフサイエンス分野や医工学分野における研究の進歩や技術革新にともない、医療分野における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきています。薬学は主として薬という面から医療に貢献する学問分野ですが、医療の高度化と相まって薬学分野でも高度な人材育成が求められるようになってきました。

薬学研究科は、薬学の専門的知識と研究力を備え、使命感、倫理観を有する高度な薬剤師・医療人・研究者として、地域や社会に貢献できる有為な人材の育成を目的としています。また、医療分野の著しい進展や、超高齢化などの社会、医療環境の変化に順応し、高度医療においてさらに先端的・先導的役割を担う臨床能力、研究能力を備えた人材や、地域医療発展を先導できる人材を輩出することを目指しています。

上記目的を達成するために、本研究科には「医療薬学分野」と「病態生理解析分野」の2つの専門分野を設置していますが、それぞれの専門分野にとどまらず、幅広い領域の最先端の知識取得が可能となるような科目配置と研究体制を整備しています。また、高度薬剤師養成に向けて、滋賀医科大学・関西医科大学と連携して、医療現場の医師・薬剤師の指導のもと、がん化学療法、感染症治療、病院感染対策、妊婦・授乳婦に対する薬物療法の領域を中心に学べるプログラムも整備しています。



本専攻博士課程(4年制)では、次の2つの分野を設けて教育・研究を進めます(研究内容や修了後のキャリアに応じていずれかの分野を選びます)

医療薬学分野

医療薬学分野では、主に医薬品の適正使用を学ぶ臨床薬理学や医薬品情報学、臨床試験(治療)について学ぶ臨床試験学、病院感染などの予防や抗微生物薬の適正使用と管理を学ぶ病原微生物学・感染症学、医薬品の吸収・分布・代謝・排泄からなる一連の動態を体系的に学ぶ薬物動態学などが学問領域となります。

病態生理解析分野

病態生理解析分野では、疾病の成因とそれに対する薬物作用を研究し、創薬基盤の理解に繋げる学問分野、すなわち生化学、生理学、ゲノム科学や、医薬品や環境中の化学物質の生体への影響評価を学ぶ衛生化学、毒性学、生体分析学などが学問領域となります。

※本課程を修了しただけでは、各認定薬剤師や専門薬剤師になるための認定資格をとることはできません。



■ 修了要件およびカリキュラム

薬学研究科博士課程を修了するためには、4年間(標準修了年限)以上在籍するとともに、専門科目で14単位以上(医療薬学分野と病態生理解析分野の2つの分野のうち、選択した分野科目から10単位以上、選択しなかった分野科目から4単位以上)、特別研究科目から16単位修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格しなければなりません。

科目区分	必要単位数	合計
専門科目	14単位以上 (選択した分野科目から10単位以上、選択しなかった分野科目から4単位以上)	30単位
特別研究科目	16単位	



〈専門科目〉

医療薬学分野科目

科目名	単位
医療情報分析学特論	2
医薬品安全評価学特論	2
創剤学特論	2
病原微生物学・感染症学特論	2
分子生物薬理学特論	2
臨床治療学特論	2
高度薬剤師養成演習1	3
高度薬剤師養成演習2	3
高度薬剤師養成演習3	3

病態生理解析分野科目

科目名	単位
幹細胞生物学特論	2
生理・構造生物学特論	2
生活習慣病特論	2
薬用資源学特論	2
臨床副作用学特論	2
分子病態学特論	2

〈特別研究科目〉

科目名	単位
薬学特別研究1	4
薬学特別研究2	4
薬学特別研究3	4
薬学特別研究4	4

■ 過去の博士論文タイトル一例

腎臓におけるERMタンパク質の生理的役割に関する研究
ヒト人工多能性幹細胞由来シアロ糖タンパク質ポドカリキシンのグライコミクス研究





■ 経営学研究科の力

立命館大学大学院 経営学研究科では、これまでの経営学の体系的な学びを深めることに加え、「これからの経営学の可能性」を追究しています。そのために、世界・日本の学術・研究をリードする教授陣と実践的なプログラムを用意しています。あなたの将来の可能性をさらにここで伸ばしてみませんか？



■ 博士課程前期課程

前期課程では、「技術経営・戦略」「組織・人事」「マーケティング」「国際ビジネス」「会計学」「ファイナンス」「デザイン・マネジメント」などの分野で、これからの企業経営の展開を視野に先進的で多面的な教育を行っています。経営学に関する高度な専門知識および、会計や統計的処理、語学などに関する高度な技能をもち、組織の中で適切に知識と技能を活用できる人材を育成します。併せて、社会の要請に応え、正義と倫理をもち、グローバル化する社会の中で組織のリーダーシップを発揮しうる人間を育成します。

時代は未来の「あるべき社会」を創造し、それらを実現する力を持ったマネジメント人材を求めています。経営学研究科は、経営学の専門知識修得を中心にしつつ、幅広い学際的素養を身につける多様な学びと能動的な研究姿勢を支援する大学院教学を展開しています。



■ 前期課程での学修の進め方

前期課程での学修は修士論文の作成が集大成となりますが、経営学研究科では2回生から修士論文指導が始まるカリキュラムとなっています。1回生時は「基幹科目」「展開科目」の履修により経営学に関する理論の修得や、「研究方法科目」の履修による情報収集・分析手法の獲得など総合的な学力を身につけることが重要です。併せて、外国文献研究または英語開講科目を受講することにより、英語文献レビューと英語での学修を進めます。研究指導教員は各自の研究テーマにもとづく調整によって、1回生春学期中に決定します。「研究展開科目」を研究指導教員の指導のもと各自の研究テーマに沿って、1回生秋学期に履修します。2回生では、1回生時に修得した専門知識をもとに、修士論文の執筆が本格化します。春学期には中間報告会にて研究経過を報告し、2回生秋学期に研究成果を修士論文として仕上げます。

■ 博士課程後期課程

後期課程では、指導教員のもと、前期課程における研究を継続して研究論文を執筆し、学会誌への掲載や、学会での報告などによって深化させ、高度な研究能力を身につけ、将来にわたって研究活動を持続できる自立した研究者を育成します。

■ 主な開講科目一覧 前期課程

科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数	科目群	科目名	単位数
基幹科目	経営史I(アジア・日本)	2	研究方法科目	統計学1	2	特殊講義	特殊講義I~X	各2
	競争戦略	2		統計学2	2		研究指導科目	※「計量経済学入門」「質的調査法」、 「量的調査法」など種々な内容で開講
	マーケティング	2		研究方法論	2	特別演習1		2
	生産マネジメント	2		外国文献研究I~IV	各1	特別演習2		2
	組織科学	2		アカデミックライティング	2	Special Seminar 1		2
	経営財務	2	英語開講科目	International Business I	2	※英語基準留学生用		
	会計学	2		International Business II	2	Special Seminar 2	2	
ビジネス・エコノミクス	2	Finance	2	Marketing	2	※英語基準留学生用		
展開科目	アントレプレナーシップ	2	International HRM	2	キャリア開発科目	大学院コーオプ演習	2	
	金融・証券	2	Environmental Management	2		インターンシップ演習	2	
	経営史II(欧米)	2	Business Economics	2		海外インターンシップ	2	
	ビジネス倫理	2	Special Lecture	2				
	人的資源管理	2	※「Introduction to International Management」、 「Merger and Acquisitions in the frame of International Business」など種々な内容で開講					
	財務会計	2						
企業会計	2							
研究展開科目	技術経営・戦略研究	2						
	マーケティング研究	2						
	組織・人事研究	2						
	国際ビジネス研究	2						
	会計学研究	2						
	ファイナンス研究	2						
デザイン・マネジメント研究	2							

■ 過去の論文タイトル一例

- 博士課程前期課程 「集約会計情報を用いた実質GDP成長率における予測可能性の検討」
「ダイナミック・ケイバリティからみる中小企業の経営者のデザインマネジメント能力」
「マーケティングコミュニケーションにおけるSNSの活用—価値共創とファンベースビジネスを中心に—」
- 博士課程後期課程 「デスティネーション・マネジメントの理論的再検討—地域再生の核となるツーリズムの展開を巡って—」
「プロフェッショナルとしてのデザイナーの持つデザイン態度(Design Attitude)の探索的研究」





大阪
いばらき Graduate School of Policy Science

政策科学研究科

政策科学研究科目

公共政策関連科目

政策形成過程への視野を修得する科目が配置されています。政策過程は合意の形成過程であり、政策・施策の「社会的合理性」がこの科目群の主題となります。政治過程論、行政学、公共哲学、法政学を中心とする科目が配置されています。

環境開発関連科目

政策・施策の「科学的合理性」がとりわけ重要な意味をもつのは、環境・開発・都市の領域です。この科目群には、環境科学・都市工学・計画理論を中心とする科目が配置されています。

社会マネジメント関連科目

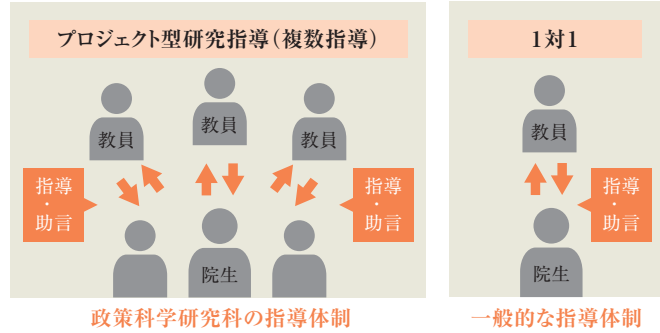
「市場的合理性」（効率性と組織マネジメント）は、営利企業はもちろんのこと、公共機関・非営利組織の課題を解決するための重要な視点です。この科目群には、経済学・経営学・社会学の知見を広く社会の諸部門の問題解決に接続させるための科目が配置されています。

共通科目

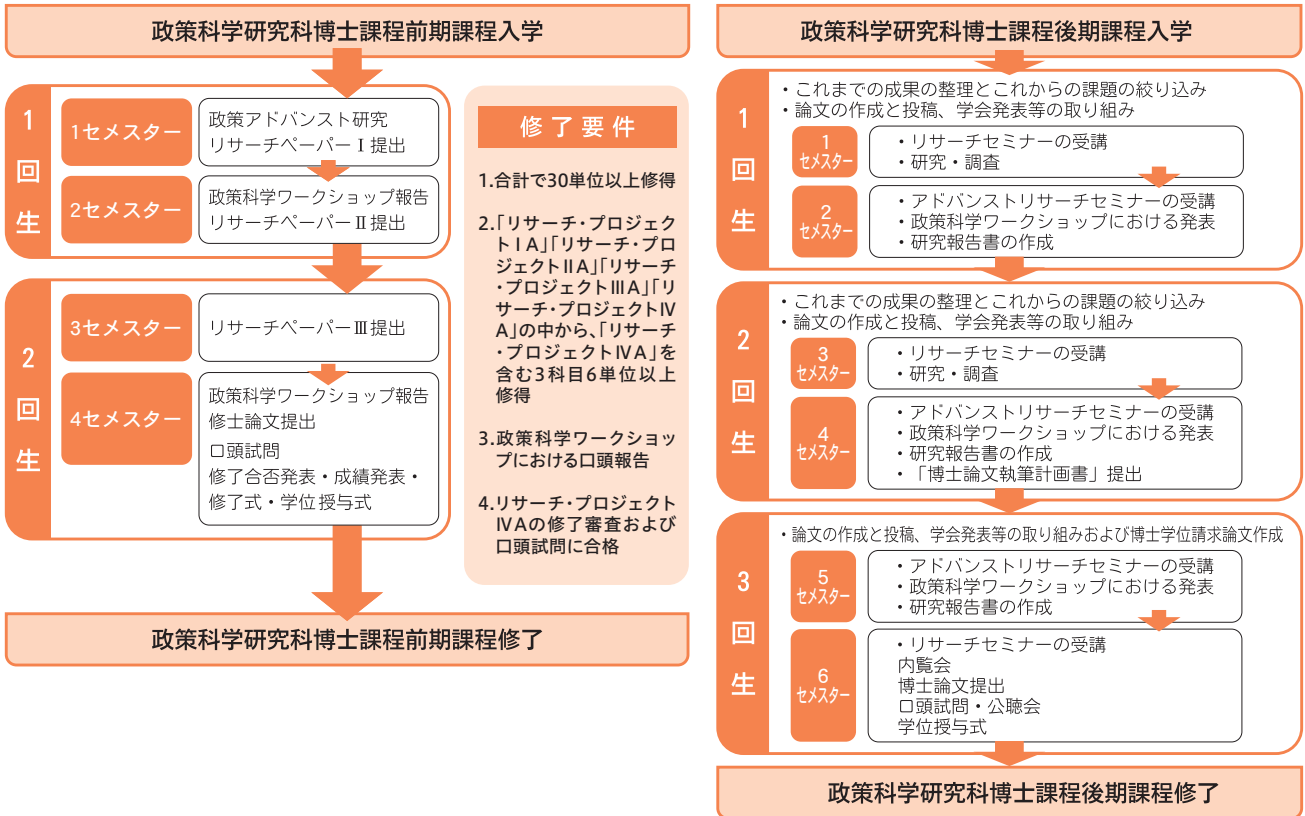
学知の総合としての政策科学の基礎を修得する科目、研究領域や研究課題を問わず必要とされるスキルを修得するための科目が配置されています。新しい学問分野である政策科学の基礎理論、基本的な分析手法を修得することができます。

政策課題に応じたプロジェクト型の研究指導体制

政策科学研究科は、領域横断的な教員の共同研究チームを組織し、それぞれのチームによる共同研究プロセスに院生が参加するプロジェクト型研究指導（PBL）の方法を採用しています。リサーチプロジェクトでは、一人の指導教員が一つの専門領域に特化した研究指導を行うのではなく、領域・テーマに共通の関心を持ちながらも、それぞれ異なる学問的背景を持つ複数の教員が院生の研究指導を行う集団的指導の方法を取り入れています。



研究指導フローチャート



過去の修士論文タイトル一例

<博士前期課程>
 ◇Silver democracy in Osaka Metropolis Plan Referendum - An Examination of the Theory ◇冷戦後のトランスナショナルネットワークと民族紛争 - コソボ紛争を事例として- ◇公的資金の地域経済への影響に関する研究 - 長野県飯田下伊那地区を事例に ◇二酸化炭素吸収促進に寄与する森林施策の評価 ◇アニメ作品の「聖地巡礼」を通じた中国人観光客の誘致策に関する研究 ◇Conflict Resolution over Coastal Resources : A Case Study of Mining, Fisheries, and Tourism in Bangka Belitung Province, Indonesia
 <博士後期課程>
 ◇A Study on Conventional Motorcycle Taxi's Demand in the Urban Fringes of Outer Metropolitan Area: Case Study in West Java, Indonesia (大都市圏外縁部における在来型バイクタクシー需要に関する研究:インドネシア西ジャワ州を事例として) ◇The Analysis of Government Spending on Education: Theory and Empirical Evidence from the Districts in Indonesia (政府の教育支出に関する分析:理論とインドネシアの県レベルデータから見る実証的証拠) ◇韓国政府による在日コリアンの包摂と排除-李承晩政権期を中心に- ◇大震災を想定した集中型観光客への公助対応フレームワーク(PSDRフレームワーク)による避難帰宅政策に関する研究 -世界遺産姫路城を事例として-

政策科学研究科についての詳細は

立命館 院 政策

検索



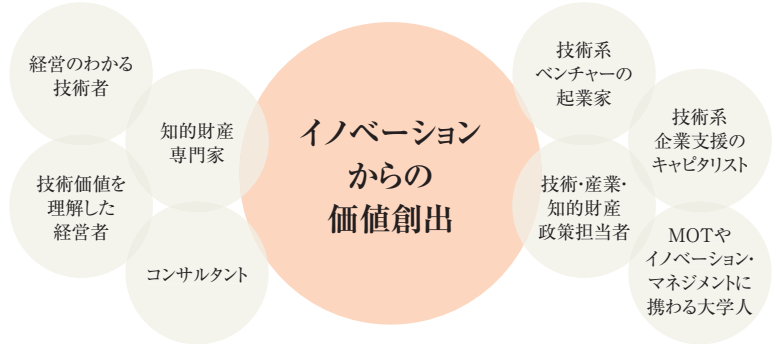


■ 技術経営 (MOT: Management of Technology) について

技術経営 (MOT: Management of Technology) とは技術を基盤とするとともにこれを活用する企業の経営のことです。したがって、技術経営学の対象は自動車産業やエレクトロニクス産業などの製造業はもとより、電気通信・電力・ガス・水道事業などに及んでいます。

MOTの実践事例

- 不確実性のマネジメント ● イノベーション・マネジメント
- 技術投資に関わる事業評価 ● 研究開発戦略の立案
- 技術を核とした新事業の創出 ● MOT人材開発
- 技術マーケティング
- 技術戦略、事業戦略および知財戦略の総合



■ テクノロジー・マネジメント研究科の特長

1. 専門職大学院ではなく研究型大学院である

技術基盤企業の組織やマーケティング、戦略経営、知的財産などに加えて技術戦略、製品開発戦略など技術経営にかかわる主要な分野を網羅したカリキュラム。専門職大学院ではなく一般の大学院として、研究を重視しながらも高度の専門知識を持つ人材の輩出を目指しています。さらに、グローバルな活躍を目指す専門的研究者を育成するために博士課程後期課程を設置しています。

2. 理論と実践を修得できる

専任教員のほとんどが博士学位取得者かつ実務経験者なので、理論と実務の両方を高いレベルで修得できます。また、多くの企業と提携し、それぞれの企業が抱える課題を学生が解決する課題解決型長期企業実習「プラクティカム」や、企業からの受託研究・共同研究などを通して、現実のビジネス現場で発生している課題を検討し、実践的に解決できる人材の育成に努めています。

3. 多彩なバックグラウンドを持つ学生

学部からの進学者、留学生、現役の社会人、企業等の出身者など、学生のバックグラウンドは多様。理学や工学系の学生は科学技術の知識をさらに生かすべく、文理の枠を超えて、イノベーションからの価値創出とあわせて、技術にかかわる事業経営についての理論や手法などを学ぶことができます。多彩なバックグラウンドを持つ学生同士の交流が多くの気づきをもたらします。

■ カリキュラム紹介 [2019年度]

〈博士課程前期課程〉

基礎科目	技術経営論I 技術経営論II 技術経営論III
コア科目	戦略的技術開発論 技術経営組織論 技術基盤企業のマーケティング 会計・財務 ファイナンス戦略 技術基盤企業のヒューマンリソースマネジメント 技術・知財関連法 知財戦略論 価値創出マネジメント 技術基盤企業のプロジェクトマネジメント 技術経営研究方法論 新技術および新事業の提案・企画・評価演習
プログラム科目	特殊講義(外書講読・英語ディスカッション) Technology Management I Technology Management II Technology Management III Special Lecture プラクティカムI プラクティカムII

展開科目	研究開発戦略 技術・事業評価論 技術倫理 技術経営史 サービスイノベーション 技術基盤企業の戦略経営 国際知的財産 企業リスクマネジメント 意思決定論 バリューチェーンマネジメント イノベーション戦略論 起業家戦略 ITマネジメント 管理会計概論 特殊講義(イノベーションダイナミクス) 先端科学技術とビジネス MOTキャリアデザイン 生産プロセスマネジメント 特殊講義(意思決定のためのデータ分析) 特殊講義(知財情報工学) 特殊講義(交渉戦略と実践) 技術系ベンチャー論 ヘルスケアマネジメント 特殊講義
------	---

研究指導科目	技術経営演習I 技術経営演習II 技術経営研究I 技術経営研究II
〈博士課程後期課程〉	
選択科目	特殊研究(統計データ解析・英文ジャーナル) 特殊研究(定性分析) 特殊研究(定量分析) 特殊研究(研究方法の実践) 特殊研究(統計特論) 特殊研究(Literature Review) 特殊研究(Research Methods) 特殊研究(Empirical Methods) 特殊研究(Independent Study) 特殊研究(Structural Analysis of Research Papers) 特殊研究
研究指導科目	特別研究I 特別研究II 特別研究III 特別研究IV 特別研究V 特別研究VI

理論と実践の橋渡し

■ 実務経験を持たない学生

「プラクティカム(課題解決型長期企業実習)」企業の現場の課題(事業計画、マーケティング、知的財産など)について、学生が指導教員と共に課題解決を行います。概ね3~6ヶ月間で研究成果を出し、実習先に報告と提案を行います。
(協力先)アビームコンサルティングなど約30社

■ 社会人学生

勤務先の業務課題を論文のテーマにできます。博士課程前期課程については、業務情報を開示することに問題がある場合は、学位論文の内容を非公表にすることも可能です。

■ 多様な研究分野と学位論文テーマ —過去の修士論文・博士論文テーマ例—

◇技術の期待度を用いた製品普及モデルの構築—ウェアラブルデバイスの市場規模予測— ◇360度全方位動画向けバーチャルリアリティシステムのコンセプト設計と評価 ◇医療機関におけるトヨタ生産方式導入の促進・阻害要因の調査 ◇医薬品市場における付加価値と売上との相関—利便性と売上との相関 ◇宇宙技術スピノフによる製品開発の成功要因 ◇民間航空機開発プロジェクトにおける遅延メカニズムの研究 ◇サポートベクター回帰を用いた特許分析 ◇電子デバイス事業における後発優位のメカニズム —イノベーションダイナミクスの与える影響— ◇バイオ医薬品の創世期における組織間連携の時系列分析—連携の目的とタイミングにおける日本と海外の違い— ◇ノウハウ保護のための特許制度と方法の発明の保護戦略—先使用権の法的解釈と方法の発明の保護戦略マルタの提案—





大阪

いばらき Graduate School of Management

経営管理研究科 [ビジネススクール]

ビジネスを創造するリーダーを育成

Feature 01 経営を基本から学ぶ

MBAのグローバルスタンダードに準拠した基礎科目で経営について1から学び、より応用的な展開科目、そして多彩な特殊講義を受講していきます。入学後に履修アドバイザーから履修方針について個別アドバイスを受けます。初めて経営を学ぶ人も不安なく学修を進められます。

Feature 03 問題関心を掘り下げる

「課題研究」(ゼミ)では、担当教員による集団指導・個人指導の下、自らのキャリアに関わるテーマについて研究を行います。研究の課題と内容が重要であり、最終レポートは必ずしも学術的な形式に沿う必要はありません。

Feature 02 実践力を養う授業

知識を身につけるだけでなく、実践のために必要なスキルやマインドセットを修得します。多彩な実務家教員からは多くの刺激が得られます。授業ではグループワークやプレゼンテーションの機会が多く、常に真剣勝負が求められます。

Feature 04 生涯にわたるネットワーク

共に学んだ仲間との関係は一生の財産となります。修了生の交流組織によるイベントやゼミ同窓会の活動も盛んに企画されています。研修生として登録すれば、図書館、学内データベース、電子メールを修了後も使用できます。

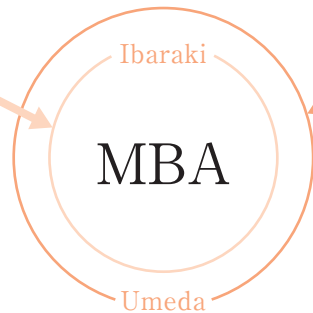
対象者別の2つのプログラム

キャリア形成プログラム

(学部卒業生(留学生含む)対象)

大阪いばらきキャンパス/平日昼間開講

- 4年制大学卒業生および就職後2年未満の方を対象とするプログラム
- ビジネスを創造するリーダーを将来目指し、ビジネスパーソンとして活躍するための知識と能力の向上が可能



マネジメントプログラム

(社会人対象)

大阪梅田キャンパス/平日夜間・土日開講

※一部朱雀キャンパス/平日夜間開講

- 4年制大学卒業後、勤続2年以上の方にふさわしいプログラム
- 経営者や経営幹部を志向するビジネスパーソンはもちろん、起業を検討している方、自分らしいキャリアを構築したい方が対象
- ビジネスを創造する際に求められるリーダーシップやマネジメント力の向上が可能

カリキュラム [2019年度]

	基礎科目(14単位以上必修)		展開科目 (特殊講義科目を除くプログラム指定の科目群から16単位以上必修)		演習科目 (4単位必修)	実習科目		
	企業経営の基礎的素養を身につけるための科目群		企業経営の各分野の専門的な力量を形成する科目群		ゼミナール	キャンパス外で学ぶ		
	A群(10単位以上必修)	B群	【ビジネス科目群】		課題研究I	インターンシップ		
マネジメントプログラム	競争戦略 マーケティング 組織行動 ファイナンス アカウンティング 企業分析 技術経営	国際政治経済 論理的思考とプレゼンテーション 企業倫理 統計学	【ビジネス科目群】				戦略コンサルテイング 組織変革 コマツウェイ 新時代の金融システムと人材創造 マインドフルネス 介護経営 医療経営 ビジネス開発 フードマーケティング ファッションマーチャングデザイン ほか	課題研究II
			特殊講義科目*					
			戦略ユニット					
			経営政策	国際経営戦略	オーナーシップ			
			アントレプレナーシップ	事業創造				
			組織ユニット					
			人的資源管理	キャリア開発				
			コーチング	異文化マネジメント				
			マーケティングユニット					
			マーケティングリサーチ	消費者行動				
商品開発	サービスマネジメント							
ファイナンスユニット								
M&A戦略	ストラクチャードファイナンス							
コーポレートファイナンス	投資戦略							
会計ユニット								
財務諸表	管理会計							
コーポレートガバナンス	租税法							
キャリア形成プログラム	競争戦略 マーケティング 組織行動 ファイナンス アカウンティング 企業分析 技術経営	国際政治経済 論理的思考とプレゼンテーション 企業倫理 統計学 経営リテラシー 会計リテラシー	【ビジネス科目群】		課題研究I	インターンシップ		
			特殊講義科目*					
			産業動態分析					
			キャリア開発					
			商品開発					
			マーケティングリサーチ	ビジネスプラン				
			アントレプレナーシップ	イノベーション戦略				
			異文化マネジメント					
			サービスマネジメント					
			【会計ファイナンス科目群】					
財務諸表	管理会計							
コーポレートファイナンス	M&A戦略と企業価値評価							
投資戦略	コーポレートガバナンス							

修了に必要な修得単位：46単位以上

進学実績 (立命館大学/立命館アジア太平洋大学から進学した者の出身学部)

立命館大学:経営学部、経済学部、産業社会学部、政策科学部、文学部、法学部、理工学部
立命館アジア太平洋大学:国際経営学部

経営管理研究科についての詳細は





3つの領域での多様なプログラム

博士課程前期課程

心理学領域

基礎心理学特論 認知心理学特論
教育心理学特論 発達心理学特論
社会心理学特論 健康心理学特論
司法・犯罪心理学特論
産業・組織心理学特論
教育評価・心理査定研究
家族心理学特論 老年心理学特論
心理学統計法 心理学研究法
心理学演習I II III IV

臨床心理学領域

臨床心理学特論I II 心理療法特論
臨床心理査定演習I II 社会病理学特論
臨床心理面接特論I II
学校臨床心理学特論 臨床心理地域援助特論
グループアプローチ 精神医学特論
臨床心理学基礎実習 臨床心理学実習
臨床心理学演習I II III IV

対人援助学領域

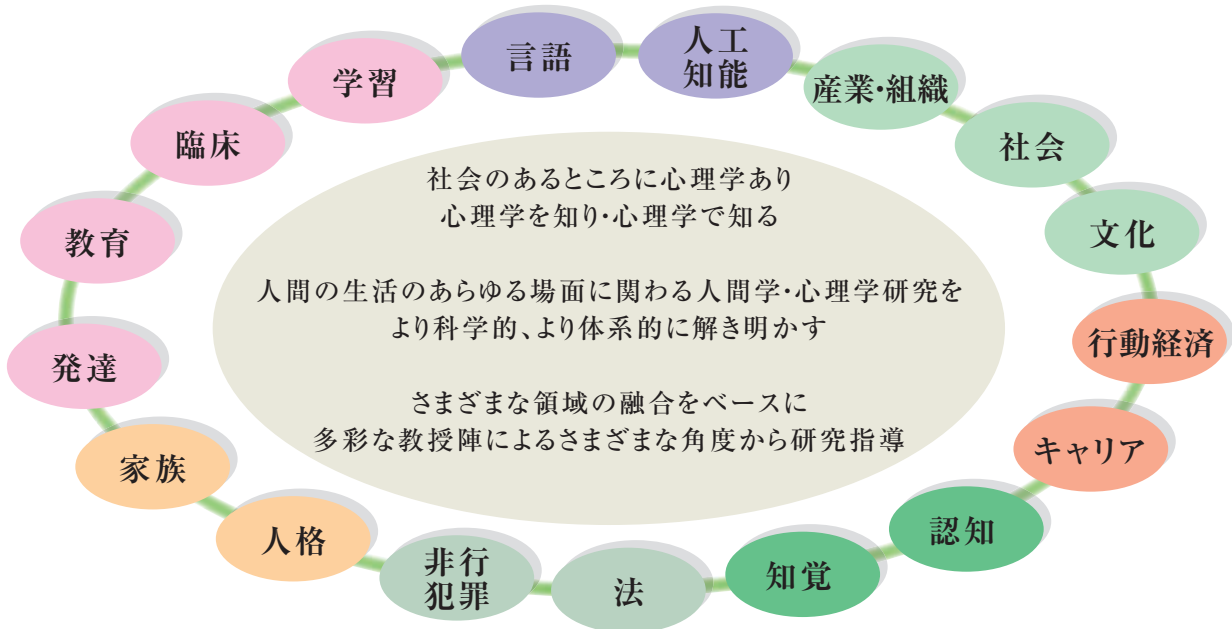
対人援助学研究法I II 臨床心理学研究
教授・学習学研究 学校カウンセリング研究
対人援助学特論 ソーシャルワーク研究
ユースワーク実践研究 司法臨床研究
対人援助技術研究 臨床倫理研究
生徒指導・進路指導研究 障害児教育研究
認知行動療法特論
対人援助学実習 インターンシップ
心理実践実習
対人援助学演習I II III IV

共通科目 社会のなかの人間科学 人間科学特論

博士課程後期課程

人間科学シンポジオンI II III 人間科学プロジェクト演習I II III IV V VI

特色ある多彩な研究領域



研究指導方法

学部からのストレート進学院生や留学生、社会人院生などの幅広い院生受入れを行うため、研究指導の現場においても相互に係わり合いを持ちながら、研究を推進していきます。それによって、より具体的な現場の実践とアカデミックな領域での理論との融合が期待できます。現社会人院生のための夜間開講や土曜日開講も取り入れております。

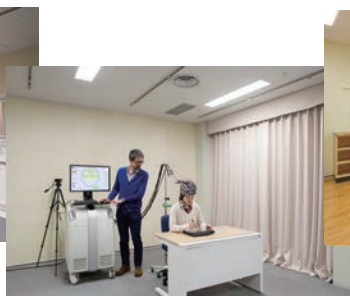
施設紹介



動物行動実験室



シールドルーム



脳機能画像分析装置



プレイルーム

人間科学研究科についての詳細は

立命館 院 人間科学

検索



研究科紹介



朱雀

法務研究科 [法科大学院]

School of Law

■ コースの紹介

法学未修者コース(3年制)

法学既修者コース(2年制)

※各コースは入学試験時の入試方式(受験科目)で判断されます。出身学部・学科とは関係ありません。

■ カリキュラムの紹介

法律基本科目

実務上生起する問題の合理的解決を念頭におきつつ、法の体系・理論を理解することが目的。主として研究者教員の指導のもと、憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法を中心に履修する。専門的な法知識の確実な習得を行う。

実務基礎科目

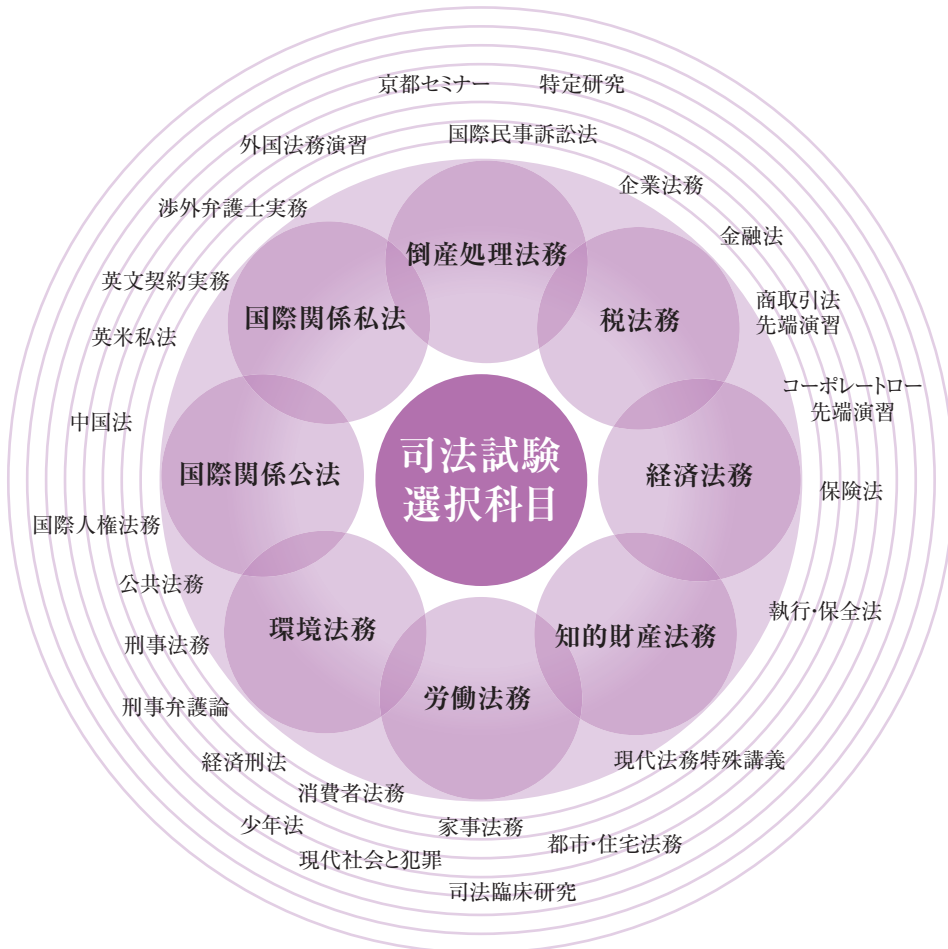
主として実務家教員が担当し、理論が実務にどう関わるかを学習する。3年次の実務基礎科目である3つの総合演習においては、研究者教員と実務家教員による共同指導のもとで、実体法と手続法とを統合した事例問題を検討し、現実の法領域横断的な問題、複合的問題を学習する。

基礎法学・隣接科目

法知識を批判的に検討・発展させていく創造的な思考力と、事実在即した具体的な問題解決に必要な法的な分析・議論能力の育成、豊かな人間性の涵養・向上に寄与する科目群。

BASICS

先端・展開科目 Speciality



※先端展開科目は8つの司法試験選択科目分野を中心とし、法曹としての専門性を身につける科目群を講義科目と演習科目をセットとして系統的に受講できるよう配置に努めています。

例えば、税法務I(2単位) + 税法務II(2単位) + 税法務演習(4単位)のように、それぞれの分野で8単位分の授業が展開されています。

法科大学院についての詳細は [立命館 法科大学院](#) [検索](#)



■ 教職研究科とは

教職研究科(教職大学院)は、急速に変化する社会の中で、新しく求められる高度な教育実践を行い、学校現場の課題に柔軟に対応できるよう、教員としての総合的な力を身につけるための専門職大学院です。

立命館大学は教員養成分野では、全国の私立大学の中でもトップクラスの実績があり、これまで全国各地に数千名の教員を輩出してきました。教職大学院を中核とした教員養成に軸足が移ろうとしている現代、立命館大学の教員養成の実績と到達点を土台として、さらに大学院レベルでの教員養成の充実をはかるために、2017年4月に大学院教職研究科が開設されました。これまでに法学部、経済学部、産業社会学部、文学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、スポーツ健康科学部と様々な学部から教職研究科に進学しています。他大学出身者、公立学校や本学附属校の現職教員なども進学しており、多様なバックグラウンドをもつ院生同士の学び合いによって、教員としての力を高めていくことができます。

■ 立命館大学大学院教職研究科の特長

教職研究科では、「理論と実践の融合・往還」をキーワードにしています。長期実習や授業内でのフィールドワークを通して、理論の実践化と実践の理論化をはかる学修が展開されます。本学教職研究科は京都府、京都市、滋賀県、大阪府の4教育委員会と連携しており、多彩な学校での実習やフィールドワークを経験することができます。

また、小学校、中学校、高等学校のどの学校種にも対応するカリキュラムを用意しています。さらに、「臨床教育」、「教育方法・学習科学」、「国際教育」の3コースを設定しており、入学後にいずれかのコースを選択し分野ごとの専門性を深めることができます。

■ 立命館大学大学院教職研究科の科目例

科目区分		科目名	
共通基本科目		カリキュラムデザインの理論と方法 教育方法・学習科学の理論と実践 生徒指導・教育相談実践演習 学校マネジメントの理論と実践 現代の学校と教育実践 国際教育の理論と方法	など
専門実習科目		教職専門研修1~4	
コース科目	コース共通科目	学校内外の連携による児童生徒支援	など
	コース必修科目	臨床教育	学校教育相談・学校カウンセリングの理論と方法
		教育方法・学習科学	授業におけるICT活用
		国際教育	世界の子どもと教育支援

(教職研究科で取得可能な専修免許状)

小学校専修免許状

中学校専修免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語、宗教)

高等学校専修免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、書道、保健体育、家庭、情報、工業、商業、福祉、英語、宗教)

*専修免許状の取得には、一種免許状を取得していることが条件となります。



学校での実習の様子



学部新卒院生と現職教員院生が共に学ぶ様子



教職研究科共同研究室



教職研究科教室

教職研究科についての詳細は

立命館 教職研究科

検索



立命館大学大学院に関する情報の入手方法

■ まずはホームページ、各種イベントで立命館大学大学院のことを知ってください。

イベント情報

立命館大学大学院への進学をお考えの方に向けて、各種イベントを実施しています。是非ご参加ください。

● 研究科合同入試説明会

申込・参加費不要 / 過去問題閲覧可 / 個別相談可

本説明会は研究科合同のイベントとして、春季と秋季に各キャンパスにて開催します。

- ◆ 全体説明会・大学院の概要や特徴、学費・奨学金、進路・就職、キャリア支援等の説明。
- ◆ 研究科個別相談会・研究科紹介、研究指導体制、カリキュラム、入試等の説明。
直接研究科の教職員に相談ができる機会です。
また、現役の大学院生と懇談できる場合もあります。

(日程によって参加研究科および個別相談会の体制や実施方法は異なります。)

詳細はホームページで確認してください。)

● 研究科別入試説明会

研究科主催で個別説明会を実施します。

開催日程については、ホームページを確認してください。

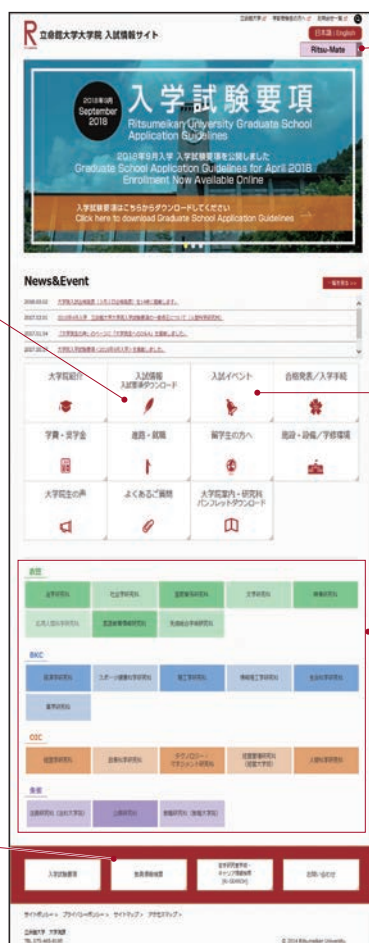
● 大学院ウィーク

各キャンパスにて「大学院」に関わる企画を集中した期間に実施します(大学院授業・施設見学、教員・修了生・大学院生との懇談や相談会、大学院に関わるセミナーなど)。低回生にも大学院のことを知ってもらう機会ですので、お気軽にご参加ください。日程や企画内容はホームページで確認してください。(一部の企画は学内生に限る場合があります。2018年度は11月に実施。)



ホームページ

立命館大学大学院に関する情報について、「立命館大学大学院 入試情報サイト」から確認することができます。入学試験要項のダウンロードやインターネット入学システム「Ritsu-Mate」へのリンクの他、イベント情報、過去問題、教員情報等についても掲載しています。



入学試験要項
(出願書類)
過去の入試結果
過去問題

インターネット入学システム
「Ritsu-Mate」へのアクセス

研究科合同入試説明会
研究科別説明会
大学院ウィーク

研究科ホームページ
へのリンク

◆立命館大学
研究者学術情報データベース
こんな研究はどの研究科でできるの？
この先生はどの研究科？
などが調べられます。
・キーワード検索
・名前検索
・所属別一覧
・研究分野別一覧 など…

教員情報の検索

ホームページの情報・構成は
変更されることがあります。
○2020年4月入学の入学試験要項は
2019年4月下旬公開予定です。
○2020年9月入学の入学試験要項は
2019年10月下旬公開予定です。

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

URL : <http://www.ritsumei.ac.jp/gr/>



出願から入学まで

※以下は一般的な例であり、入学試験方式によって手順が異なることがあります。

入学試験要項を確認する



研究科別の「入学試験要項」と、出願・受験・入学手続等の注意事項について記載した「入学試験要項(別冊)」があります。
〈「入学試験要項」の入手方法〉
「立命館大学大学院 入試情報サイト」からダウンロードできます。

- **入学が可能な時期を確認しよう!**
4月入学、9月入学があります。研究科、専攻、コース、入学試験方式などで募集時期が異なります。
- **入学試験方式を調べよう!**
各研究科によって様々な入学試験方式があります。出願資格などをご確認の上、ご自身にあった入学試験方式で出願をしてください。
- **出願資格は必ず確認しよう!**
出願資格を満たさない場合、事前の個別審査によって出願を認める場合があります。ご自身の経歴が出願資格を満たすものであるかどうかをよくご確認の上、個別審査を受ける必要がある方は、個別審査申出期限までに申出を行ってください。
- **必要な出願書類を揃えよう!**
出願される研究科、入学試験方式によって、出願書類が異なります。準備に時間がかかる書類もあるため、早めにご確認いただき、用意をしてください。
- **出願期間・試験日・選考方法をチェック!**
試験日が重なっていないければ、複数の研究科の入学試験、複数の入学試験方式に出願することが可能です(各出願資格を満たしていること)。※一部の入学試験を除く

出願手続をおこなう



- **出願しよう!**
立命館大学大学院インターネット入学システム「Ritsu-Mate」(リツメイト)で、出願登録、検定料支払、志願票の印刷など、各種出願手続を行っていただいた後、出願書類を書面で郵送(一部研究科は事務室への持参も可)します。

受験に備える



- **過去の入学試験問題をチェック!**
大学院課(衣笠・BKC)、OIC学びステーション、立命館プラザ名古屋、東京キャンパス、大阪梅田キャンパス、および各研究科の事務室において過去2年度分の入学試験問題を閲覧することができます。複写および事務室外への持ち出しはできません。なお、著作権等の理由により一部閲覧できない場合があります。各研究科の事務室では当該研究科の過年度入学試験問題のみ閲覧できます。また、「立命館大学大学院 入試情報サイト」でも、過年度入学試験問題の一部をご覧いただけます。

受験



- **受験票、受験番号を確認しよう!**
受験票は試験日の約1週間前から「Ritsu-Mate」にてダウンロードできます。書類選考など、試験日の設定のない入学試験の場合は、合格発表日の約1週間前から「Ritsu-Mate」にて受験番号の確認ができます。
- **試験予備日に注意!**
災害等により「試験日」に入学試験を実施できないと大学が判断した場合、「試験予備日」に入学試験を延期することがあります。
「試験予備日」に入学試験を延期する場合は「Ritsu-Mate」等で告知します。

合格発表

- **合格発表を確認しよう!**
合格発表日の10:00(日本時間)に、「立命館大学大学院 入試情報サイト」上に合格者受験番号一覧を掲示します。また、インターネット入学システム「Ritsu-Mate」にログインをして、可否結果を確認することもできます。ただし、これは受験生の便宜を考慮したものであり、正式な可否の発表は可否結果通知の郵送により行います。

入学手続

- **入学手続は期間内に…**
合格者には、入学手続期間までに「入学手続要項」を送付します。入学手続期間はあらかじめ入学試験要項で確認できますので、必ず手続期間内に入学手続を行ってください。

入学式・オリエンテーション

- **新生生のためのスタートアップサイトを確認しよう!**
入学式、オリエンテーションでは、これからの大学院生活を送るにあたり大切な情報が発信されます。入学式、オリエンテーションのご案内などは、「新生生のためのスタートアップサイト」にて随時通知されます。
※「新生生のためのスタートアップサイト」については合格者にお知らせします。

アクセス

(2019年3月現在)

各キャンパスへの
交通機関



キャンパス	交通機関	所要時間	備考	
衣笠CAMPUS	JR・近鉄・地下鉄 京都駅 (烏丸中央口)	市バス (京都駅前) 50	42分 立命館大学前(終点)	
		快速205	36分 立命館大学前(終点)	
		205	38分 衣笠校前 徒歩10分	
	阪急 西院駅	JRバス (京都駅)	高雄・京北線	30分 立命館大学前
		市バス (西大路四条)	205 快速202 快速205	13分 衣笠校前 徒歩10分 15分 立命館大学前(終点)
	阪急 大宮駅	京福 (西院駅)	嵐山本線・北野線 (稚子ノ辻乗換)	22分 等持院駅 徒歩6分 22分 龍安寺駅 徒歩6分
		市バス (四条大宮)	52 55	25分 立命館大学前(終点)
	京阪 三条駅 地下鉄 三条京阪駅	JRバス (四条大宮)		18分 立命館大学前
		市バス (三条京阪前)	12 15 51 59	53分 立命館大学前(終点) 34分 立命館大学前(終点) 36分 立命館大学前(終点) 40分 立命館大学前
	JR・地下鉄 二条駅	市バス (二条駅前)	15 52 55	約20分 立命館大学前(終点)
		JRバス (二条駅前)		14分 立命館大学前
	J R 円町駅	市バス (西ノ京門町)	快速202 快速205	8分 立命館大学前(終点)
		市バス (円町)	15 臨	10分 立命館大学前(終点) 9分 立命館大学前(終点)
		JRバス (円町)	204 205	5分 衣笠校前 徒歩10分
		JRバス (円町)		8分 立命館大学前
びわこくさつ CAMPUS (BKC)	京阪 中書島駅	京阪バス (京阪中書島)	直行便 35分 土日祝・学休日は運行しません。	
	J R 大阪駅	JR 新快速 50分	20分 近江鉄道バス (南草津駅) 立命館大学行き 立命館大学経由 飛鳥グリーンビル行き	
	J R 京都駅	JR 新快速 20分		
	JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄(京都駅経由) 70分		
	J R 三ノ宮駅	JR 新快速 70分		
大阪いばらき CAMPUS (OIC)	J R 大阪駅	JR 快速 11分	J R 茨木駅 徒歩 5分	
	阪急 梅田駅	阪急 準急 18分	阪急 南茨木駅 徒歩10分	
	モノレール 門真市駅		モノレール 宇野辺駅 徒歩 7分	
	モノレール 大阪空港駅		モノレール 宇野辺駅 徒歩 7分	
	J R 京都駅	JR 新快速 12分	JR 高槻駅 快速 5分	J R 茨木駅 徒歩 5分
	J R 三ノ宮駅	JR 快速 41分	J R 茨木駅 徒歩 5分	
	京阪 枚方市駅	京阪バス (枚方市駅北口)	45分	立命館大学(岩倉公園前)
阪急 茨木市駅	京阪バス (阪急茨木)	7分	立命館大学(岩倉公園前)	
大阪梅田 CAMPUS (大阪富国生命 ビル5F・14F)	J R 大阪駅	JR南口	徒歩 5分	
	阪急・阪神 梅田駅	阪急中央改札口/阪神東改札口	徒歩 5分/徒歩 3分	
	地下鉄御堂筋線 梅田駅	南改札口	徒歩 3分	
	地下鉄谷町線 東梅田駅	北東改札口	徒歩 1分	
朱雀CAMPUS	JR・近鉄・地下鉄 京都駅	JRまたは地下鉄(烏丸御池乗換)	JR・地下鉄 二条駅 徒歩 2分	
	阪急 梅田駅	阪急	徒歩10分	

キャンパスを結ぶシャトルバスも運行中 正課、また課外活動に参加する本学学生のために、衣笠キャンパス、びわこくさつキャンパス(BKC)、大阪いばらきキャンパス(OIC)を結ぶシャトルバスを運行しています。

アクセス方法の詳細は、上記QRコードを読み込みホームページで確認してください。

博士課程教育 超創人財 育成プログラム

産学融合によりアクティブライフ社会を超創する人材育成

変わる、社会。変わる、博士。

社会に求められる能力は、知力や技術だけではない。
自ら創造し、発見し、解決し、実行できる人材が求められている。
社会とつながりながら未知の課題へ挑戦し、イノベーションを創出する。



2020年度 第2期
プログラム受講生募集

受講説明会は
7月頃～を予定

超創人財育成プログラムとは

所属研究科の学びに加えて、企業と連携しながら「アクティブライフ*分野」を中心に学びを進める、他分野研究科連携型の5年一貫制博士教育プログラム。

*アクティブライフ:全ての人が生活の質を向上させ、豊かな生活を営むこと

所属研究科における学び

各研究科での学びを通じて、専門性を高め、
研究力・思考力を深める。

<受講可能研究科>

- 人間科学 ● 先端総合学術 ● 文
- 生命科学 ● テクノロジー・マネジメント
- 情報理工 ● スポーツ健康科学
- 理工 ● 経済
- 経営 ● 薬



超創人財育成プログラム

アクティブライフ分野

所属研究科における研究分野とアクティブライフ分野を連携。
専門性と柔軟性を持った研究力を養成。

異分野融合・グローバル

異なる分野、文化、年代の「課題」と「研究」をつなぎ、解決をはかる。
国際ワークショップ、短期海外留学などを実施し、価値観と視野を広げる。

社会実装教育

企業から学び、企業とともに研究する。学外メンター*の指導を受け、研究の社会実装を追究。

※各企業の第一線で活躍する企業人が指導者として加わる

- ① エグゼクティブレクチャー
経営層からのレクチャーを受け社会実装課題を学ぶ
- ② プロジェクトマネジメント
企業課題の解決策をグループで検討・提案する
- ③ 新事業開発
新規事業の創出方法を学ぶ
- ④ 課題解決型長期実践実習
インターンシップを実施し
課題探索・戦略立案力を養う
- ⑤ イノベティブ・アントレプレナー実習
会社を組織し、新たな製品・
サービスを社会に提供する

企業等のコンソーシアム

※連携先はホームページをご参照ください。

産学官地で教育・研究を促進する連携
コンソーシアムを発足。

加盟組織等と連携し、研究力向上や
キャリア形成、共同研究につなげる。

5年間の学び

1年次	2年次	3年次	4年次	5年次
● エグゼクティブレクチャー	● プロジェクトマネジメント ● 海外実習	● 企業実習(インターンシップ) ● 新事業開発	● 海外実習	● イノベティブ・ アントレプレナー実習 (企業運営実習)
多様性	創造力	柔軟性	グローバル力	実行力
企業から学び、企業とともに研究する(超創人財育成プログラムでの学び)				
所属研究科	修士論文	思考力	技術力	博士論文
研究力・思考力を深める(所属研究科での学び)				
専門性				

経済支援モデル

- 奨学金(1・2年次…月額5万円, 3~5年次…審査の結果に応じて、支給額を決定*1)
- TA (Teaching Assistant)、RA (Research Assistant) の給与*1
- 企業からの共同研究費獲得*1
- 大学院生のための奨学金・研究支援制度*2

*1 受給の有無、金額については個人によって異なります。
*2 詳細は本大学院案内18ページをご参照ください。

修了後の人材像

- **イントレプレナー人材**: 企業内の資源を活用し、新規事業を開発: 組織のミッションを理解し、機器・設備・制度を創出
- **アントレプレナー人材**: 新たな価値を創造: あらゆる分野・文化を融合し、課題を解決するプロセスを社会に提案
- **グローバル/地域人材**: グローバルや地域の発展を先導: 国際・地域社会の情勢を把握し、課題の解決に挑戦

プログラムの詳細、参加方法についてはホームページをご確認ください。

<http://www.ritsumeit.ac.jp/gr/aldp/>



立命館大学 大学院

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
大学院課 衣笠キャンパス 至徳館 4F
Tel. 075-465-8195

立命館大学 大学院 入試情報サイト

検索

詳しい情報はホームページをご覧ください。 <http://ritsumeit.ac.jp/gr/>
本内容に掲載されている内容については、変更または中止となる場合があります。

